

エネルギー政策に関する市民意識調査

【 報 告 書 】

令和2（2020）年4月

柏崎市総合企画部電源エネルギー戦略室

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果	
□	回答者ご自身のことについて	
▶	設問 1 性別について	2
▶	設問 2 年齢について	2
▶	設問 3 職業について	3
□	エネルギー政策に関することについて	
▶	設問 4 エネルギーのまちづくりについて	4
▶	設問 5 4つの基本方針について	8
▶	設問 6 6つのプロジェクトイメージについて	12
▶	設問 7 地域エネルギー会社について	16
▶	設問 8 環境エネルギー関連産業について	20
▶	設問 9 エネルギー政策について	24
▶	設問 10 柏崎刈羽原子力発電所について	28
▶	設問 11 廃炉産業の育成について	32
▶	設問 12 ご意見・ご提案について	36
III	別添資料	
▶	依頼文	
▶	調査票	
▶	別紙資料	

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は、平成30（2018）年3月に策定した「柏崎市地域エネルギービジョン」及び柏崎刈羽原子力発電所に関して、市民の考え方を調査し、市のエネルギー政策実施にいかすことを目的とするものです。

2 調査内容

□ 回答者ご自身のことについて

- ▶ 設問 1 あなたの性別について、あてはまる項目に☑を入れてください。
- ▶ 設問 2 あなたの年齢について、あてはまる項目に☑を入れてください。
- ▶ 設問 3 あなたのご職業について、あてはまる項目一つに☑を入れてください。

□ エネルギー政策に関することについて

- ▶ 設問 4 別紙資料1ページに記載の「本ビジョン」では、将来像の実現イメージを掲げ、再生可能エネルギーや次世代エネルギーの活用、環境エネルギー産業の育成に努め、豊かで持続可能なまちを目指しています。このようなエネルギーのまちづくりについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。
- ▶ 設問 5 別紙資料2ページに記載の4つの基本方針を掲げ、エネルギーのまちづくりを進めています。この4つの方針のうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。
- ▶ 設問 6 別紙資料3ページに記載の6つのプロジェクトイメージでは、「本ビジョン」の実現に向けた「柏崎らしさ」をいかした取組（プロジェクト）を実施した後の実現イメージを示しています。この6つのプロジェクトイメージのうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。
- ▶ 設問 7 別紙資料4ページに記載の「地域エネルギー会社」が設立されることで次のことが期待できます。あなたが期待することは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。
- ▶ 設問 8 「本ビジョン」で目指す、新たな環境エネルギー関連産業の創出について、あなたが期待する産業はどれですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。
- ▶ 設問 9 「本ビジョン」で目指す将来像の脱炭素社会である「エネルギーのまち柏崎（3.0）」に向けたエネルギー政策として、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。
- ▶ 設問 10 柏崎刈羽原子力発電所1号機から7号機までは、今後どうあるべきだと、あなたは思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。
- ▶ 設問 11 必ず訪れる原子力発電所の廃炉を見据え、市内で廃炉産業を育成することについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。
- ▶ 設問 12 エネルギー政策、柏崎市地域エネルギービジョンに関して、自由なご意見やご提案などをお聞かせください。

3 調査の設計

- ❖ 調査対象 : 柏崎市に居住する18歳以上の男女
- ❖ 調査方法 : 郵送による配布、郵送回収
- ❖ 標本数 : 3,000人
- ❖ 抽出方法 : 無作為抽出法
- ❖ 調査期間 : 令和2年(2020年)2月14日～3月2日

4 回収結果

- ❖ 配布数 : 3,000人
- ❖ 有効回収数 : 1,243人
- ❖ 回収率 : 41.4%

5 集計結果の見方

- ❖ 百分率(%)は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、回答率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ❖ 複数回答については、回答率の合計が100%を超える場合があります。
- ❖ 図表中に示すnは、回答率算出上の基数(標本数)です。
- ❖ 本文・表・グラフは、表示の都合上調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果

□ 回答者ご自身のことについて

設問1

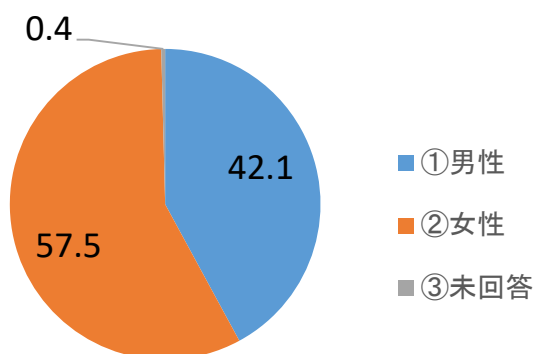
あなたの性別について、あてはまる項目に☑を入れてください。

設問1 性別について

n = 1,243

項目	件数[件]	割合[%]
①男性	523	42.1
②女性	715	57.5
③未回答	5	0.4
④無効回答	0	-
計	1,243	100.0

設問1 (単位:%)



設問2

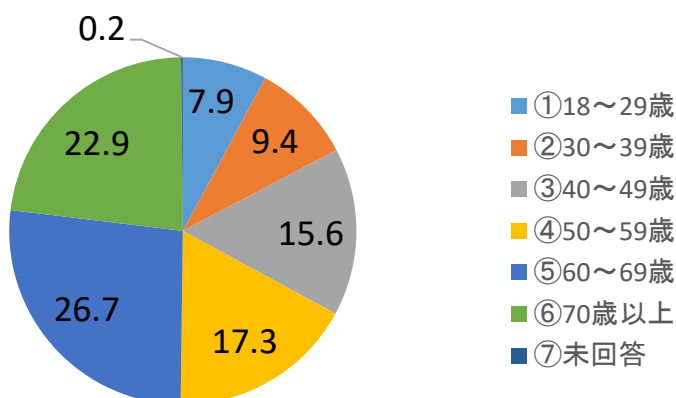
あなたの年齢について、あてはまる項目に☑を入れてください。

設問2 年齢について

n = 1,243

項目	件数[件]	割合[%]
①18～29歳	98	7.9
②30～39歳	117	9.4
③40～49歳	194	15.6
④50～59歳	215	17.3
⑤60～69歳	332	26.7
⑥70歳以上	285	22.9
⑦未回答	2	0.2
⑧無効回答	0	-
計	1,243	100.0

設問2 (単位:%)



設問3

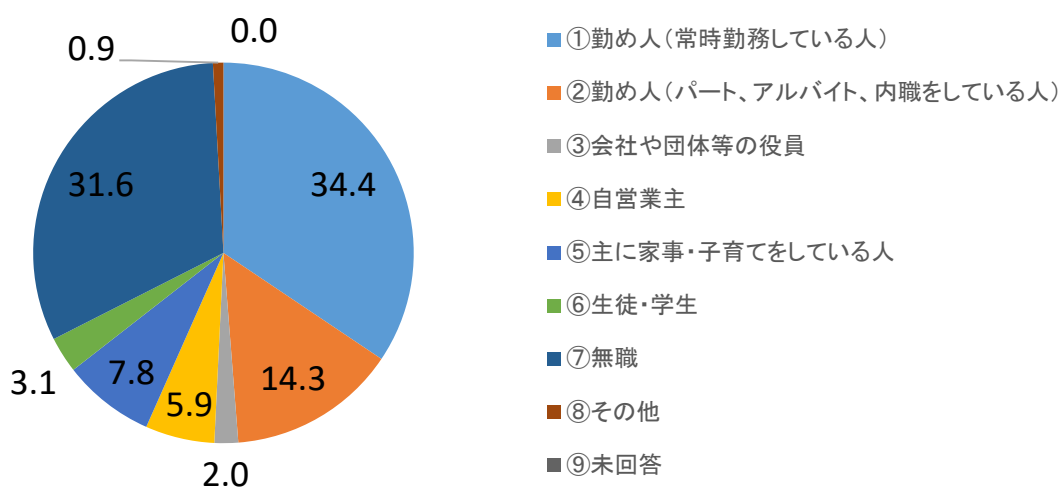
あなたのご職業について、あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問3 職業について

n = 1,241

項目	件数[件]	割合[%]
①勤め人(常時勤務している人)	427	34.4
②勤め人(パート、アルバイト、内職をしている人)	178	14.3
③会社や団体等の役員	25	2.0
④自営業主(個人で事業(農業含む。)を営んでいる人や自由業の人)	73	5.9
⑤主に家事・子育てをしている人	97	7.8
⑥生徒・学生	38	3.1
⑦無職	392	31.6
⑧その他	11	0.9
⑨未回答	0	0.0
⑩無効回答	2	-
計	1,243	100.0

設問3 (単位:%)



□ エネルギー政策に関することについて

設問 4

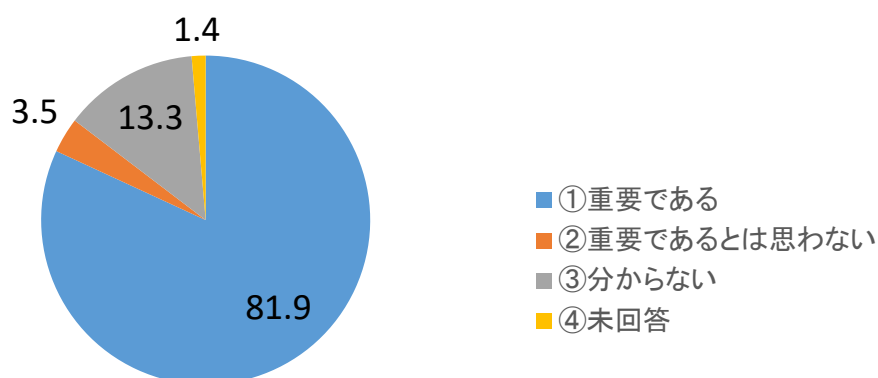
別紙資料 1 ページに記載の「本ビジョン」では、将来像の実現イメージを掲げ、再生可能エネルギーや次世代エネルギーの活用、環境エネルギー産業の育成に努め、豊かで持続可能なまちを目指しています。このようなエネルギーのまちづくりについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問4 エネルギーのまちづくりについて、どう思うか

n = 1,242

項目	件数[件]	割合[%]
①重要である	1,017	81.9
②重要であるとは思わない	43	3.5
③分からない	165	13.3
④未回答	17	1.4
⑤無効回答	1	-
計	1,243	100.0

設問4 (単位:%)



エネルギーのまちづくりについては、「重要である」が81.9%と最も高く、「分からない」が13.3%、「重要であるとは思わない」が3.5%、「未回答」が1.4%の順となった。

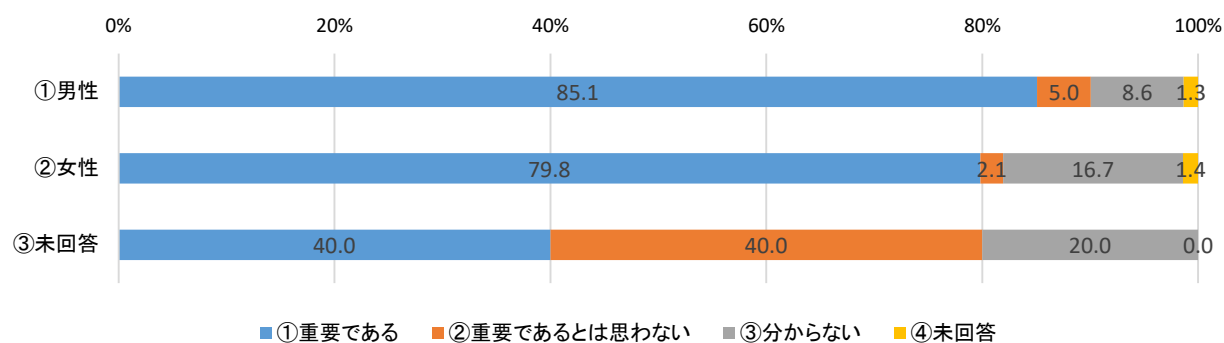
【性別】

設問4(エネルギーのまちづくりについて、どう思うか) × 設問1(性別)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①男性	445	26	45	7	0	523
②女性	570	15	119	10	1	715
③未回答	2	2	1	0	0	5
④無効回答	0	0	0	0	0	0
計	1,017	43	165	17	1	1,243

設問4 × 設問1



性別によるエネルギーのまちづくりについては、男性・女性ともに「重要である」との回答が約8割であった。また、男性の方が「重要である」の割合は高い。

「重要であるとは思わない」との回答は「男性」5.0%、「女性」2.1%と2倍以上の開きがあった。

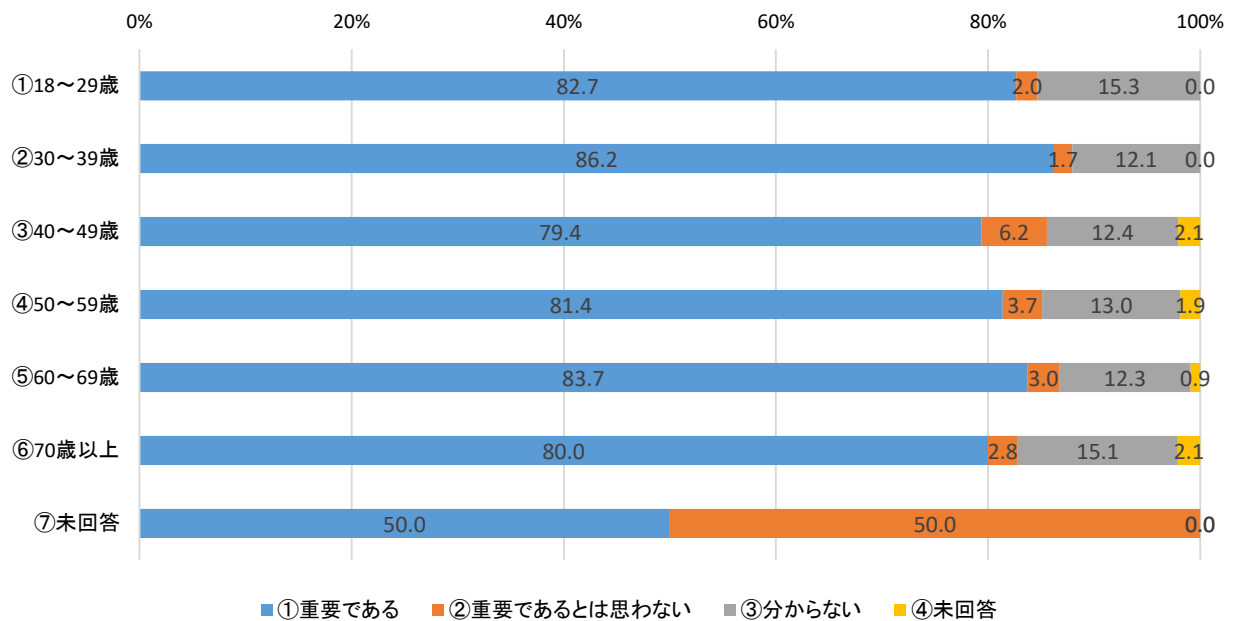
【年齢別】

設問4(エネルギーのまちづくりについて、どう思うか) × 設問2(年齢)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①18～29歳	81	2	15	0	0	98
②30～39歳	100	2	14	0	1	117
③40～49歳	154	12	24	4	0	194
④50～59歳	175	8	28	4	0	215
⑤60～69歳	278	10	41	3	0	332
⑥70歳以上	228	8	43	6	0	285
⑦未回答	1	1	0	0	0	2
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0
計	1,017	43	165	17	1	1,243

設問4 × 設問2



年齢別によるエネルギーのまちづくりについては、「重要である」との回答した割合が最も高いのは「30～39歳」の86.2%であった。

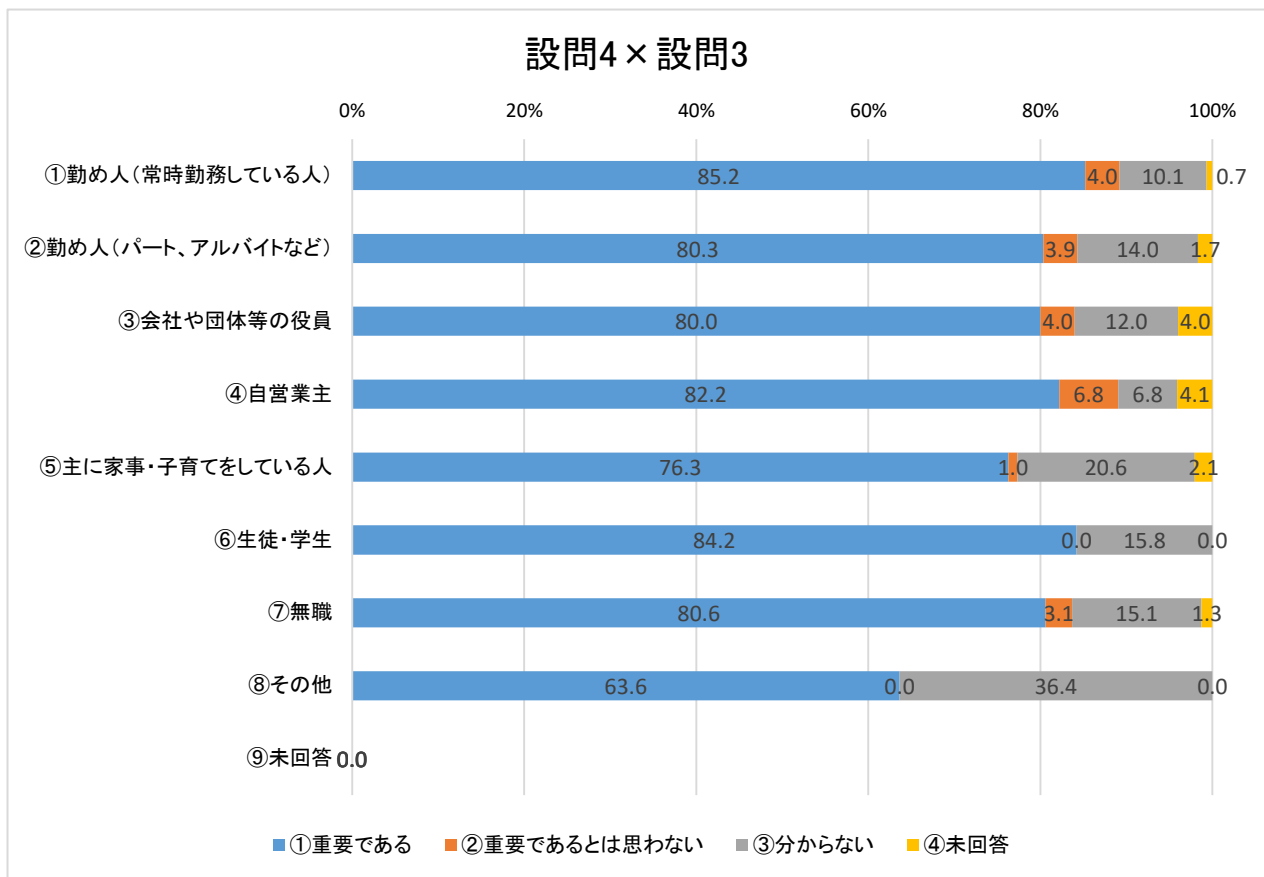
「重要であるとは思わない」と回答した割合が最も高いのが「40～49歳」の6.2%であり、他の年代と比較して2～3倍程度高くなっている。

【職業別】

設問4(エネルギーのまちづくりについて、どう思うか) × 設問3(職業)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	363	17	43	3	1	427
②勤め人(パート、アルバイトなど)	143	7	25	3	0	178
③会社や団体等の役員	20	1	3	1	0	25
④自営業主	60	5	5	3	0	73
⑤主に家事・子育てをしている人	74	1	20	2	0	97
⑥生徒・学生	32	0	6	0	0	38
⑦無職	316	12	59	5	0	392
⑧その他	7	0	4	0	0	11
⑨未回答	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	2	0	0	0	0	2
計	1,017	43	165	17	1	1,243



職業別によるエネルギーのまちづくりについては、「重要である」と回答した割合が最も高いのが「勤め人(常時勤務している人)」で85.2%、次いで「生徒・学生」が84.2%であった。また、「生徒・学生」で「重要であるとは思わない」は0.0%となった。

「重要であるとは思わない」と回答した割合が最も高かったのが、「自営業主(個人で事業(農業含む。)を営んでいる人や自由業の人)」で6.8%であった。

「主に家事・子育てをしている人」は「分からない」と回答した割合が20.6%となっている。

設問 5

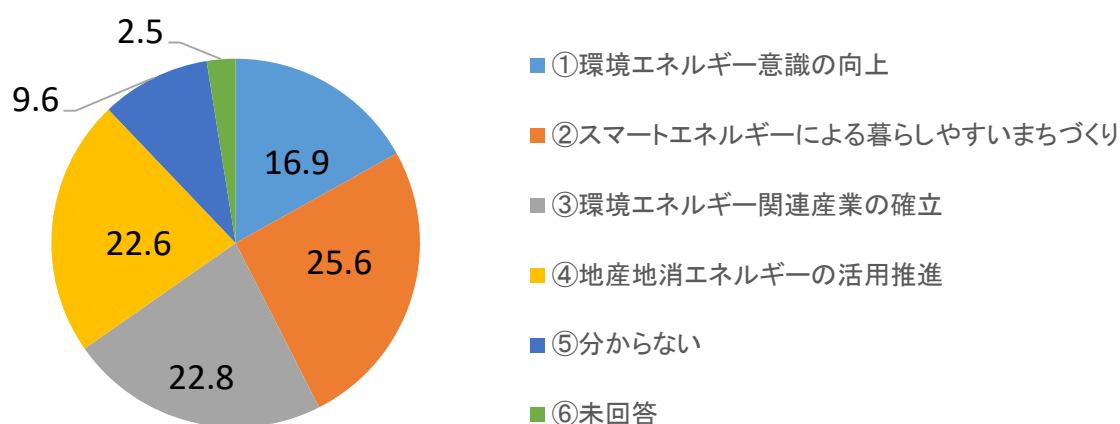
別紙資料 2 ページに記載の 4 つの基本方針を掲げ、エネルギーのまちづくりを進めています。この 4 つの方針のうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問5 4つの基本方針について、期待するものはどれか

n = 1,230

項目	件数[件]	割合[%]
①環境エネルギー意識の向上	208	16.9
②スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり	315	25.6
③環境エネルギー関連産業の確立	280	22.8
④地産地消エネルギーの活用推進	278	22.6
⑤分からない	118	9.6
⑥未回答	31	2.5
⑦無効回答	13	-
計	1,243	100.0

設問5 (単位:%)



4つの基本方針について期待するものは、「スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり」と回答した割合が25.6%と最も高く、次いで「環境エネルギー関連産業の確立」が22.8%、「地産地消エネルギーの活用推進」が22.6%「環境エネルギー意識の向上」が16.9%、「分からない」が9.6%の順となった。

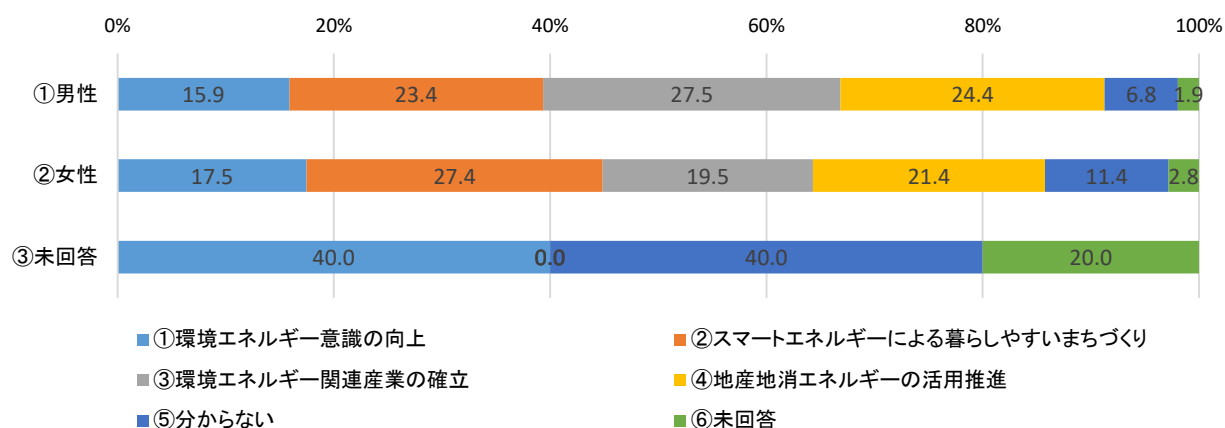
【性別】

設問5(4つの基本方針について、期待するものはどれか) × 設問1(性別)

[単位: 件]

項目	①環境エネルギー意識の向上	②スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり	③環境エネルギー関連産業の確立	④地産地消エネルギーの活用推進	⑤分からない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①男性	82	121	142	126	35	10	7	523
②女性	124	194	138	152	81	20	6	715
③未回答	2	0	0	0	2	1	0	5
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	208	315	280	278	118	31	13	1,243

設問5 × 設問1



性別による4つの基本方針について期待するものは、「男性」の回答した割合で最も高かったのは「環境エネルギー関連産業の確立」で27.5%、「女性」の回答した割合で最も高かったのは「スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり」で27.4%であった。

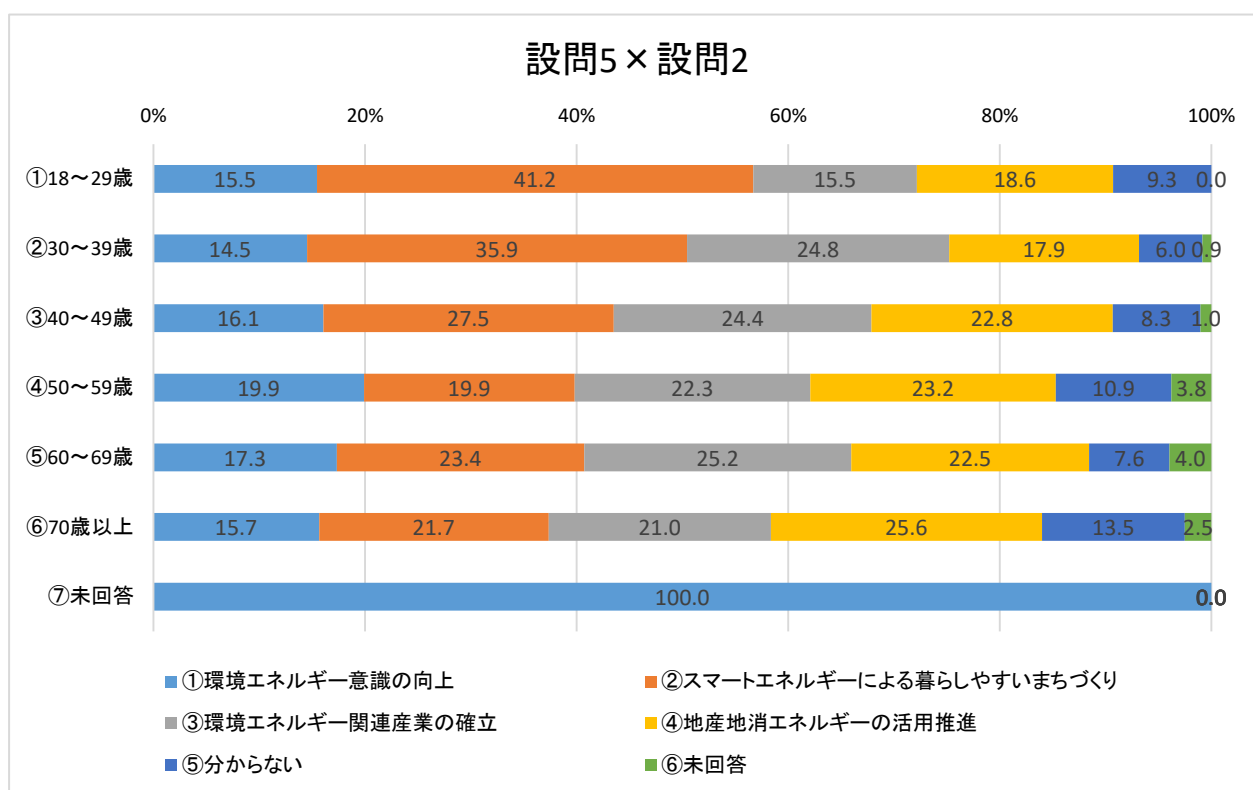
「分からない」と回答した割合では、「男性」6.8%に対して、「女性」は11.4%であり、「男性」よりも「女性」が高い傾向にあった。

【年齢別】

設問5(4つの基本方針について、期待するものはどれか) × 設問2(年齢)

[単位: 件]

項目	①環境エネルギー意識の向上	②スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり	③環境エネルギー関連産業の確立	④地産地消エネルギーの活用推進	⑤分からない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①18～29歳	15	40	15	18	9	0	1	98
②30～39歳	17	42	29	21	7	1	0	117
③40～49歳	31	53	47	44	16	2	1	194
④50～59歳	42	42	47	49	23	8	4	215
⑤60～69歳	57	77	83	74	25	13	3	332
⑥70歳以上	44	61	59	72	38	7	4	285
⑦未回答	2	0	0	0	0	0	0	2
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	208	315	280	278	118	31	13	1,243



年齢別による4つの基本方針について期待するものは、「18～29歳」「30～39歳」で「スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり」の割合が高く、40歳以上では、39歳以下と比較して「地産地消エネルギーの活用推進」の割合が高くなっている。

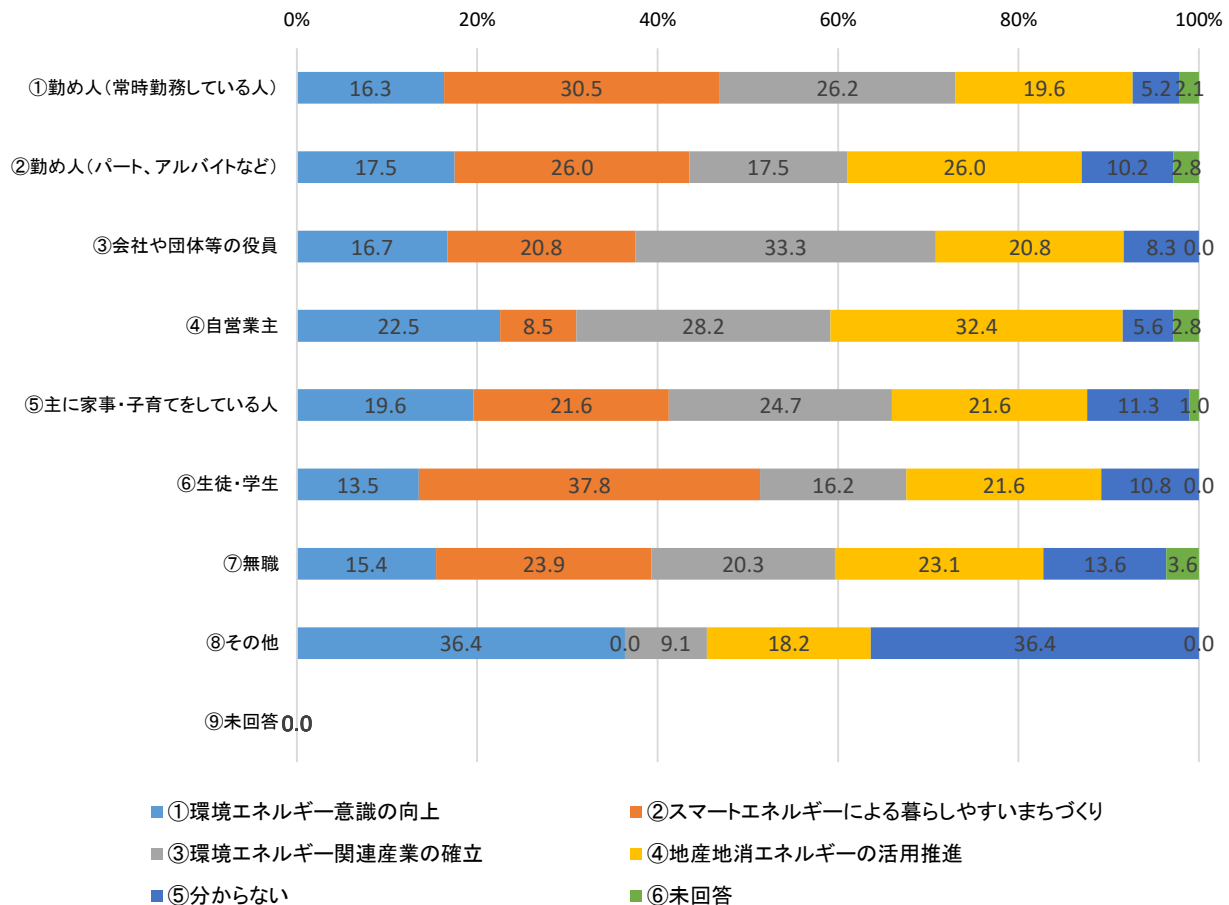
【職業別】

設問5(4つの基本方針について、期待するものはどれか) × 設問3(職業)

[単位: 件]

項目	①環境エネルギー意識の向上	②スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり	③環境エネルギー関連産業の確立	④地産地消エネルギーの活用推進	⑤分からない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	69	129	111	83	22	9	4	427
②勤め人(パート、アルバイトなど)	31	46	31	46	18	5	1	178
③会社や団体等の役員	4	5	8	5	2	0	1	25
④自営業主	16	6	20	23	4	2	2	73
⑤主に家事・子育てをしている人	19	21	24	21	11	1	0	97
⑥生徒・学生	5	14	6	8	4	0	1	38
⑦無職	60	93	79	90	53	14	3	392
⑧その他	4	0	1	2	4	0	0	11
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	0	1	0	0	0	0	1	2
計	208	315	280	278	118	31	13	1,243

設問5 × 設問3



職業別による4つの基本方針について期待するものは、「スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり」の割合が最も高いのが「生徒・学生」で37.8%、次いで「勤め人(常時勤務している人)」が30.5%となっており、一番低い割合は「自営業主(個人で事業(農業含む。))を経営している人や自由業の人)」の8.5%であり、約4倍の開きがあった。

「環境エネルギー関連産業の確立」の割合で最も高いのは、「会社や団体等の役員」で33.3%、「地産地消エネルギーの活用推進」の割合で最も高いのは、「自営業主(個人で事業(農業含む。))を経営している人や自由業の人)」で32.4%であった。

設問 6

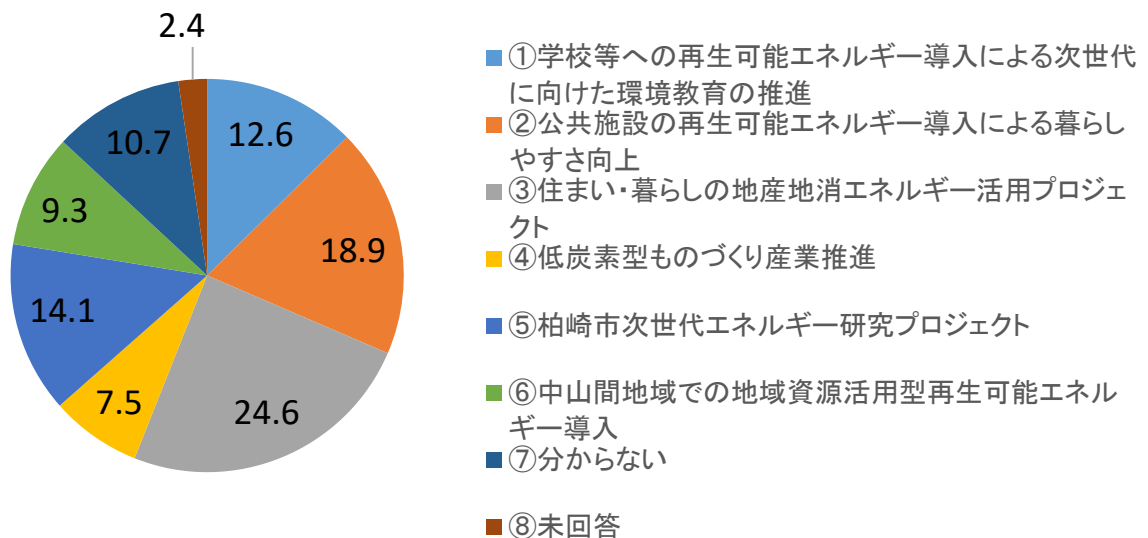
別紙資料 3 ページに記載の 6 つのプロジェクトイメージでは、「本ビジョン」の実現に向けた「柏崎らしさ」をいかした取組（プロジェクト）を実施した後の実現イメージを示しています。この 6 つのプロジェクトイメージのうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問 6 6 つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれか

n = 1,230

項目	件数[件]	割合[%]
①学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進	155	12.6
②公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上	232	18.9
③住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト	302	24.6
④低炭素型ものづくり産業推進	92	7.5
⑤柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト	173	14.1
⑥中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入	115	9.3
⑦分からない	132	10.7
⑧未回答	29	2.4
⑨無効回答	13	-
計	1,243	100.0

設問 6 (単位:%)



6 つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれかは、「住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト」が 24.6% と最も高く、「公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上」が 18.9%、「柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト」が 14.1% と続いた。

「低炭素型ものづくり産業推進」は 7.5% と最も低かった。

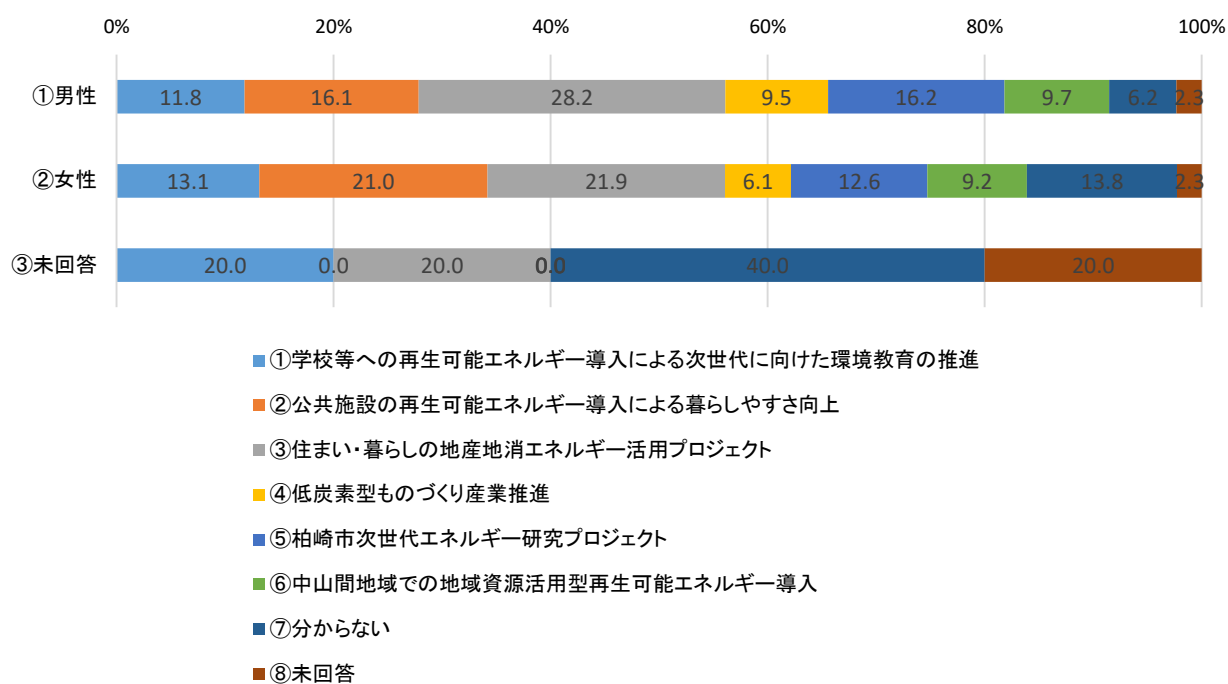
【性別】

設問6(6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれか) × 設問1(性別)

[単位: 件]

項目	①学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進	②公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上	③住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト	④低炭素型ものづくり産業推進	⑤柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト	⑥中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入	⑦分からない	⑧未回答	⑨無効回答	総計
①男性	61	83	146	49	84	50	32	12	6	523
②女性	93	149	155	43	89	65	98	16	7	715
③未回答	1	0	1	0	0	0	2	1	0	5
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	155	232	302	92	173	115	132	29	13	1,243

設問6 × 設問1



性別による6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれかは、男性・女性ともに「住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト」が最も高く、「男性」は次いで「柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト」、「公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上」の順となった。

「女性」は次いで「公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上」、「分からない」の順となった。

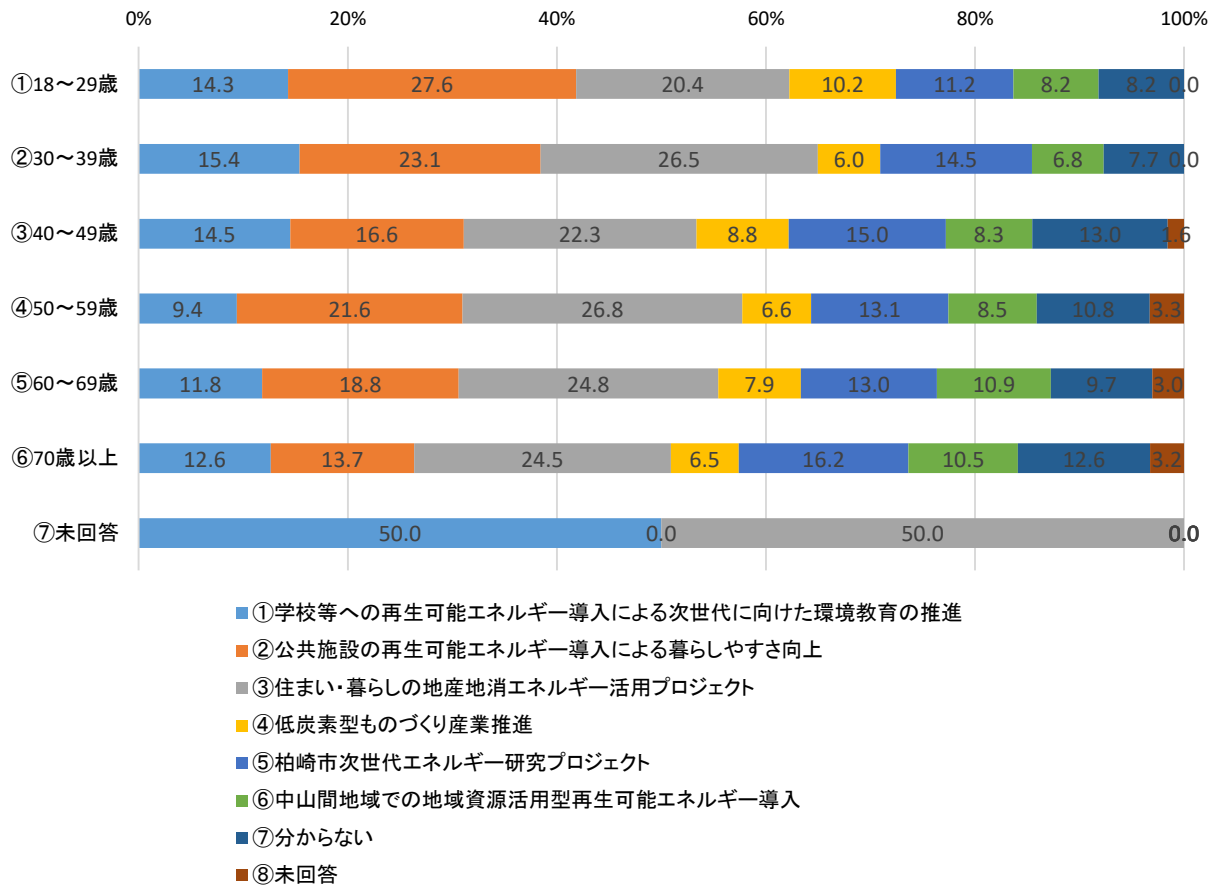
【年齢別】

設問6(6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれか)×設問2(年齢)

[単位:件]

項目	①学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進	②公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上	③住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト	④低炭素型ものづくり産業推進	⑤柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト	⑥中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入	⑦分からない	⑧未回答	⑨無効回答	総計
①18～29歳	14	27	20	10	11	8	8	0	0	98
②30～39歳	18	27	31	7	17	8	9	0	0	117
③40～49歳	28	32	43	17	29	16	25	3	1	194
④50～59歳	20	46	57	14	28	18	23	7	2	215
⑤60～69歳	39	62	82	26	43	36	32	10	2	332
⑥70歳以上	35	38	68	18	45	29	35	9	8	285
⑦未回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	155	232	302	92	173	115	132	29	13	1,243

設問6×設問2



年齢別による6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれかは、39歳以下の年代で「公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上」との回答した割合が高く、30歳以上の年代においては「住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト」との回答した割合が高くなっている。

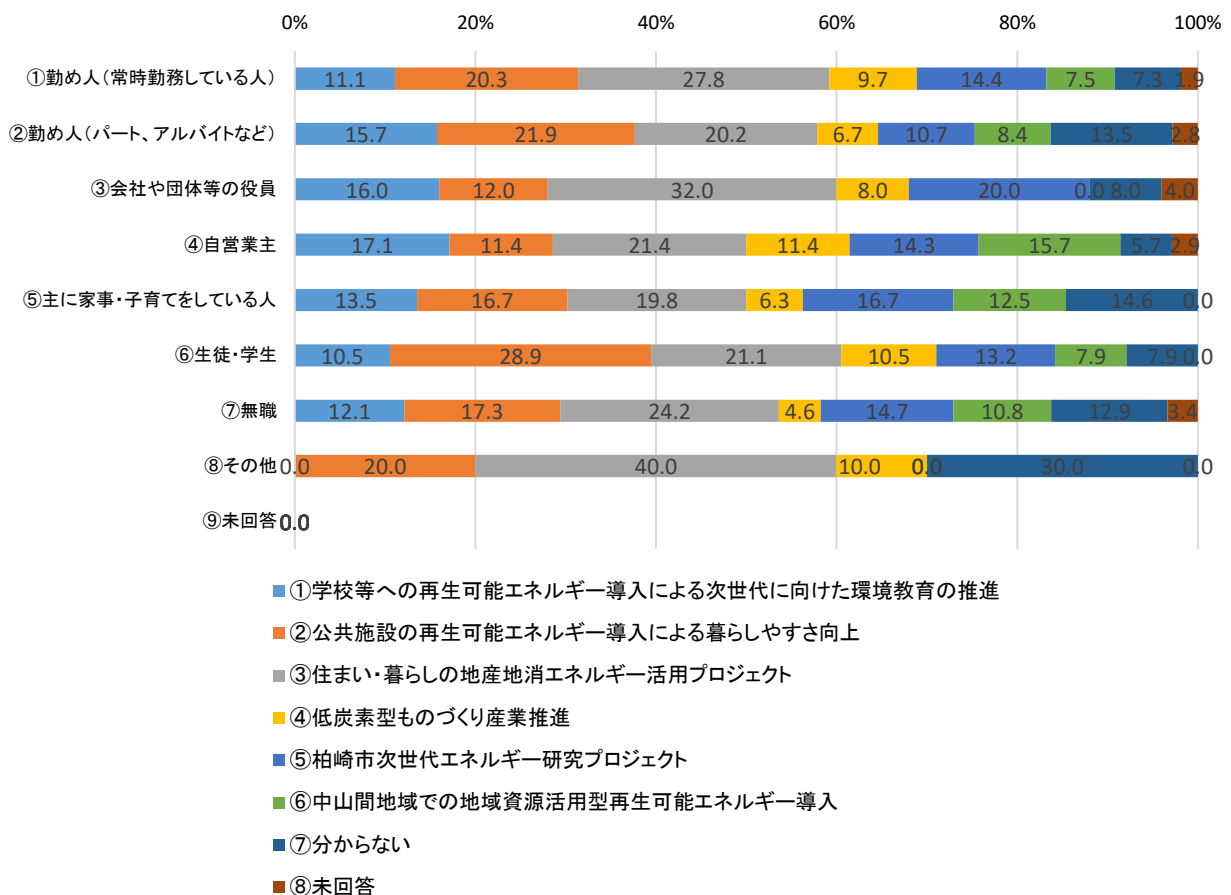
【職業別】

設問6(6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれか) × 設問3(職業)

[単位: 件]

項目	①学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進	②公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上	③住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト	④低炭素型ものづくり産業推進	⑤柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト	⑥中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入	⑦分からない	⑧未回答	⑨無効回答	総計
①勤め人(常時勤務)	47	86	118	41	61	32	31	8	3	427
②勤め人(パート、アルバイトなど)	28	39	36	12	19	15	24	5	0	178
③会社や団体等の役員	4	3	8	2	5	0	2	1	0	25
④自営業主	12	8	15	8	10	11	4	2	3	73
⑤主に家事・子育て	13	16	19	6	16	12	14	0	1	97
⑥生徒・学生	4	11	8	4	5	3	3	0	0	38
⑦無職	47	67	94	18	57	42	50	13	4	392
⑧その他	0	2	4	1	0	0	3	0	1	11
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
計	155	232	302	92	173	115	132	29	13	1,243

設問6 × 設問3



職業別による6つのプロジェクトイメージについて、期待するものはどれかは、「勤め人(パート、アルバイト、内職をしている人)」「生徒・学生」は「公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上」と回答した割合が一番高く、それ以外の属性では「住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト」と回答した割合が最も高かった。

設問 7

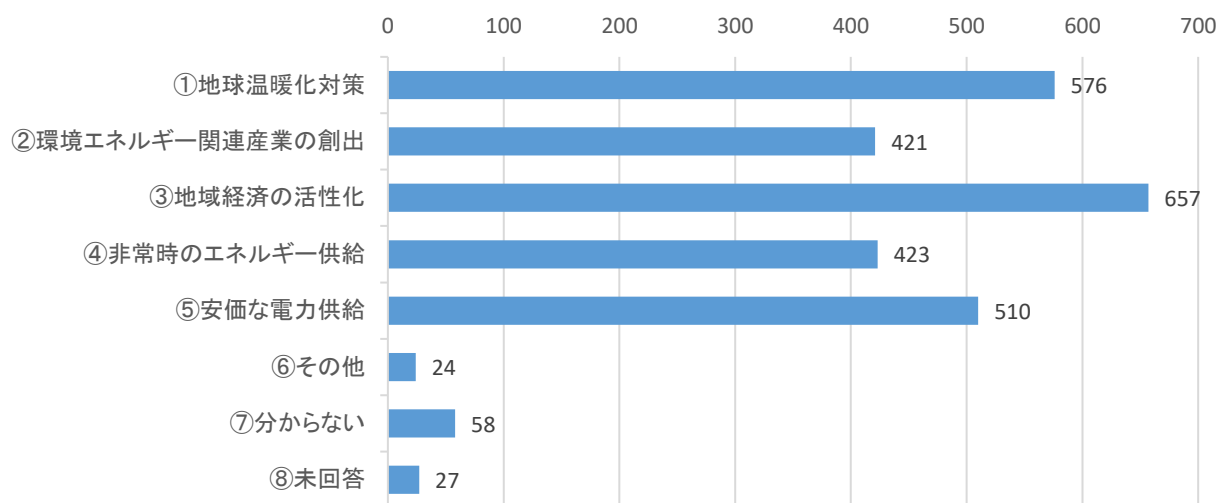
別紙資料 4 ページに記載の「地域エネルギー会社」が設立されることで次のことが期待できます。あなたが期待することは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

設問7 地域エネルギー会社について、期待することは何か(複数回答可)

n = 2,696

項目	件数[件]	割合[%]
①地球温暖化対策	576	21.4
②環境エネルギー関連産業の創出	421	15.6
③地域経済の活性化	657	24.4
④非常時のエネルギー供給	423	15.7
⑤安価な電力供給	510	18.9
⑥その他	24	0.9
⑦分からない	58	2.2
⑧未回答	27	1.0
計	2,696	100.0

設問7 (単位:件)



地域エネルギー会社について、期待することは何かは、「地域経済の活性化」が24.4%、「地球温暖化対策」が21.4%、「安価な電力供給」18.9%、「非常時のエネルギー供給」が15.7%、「環境エネルギー関連産業の創出」が15.6%、「分からない」が2.2%、「その他」が0.9%の順となった。

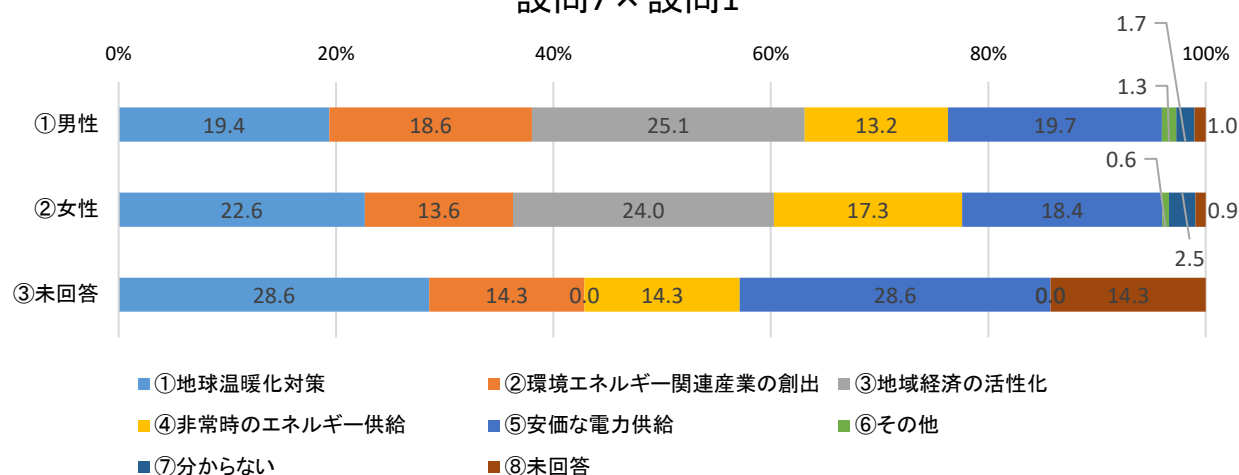
【性別】

設問7(地域エネルギー会社について、期待することは何か(複数回答可))×設問1(性別)

[単位:件]

項目	①地球温暖化対策	②環境エネルギー関連産業の創出	③地域経済の活性化	④非常時のエネルギー供給	⑤安価な電力供給	⑥その他	⑦分からない	⑧未回答	総計
①男性	207	199	268	141	210	14	18	11	1,068
②女性	367	221	389	281	298	10	40	15	1,621
③未回答	2	1	0	1	2	0	0	1	7
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	576	421	657	423	510	24	58	27	2,696

設問7×設問1



性別による地域エネルギー会社について、期待することは何かは、男性・女性ともに「地域経済の活性化」が一番多く、「男性」は、次いで「安価な電力供給」、「女性」は、次いで「地球温暖化対策」となった。

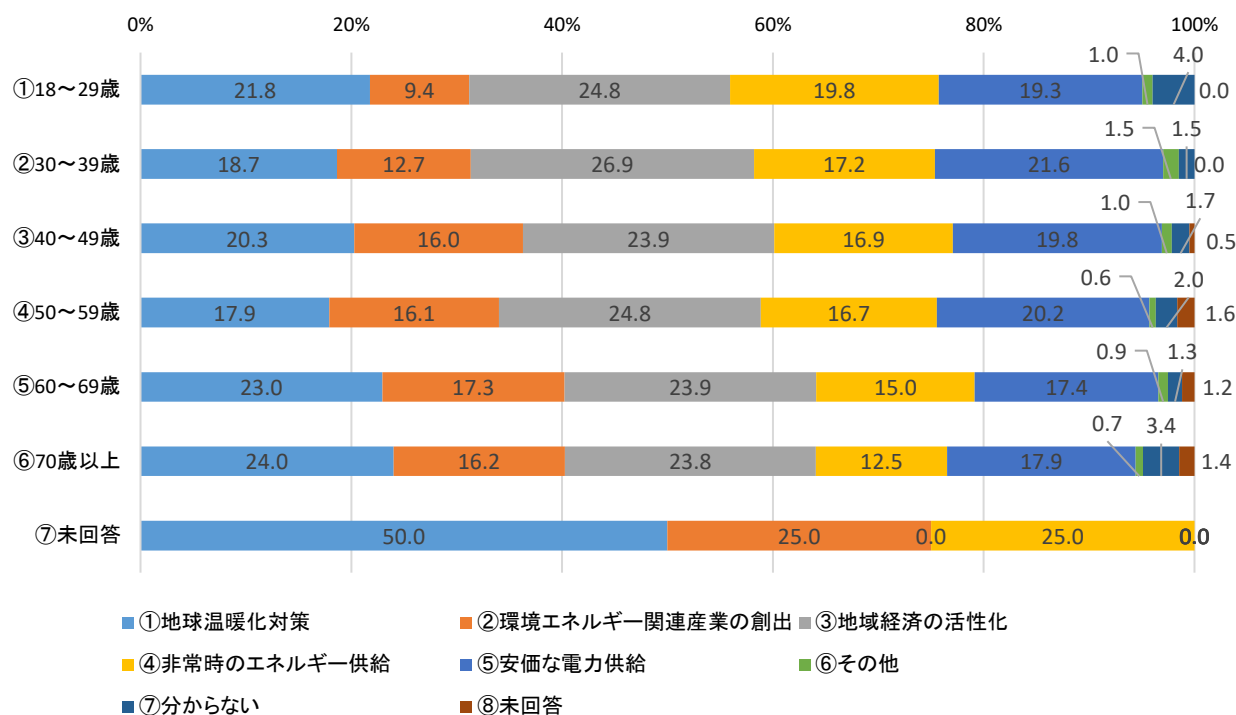
【年齢別】

設問7(地域エネルギー会社について、期待することは何か(複数回答可))×設問2(年齢)

[単位:件]

項目	①地球温暖化対策	②環境エネルギー関連産業の創出	③地域経済の活性化	④非常時のエネルギー供給	⑤安価な電力供給	⑥その他	⑦分からない	⑧未回答	総計
①18～29歳	44	19	50	40	39	2	8	0	202
②30～39歳	50	34	72	46	58	4	4	0	268
③40～49歳	85	67	100	71	83	4	7	2	419
④50～59歳	88	79	122	82	99	3	10	8	491
⑤60～69歳	174	131	181	114	132	7	10	9	758
⑥70歳以上	133	90	132	69	99	4	19	8	554
⑦未回答	2	1	0	1	0	0	0	0	4
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	576	421	657	423	510	24	58	27	2,696

設問7×設問2



年齢別による地域エネルギー会社について、期待することは何かは、全ての年代で「地域経済の活性化」との回答した割合が高くなっている。また、「18～29歳」「40～49歳」「60～69歳」では、次いで「地球温暖化対策」、「30～39歳」「50～59歳」では、次いで「安価な電力供給」となっている。

「非常時のエネルギー供給」と回答した割合は、年代が高くなるにつれて低くなっており、一方で「環境エネルギー関連産業の創出」と回答した割合は、若い世代ほど低くなっている。

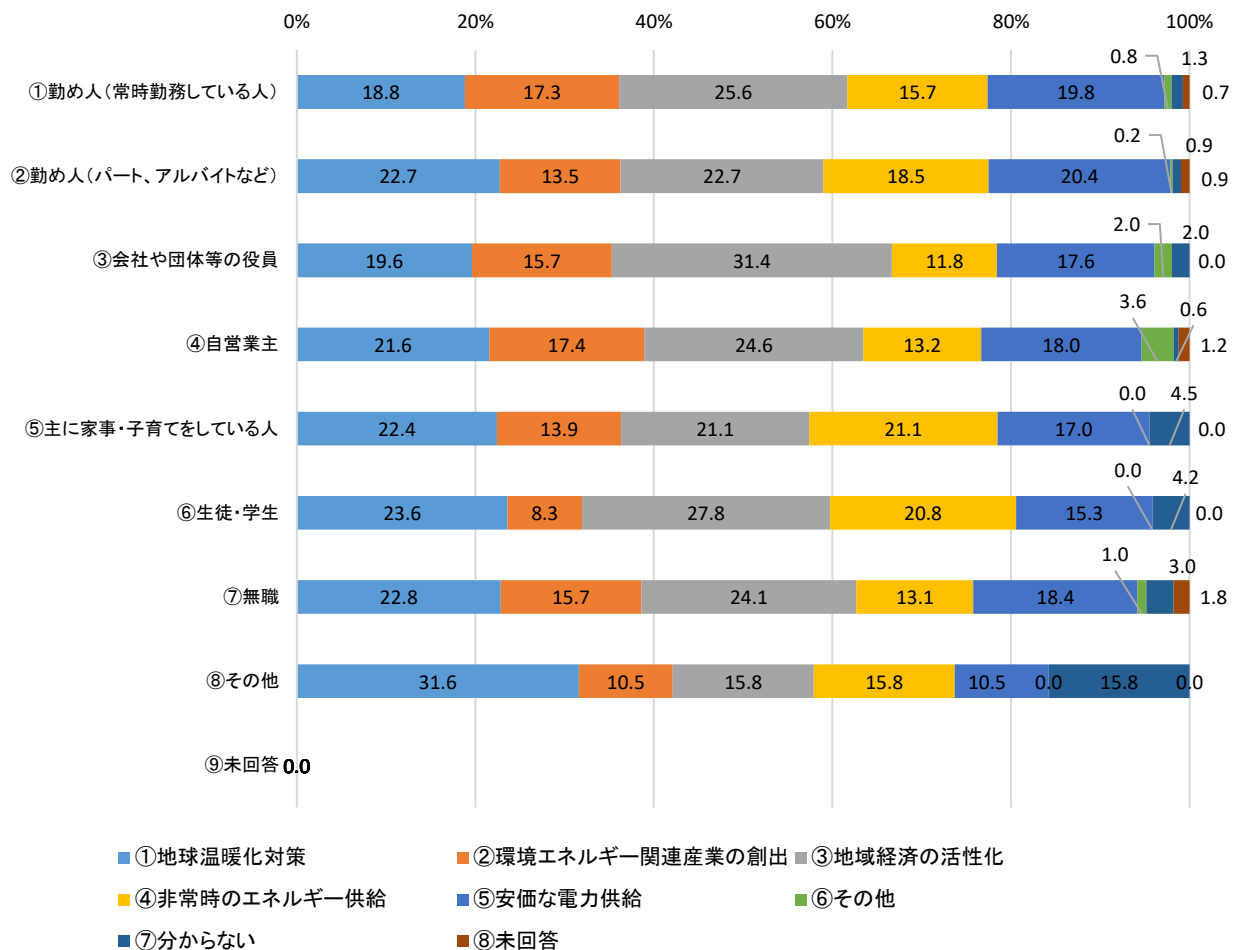
【職業別】

設問7(地域エネルギー会社について、期待することは何か(複数回答可))×設問3(職業)

[単位:件]

項目	①地球温暖化対策	②環境エネルギー関連産業の創出	③地域経済の活性化	④非常時のエネルギー供給	⑤安価な電力供給	⑥その他	⑦分からない	⑧未回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	179	164	243	149	188	8	12	7	950
②勤め人(パート、アルバイトなど)	96	57	96	78	86	1	4	4	422
③会社や団体等の役員	10	8	16	6	9	1	1	0	51
④自営業主	36	29	41	22	30	6	1	2	167
⑤主に家事・子育てをしている人	50	31	47	47	38	0	10	0	223
⑥生徒・学生	17	6	20	15	11	0	3	0	72
⑦無職	180	124	190	103	145	8	24	14	788
⑧その他	6	2	3	3	2	0	3	0	19
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	2	0	1	0	1	0	0	0	4
計	576	421	657	423	510	24	58	27	2,696

設問7×設問3



職業別による地域エネルギー会社について、期待することは何かは、どの職業別においても「地域経済の活性化」「地球温暖化対策」との回答した割合高くなっている。
「環境エネルギー関連産業の創出」との回答した割合では、「生徒・学生」8.3%が最も低かった。

設問 8

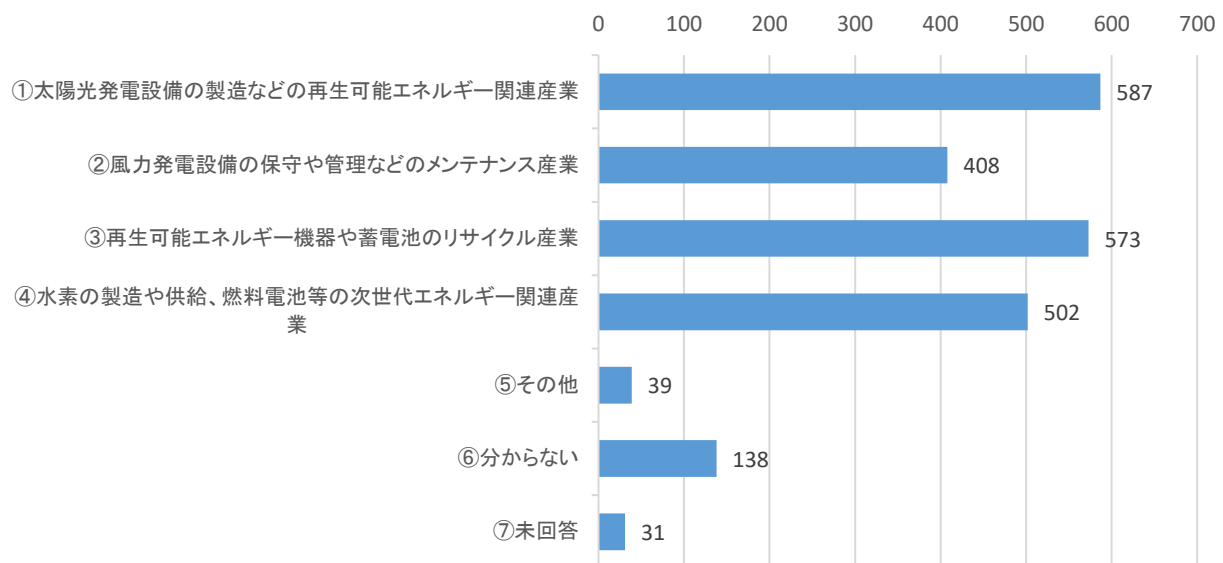
「本ビジョン」で目指す、新たな環境エネルギー関連産業の創出について、あなたが期待する産業はどれですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

設問8 環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれか(複数回答可)

n = 2,278

項目	件数[件]	割合[%]
①太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業	587	25.8
②風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業	408	17.9
③再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業	573	25.2
④水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業	502	22.0
⑤その他	39	1.7
⑥分からない	138	6.1
⑦未回答	31	1.4
計	2,278	100.0

設問8 (単位:件)



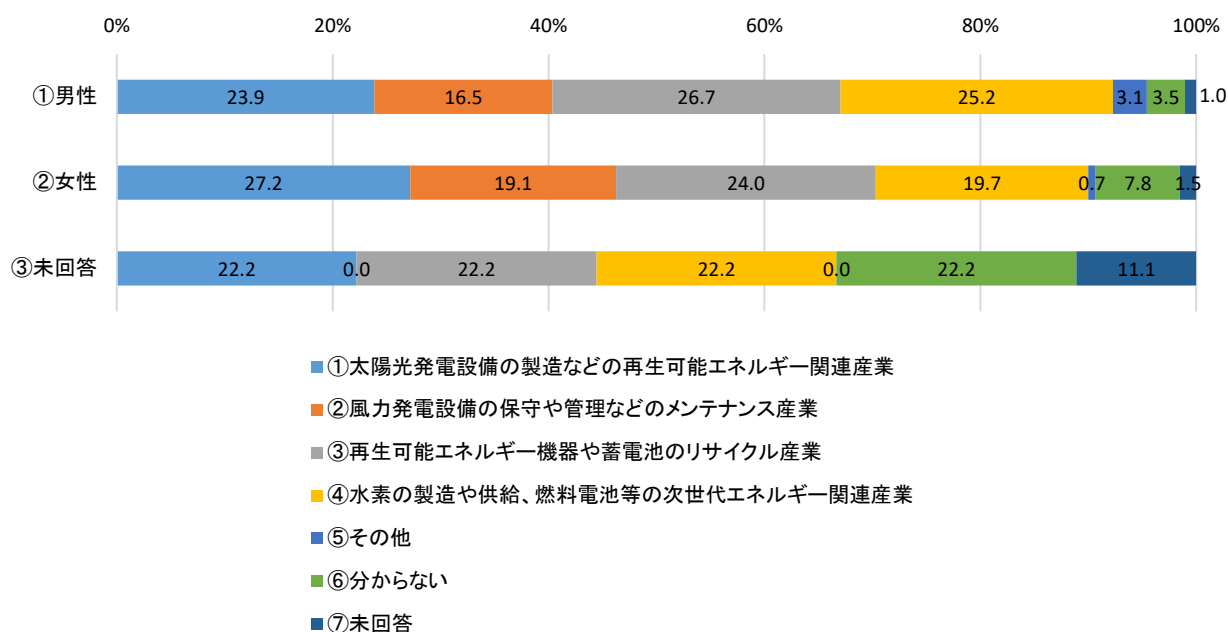
環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれかは、「太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業」が25.8%と最も高く、次いで「再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル」が25.2%、「水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業」が22.0%、「分からない」が6.1%、「その他」が1.7%、「未回答」が1.4%の順となった。

【性別】

設問8(環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれか(複数回答可))×設問1(性別) [単位:件]

項目	①太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業	②風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業	③再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業	④水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①男性	229	158	256	242	30	34	10	959
②女性	356	250	315	258	9	102	20	1,310
③未回答	2	0	2	2	0	2	1	9
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	587	408	573	502	39	138	31	2,278

設問8×設問1

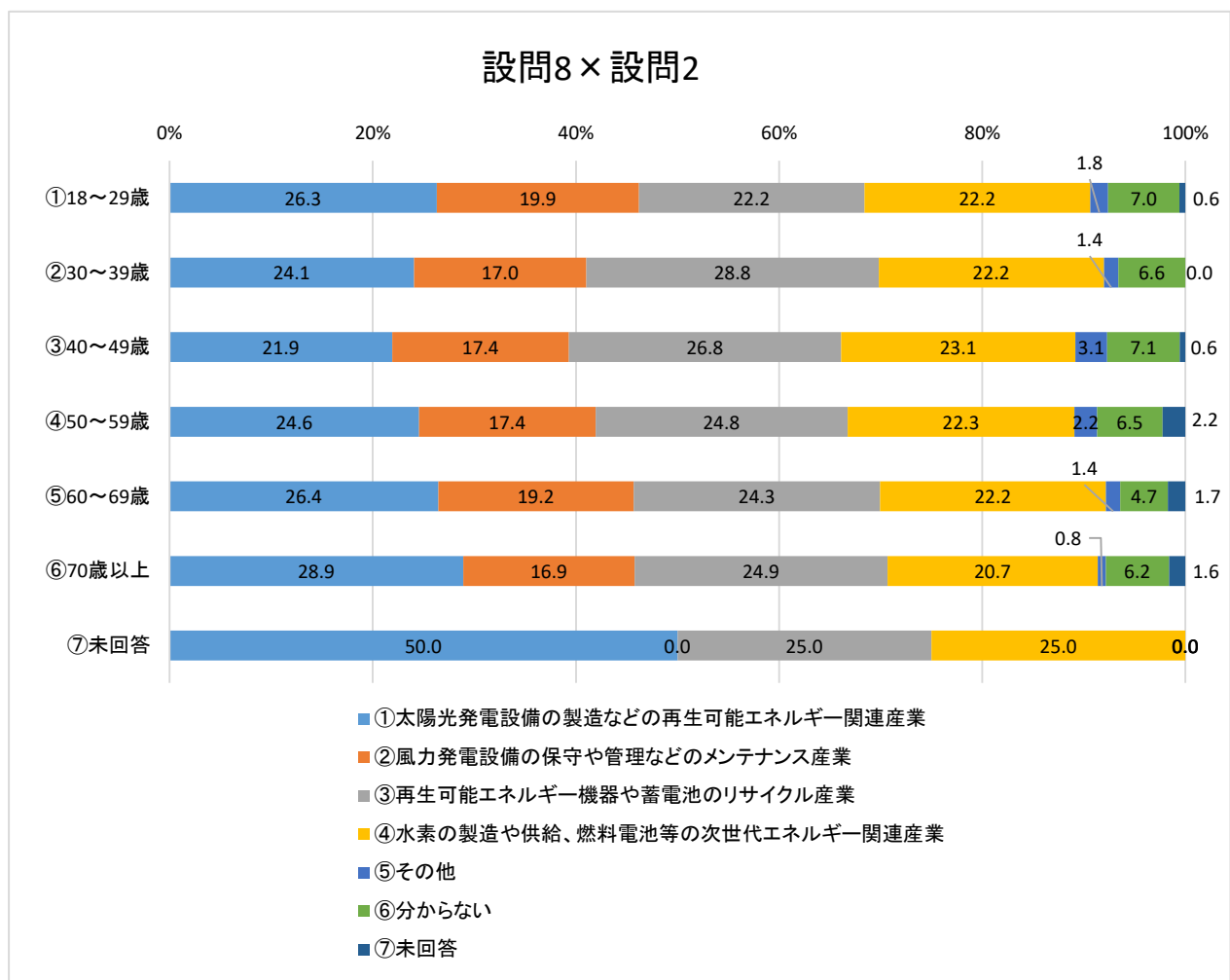


性別による環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれかは、「男性」では「再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル」が26.7%、「水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業」が25.2%、「太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業」が23.9%と続き、「女性」では「太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業」が27.2%、「再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル」が24.0%、「水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業」が19.7%となった。

【年齢別】

設問8(環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれか(複数回答可))×設問2(年齢) [単位: 件]

項目	①太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業	②風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業	③再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業	④水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①18～29歳	45	34	38	38	3	12	1	171
②30～39歳	51	36	61	47	3	14	0	212
③40～49歳	77	61	94	81	11	25	2	351
④50～59歳	99	70	100	90	9	26	9	403
⑤60～69歳	169	123	155	142	9	30	11	639
⑥70歳以上	144	84	124	103	4	31	8	498
⑦未回答	2	0	1	1	0	0	0	4
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	587	408	573	502	39	138	31	2,278



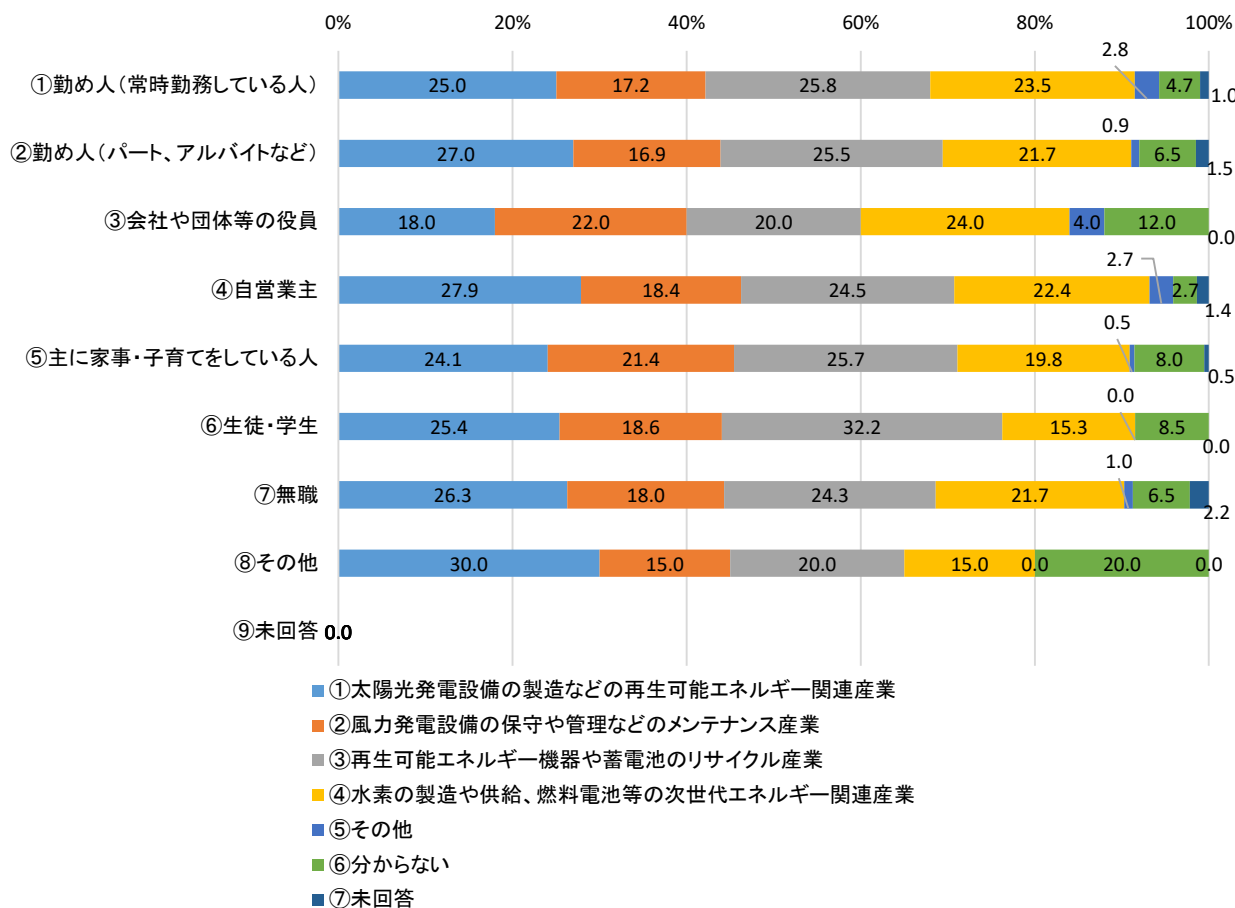
年齢別による環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれかは、どの年代も同等の割合となり、年齢差はあまり見られなかったが、「風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業」との回答した割合は低い傾向にあった。

【職業別】

設問8(環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれか(複数回答可))×設問3(職業) [単位: 件]

項目	①太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業	②風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業	③再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業	④水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	197	135	203	185	22	37	8	787
②勤め人(パート、アルバイトなど)	91	57	86	73	3	22	5	337
③会社や団体等の役員	9	11	10	12	2	6	0	50
④自営業主	41	27	36	33	4	4	2	147
⑤主に家事・子育てをしている人	45	40	48	37	1	15	1	187
⑥生徒・学生	15	11	19	9	0	5	0	59
⑦無職	181	124	167	149	7	45	15	688
⑧その他	6	3	4	3	0	4	0	20
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	2	0	0	1	0	0	0	3
計	587	408	573	502	39	138	31	2,278

設問8×設問3



職業別による環境エネルギー関連産業について、期待する産業はどれかは、「勤め人(常時勤務している人)」「主に家事・子育てをしている人」「生徒・学生」では、「再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業」が1番割合が高く、「勤め人(パート、アルバイト、内職をしている人)」「自営業主(個人で事業(農業を含む。))を営んでいる人や自由業の人」「無職」「その他」では、「太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業」が1番割合が高い。

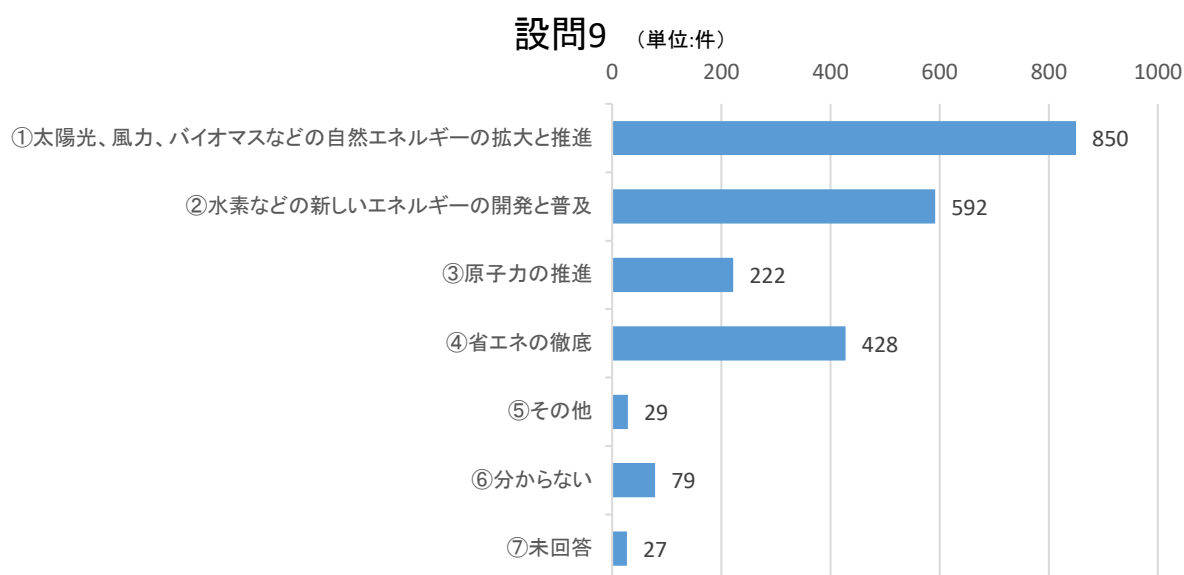
「会社や団体等の役員」においては「水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業」の割合が高かった。

設問9
「本ビジョン」で目指す将来像の脱炭素社会である「エネルギーのまち柏崎（3. 0）」に向けたエネルギー政策として、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

設問9 エネルギー政策について、重要だと思うものは何か（複数回答可）

n = 2,227

項目	件数[件]	割合[%]
①太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進	850	38.2
②水素などの新しいエネルギーの開発と普及	592	26.6
③原子力の推進	222	10.0
④省エネの徹底	428	19.2
⑤その他	29	1.3
⑥分からない	79	3.5
⑦未回答	27	1.2
計	2,227	100.0



エネルギー政策について、重要だと思うものは何かは、「太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進」が38.2%、「水素などの新しいエネルギーの開発と普及」が26.6%、「省エネの徹底」が19.2%、「原子力の推進」が10.0%、「分からない」が3.5%、「その他」が1.3%となった。

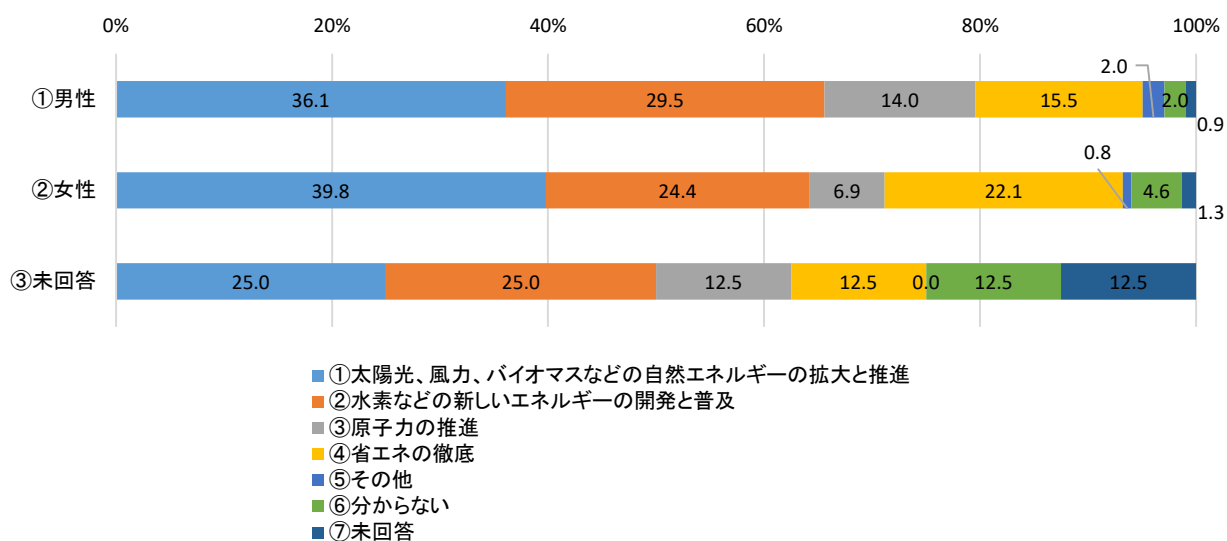
【性別】

設問9(エネルギー政策について、重要だと思うものは何か(複数回答可))×設問1(性別)

[単位:件]

項目	①太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進	②水素などの新しいエネルギーの開発と普及	③原子力の推進	④省エネの徹底	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①男性	343	280	133	147	19	19	9	950
②女性	505	310	88	280	10	59	17	1,269
③未回答	2	2	1	1	0	1	1	8
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	850	592	222	428	29	79	27	2,227

設問9×設問1



性別によるエネルギー政策について、重要だと思うものは何かは、「原子力の推進」で「男性」が14.0%だったのに対し、「女性」が6.9%と約2倍の開きがあった。

「水素などの新しいエネルギーの開発と普及」は「女性」よりも「男性」の方が高い割合となっており、一方、「太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進」と「省エネの徹底」では、「男性」よりも「女性」の方が高い割合となっている。

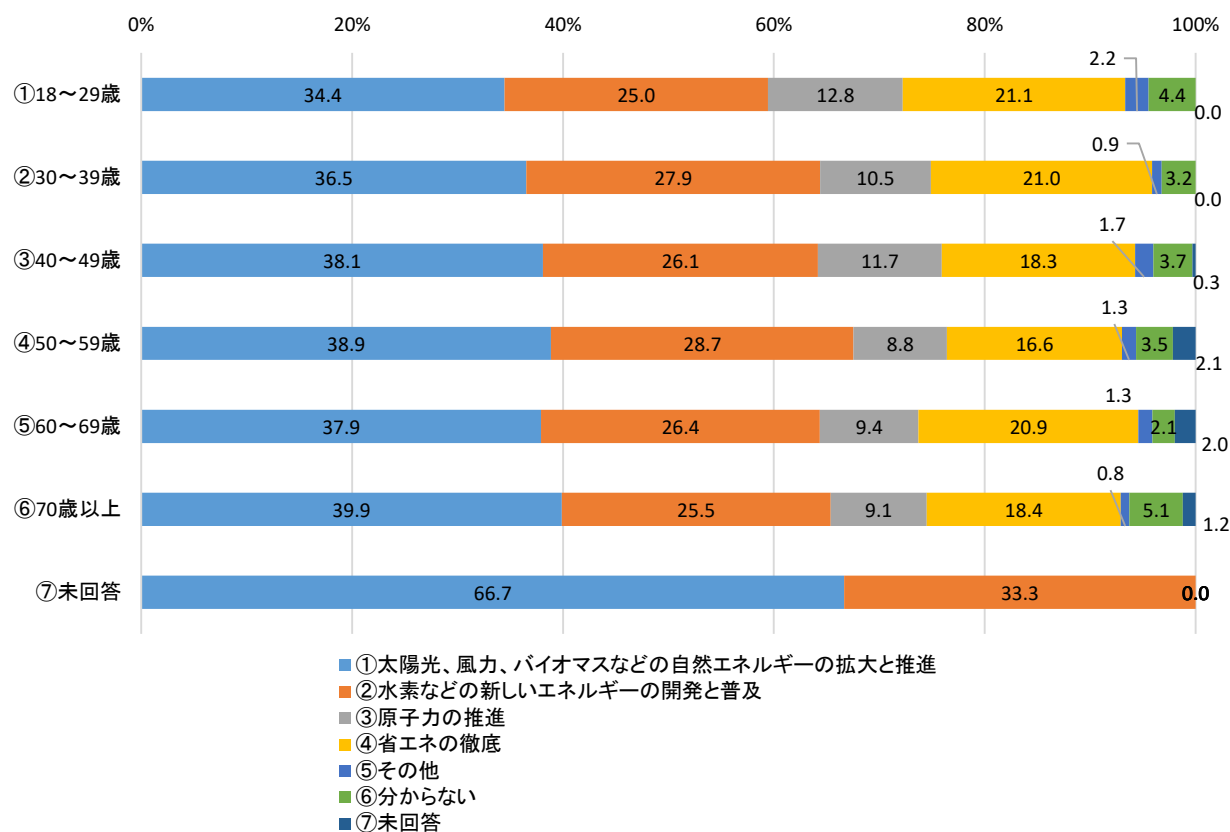
【年齢別】

設問9(エネルギー政策について、重要だと思うものは何か(複数回答可))×設問2(年齢)

[単位:件]

項目	①太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進	②水素などの新しいエネルギーの開発と普及	③原子力の推進	④省エネの徹底	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①18～29歳	62	45	23	38	4	8	0	180
②30～39歳	80	61	23	46	2	7	0	219
③40～49歳	133	91	41	64	6	13	1	349
④50～59歳	145	107	33	62	5	13	8	373
⑤60～69歳	231	161	57	127	8	13	12	609
⑥70歳以上	197	126	45	91	4	25	6	494
⑦未回答	2	1	0	0	0	0	0	3
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	850	592	222	428	29	79	27	2,227

設問9×設問2



年齢別によるエネルギー政策について、重要だと思うものは何かは、どの年代もほぼ同等の割合で「太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進」との回答が高かったが、若い年代ほど「原子力の推進」との回答した割合が高い傾向となった。

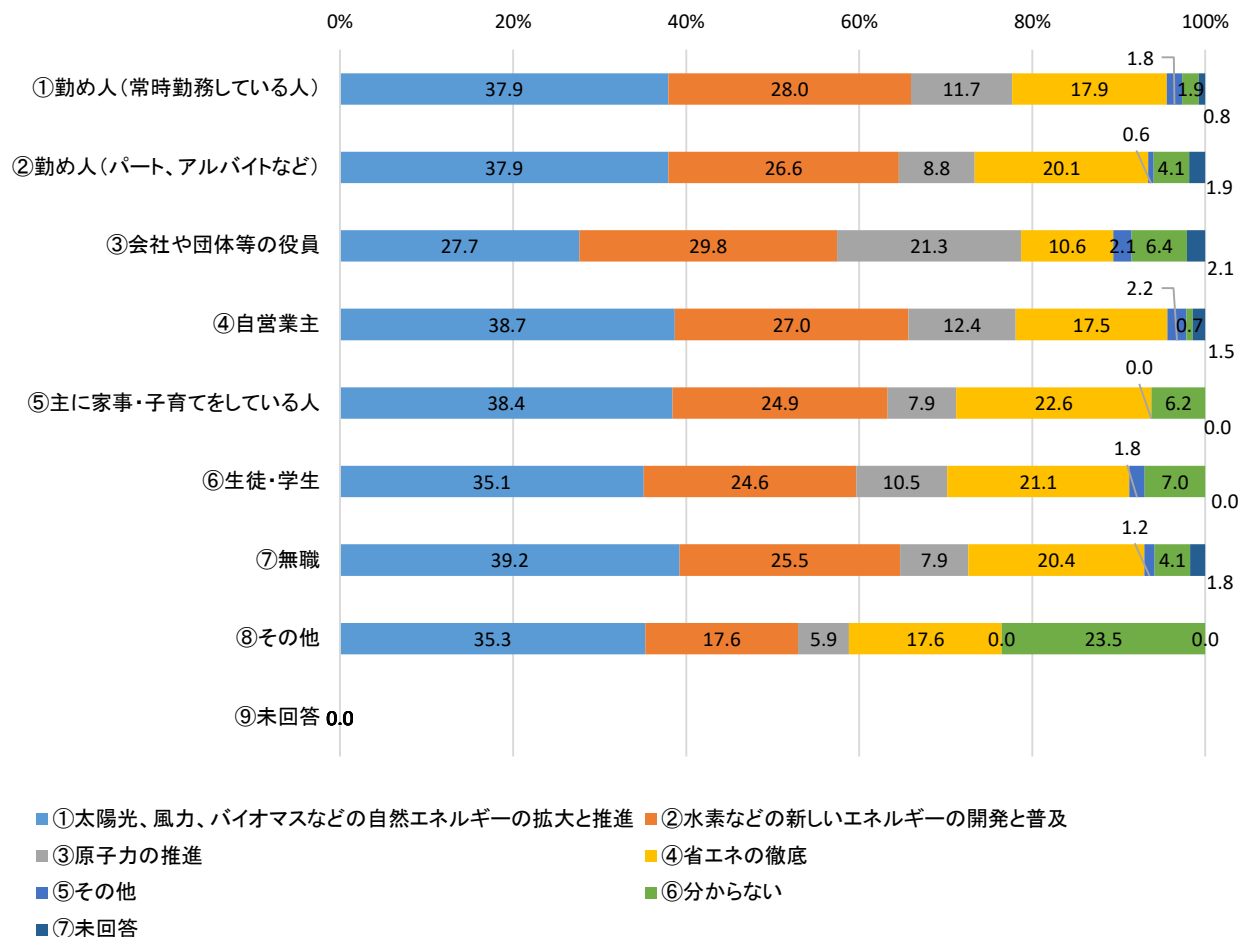
【職業別】

設問9(エネルギー政策について、重要だと思うものは何か(複数回答可))×設問3(職業)

[単位: 件]

項目	①太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進	②水素などの新しいエネルギーの開発と普及	③原子力の推進	④省エネの徹底	⑤その他	⑥分からない	⑦未回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	299	221	92	141	14	15	6	788
②勤め人(パート、アルバイトなど)	121	85	28	64	2	13	6	319
③会社や団体等の役員	13	14	10	5	1	3	1	47
④自営業主	53	37	17	24	3	1	2	137
⑤主に家事・子育てをしている人	68	44	14	40	0	11	0	177
⑥生徒・学生	20	14	6	12	1	4	0	57
⑦無職	268	174	54	139	8	28	12	683
⑧その他	6	3	1	3	0	4	0	17
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	2	0	0	0	0	0	0	2
計	850	592	222	428	29	79	27	2,227

設問9×設問3



職業別によるエネルギー政策について、重要だと思うものは何かは、どの職業もほぼ同等の割合で「太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進」が最も高かったが、「会社や団体等の役員」は「水素などの新しいエネルギーの開発と普及」と回答した割合が一番高かった。

「勤め人(パート、アルバイト、内職をしている人)」「主に家事・子育てをしている人」「無職」は「原子力の推進」が低い傾向にある。

設問 10

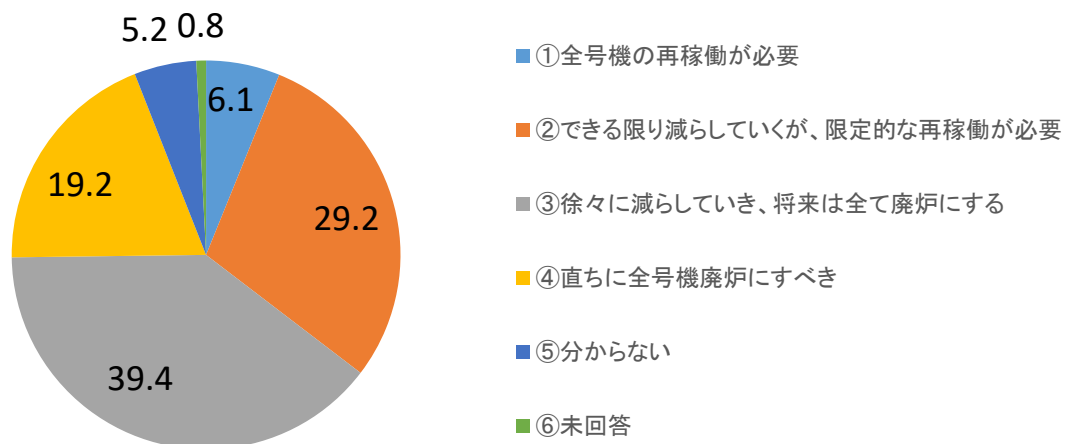
柏崎刈羽原子力発電所 1 号機から 7 号機までは、今後どうあるべきだと、あなたは思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問10 柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うか

n = 1,238

項目	件数[件]	割合[%]
①全号機の再稼働が必要	76	6.1
②できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要	362	29.2
③徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする	488	39.4
④直ちに全号機廃炉にすべき	238	19.2
⑤分からない	64	5.2
⑥未回答	10	0.8
⑦無効回答	5	—
計	1,243	100.0

設問10 (単位:%)



柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うかは、「徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする」が39.4%と最も多く、「できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要」が29.2%、「直ちに全号機廃炉にすべき」が19.2%、「全号機の再稼働が必要」が6.1%、「分からない」が5.2%、「分からない」が5.2%、「未回答」が0.8%の順となった。

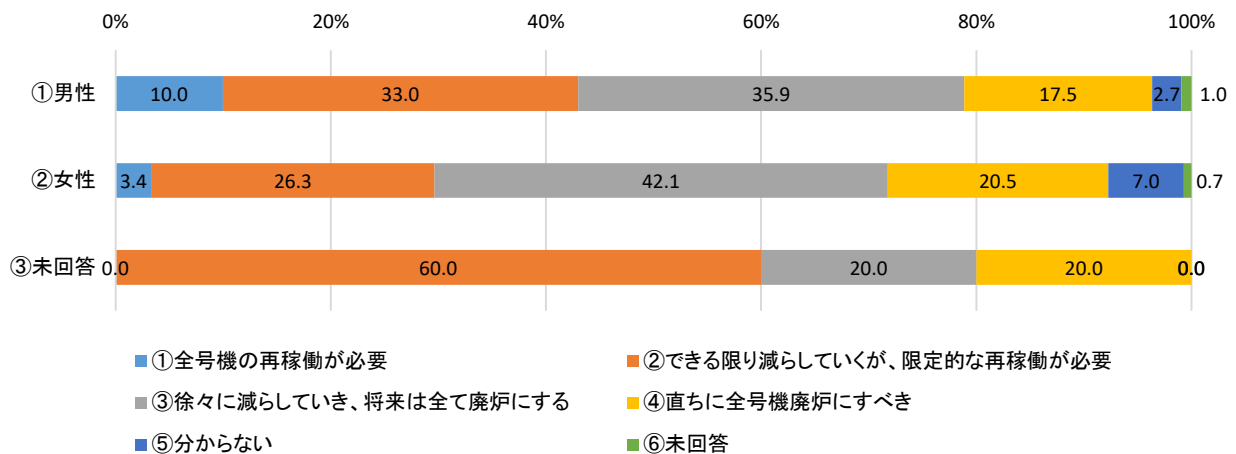
【性別】

設問10(柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うか)×設問3(職業)

[単位:件]

項目	①全号機の再稼働が必要	②できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要	③徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする	④直ちに全号機廃炉にすべき	⑤分からない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①男性	52	172	187	91	14	5	2	523
②女性	24	187	300	146	50	5	3	715
③未回答	0	3	1	1	0	0	0	5
④無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	76	362	488	238	64	10	5	1,243

設問10×設問1



性別による柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うかは、「全号機の再稼働が必要」と回答したのは「男性」が10.0%、「女性」が3.4%と約3倍の開きがあった。

「できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要」と回答した割合は、「男性」が33.0%で「女性」の26.3%であり、「男性」が「女性」よりも高くなっている。

「徐々に減らしていき、将来は廃炉にする」「直ちに全号機廃炉にすべき」と回答したのは「女性」が「男性」よりも高い傾向にあった。

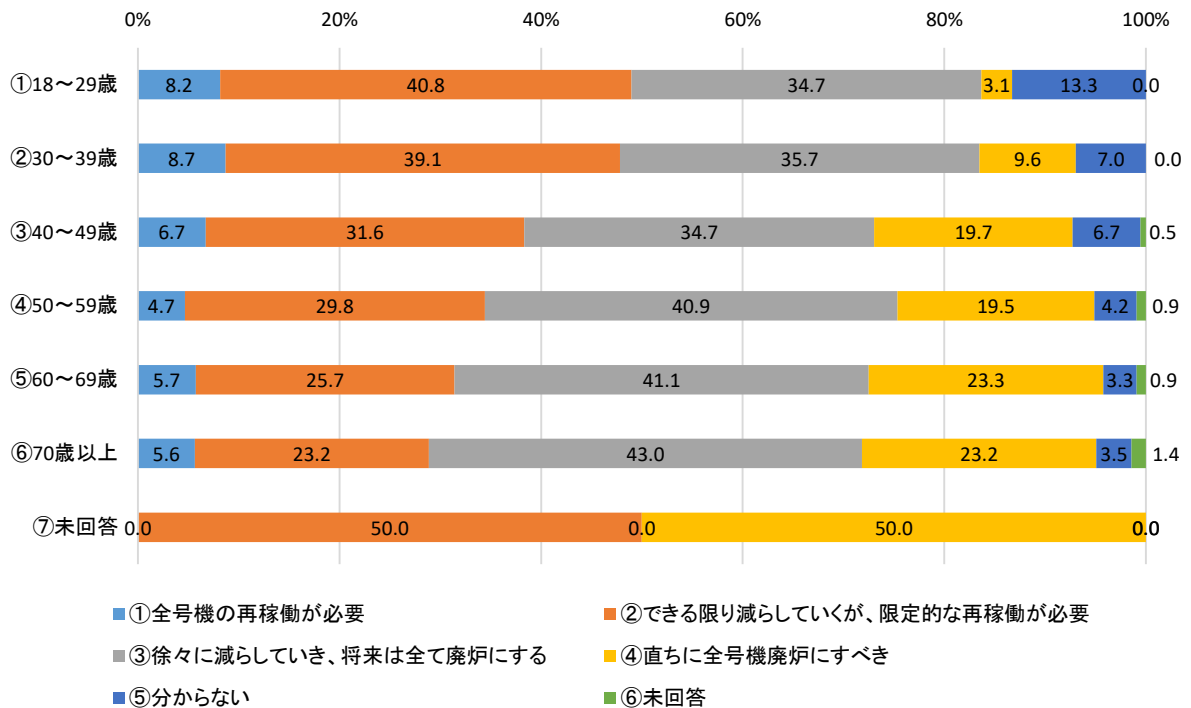
【年齢別】

設問10(柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うか)×設問2(年齢)

[単位:件]

項目	①全号機の再稼働が必要	②できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要	③徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする	④直ちに全号機廃炉にすべき	⑤分らない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①18～29歳	8	40	34	3	13	0	0	98
②30～39歳	10	45	41	11	8	0	2	117
③40～49歳	13	61	67	38	13	1	1	194
④50～59歳	10	64	88	42	9	2	0	215
⑤60～69歳	19	85	136	77	11	3	1	332
⑥70歳以上	16	66	122	66	10	4	1	285
⑦未回答	0	1	0	1	0	0	0	2
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	76	362	488	238	64	10	5	1,243

設問10×設問2



年齢別による柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うかは、若い世代になるにつれて、「全号機の再稼働が必要」「できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要」との回答した割合が高くなっており、「18～29歳」と「30～39歳」では約5割が「全号機の再稼働が必要」「できるだけ減らしていくが、限定的な再稼働が必要」との回答であった。

40歳以上の年代から「直ちに全号機廃炉にすべき」との回答が約2割以上となっている。

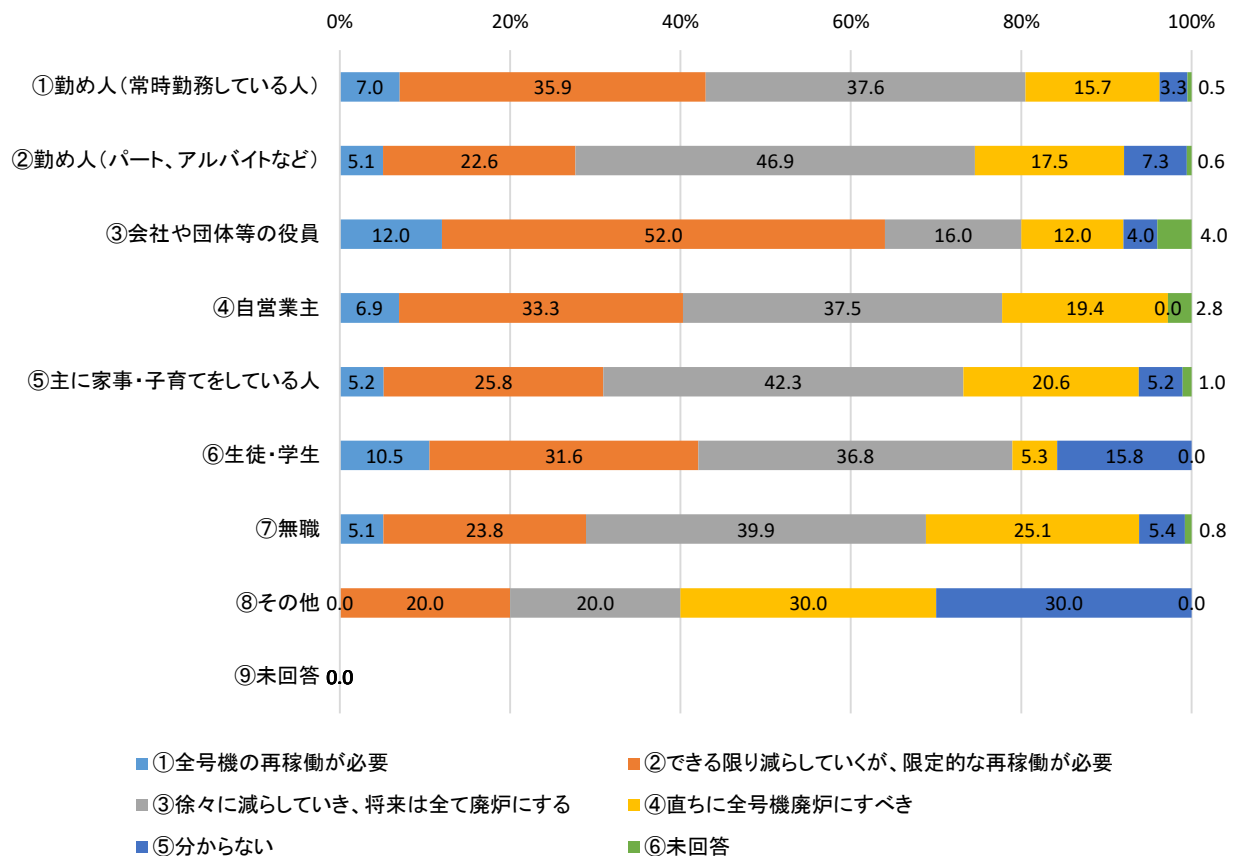
【職業別】

設問10(柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うか)×設問3(職業)

[単位:件]

項目	①全号機の再稼働が必要	②できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要	③徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする	④直ちに全号機廃炉にすべき	⑤分らない	⑥未回答	⑦無効回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	30	153	160	67	14	2	1	427
②勤め人(パート、アルバイトなど)	9	40	83	31	13	1	1	178
③会社や団体等の役員	3	13	4	3	1	1	0	25
④自営業主	5	24	27	14	0	2	1	73
⑤主に家事・子育てをしている人	5	25	41	20	5	1	0	97
⑥生徒・学生	4	12	14	2	6	0	0	38
⑦無職	20	93	156	98	21	3	1	392
⑧その他	0	2	2	3	3	0	1	11
⑨未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	0	0	1	0	1	0	0	2
計	76	362	488	238	64	10	5	1,243

設問10×設問3



職業別による柏崎刈羽原子力発電所について、今後どうあるべきだと思うかは、「できるだけ減らしていくが、限定的な再稼働が必要」との回答が5割以上だったのが「会社や団体等の役員」であった。

「徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする」との回答は、「勤め人(パート、アルバイト、内職をしている人)」「主に家事・子育てをしている人」「無職」で最も高い割合となっている。

「全号機の再稼働が必要」では、「会社や団体等の役員」が12.0%、「生徒・学生」が10.5%となっており、「直ちに全号機廃炉にすべき」では、「無職」が25.1%、次いで「主に家事・子育てをしている人」が20.6%となった。

設問 1 1

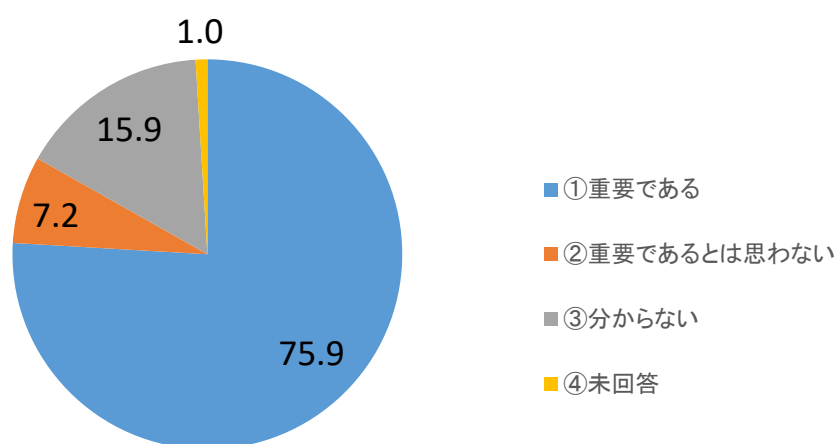
必ず訪れる原子力発電所の廃炉を見据え、市内で廃炉産業を育成することについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

設問11 廃炉産業の育成について、どう思うか

n = 1,242

項目	件数[件]	割合[%]
①重要である	943	75.9
②重要であるとは思わない	90	7.2
③分からない	197	15.9
④未回答	12	1.0
⑤無効回答	1	-
計	1,243	100.0

設問11 (単位:%)



廃炉産業の育成については、「重要である」が75.9%と最も高く、「分からない」が15.9%、「重要であるとは思わない」が7.2%と続いた。

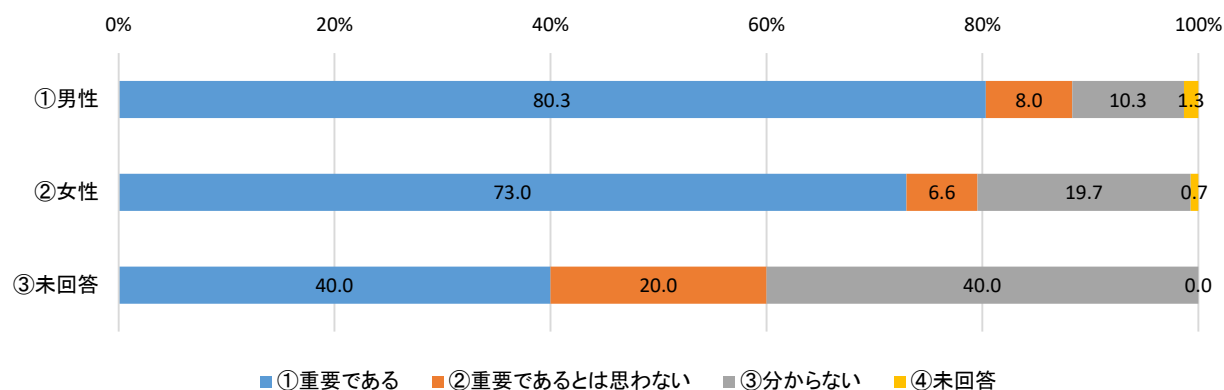
【性別】

設問11(廃炉産業の育成について、どう思うか) × 設問1(性別)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①男性	420	42	54	7	0	523
②女性	521	47	141	5	1	715
③未回答	2	1	2	0	0	5
④無効回答	0	0	0	0	0	0
計	943	90	197	12	1	1,243

設問11 × 設問1



性別による廃炉産業の育成については、男性・女性ともに「重要である」との回答が7割以上あった。「分からない」との回答は「男性」が10.3%、「女性」が19.7%と約2倍の開きがあった。

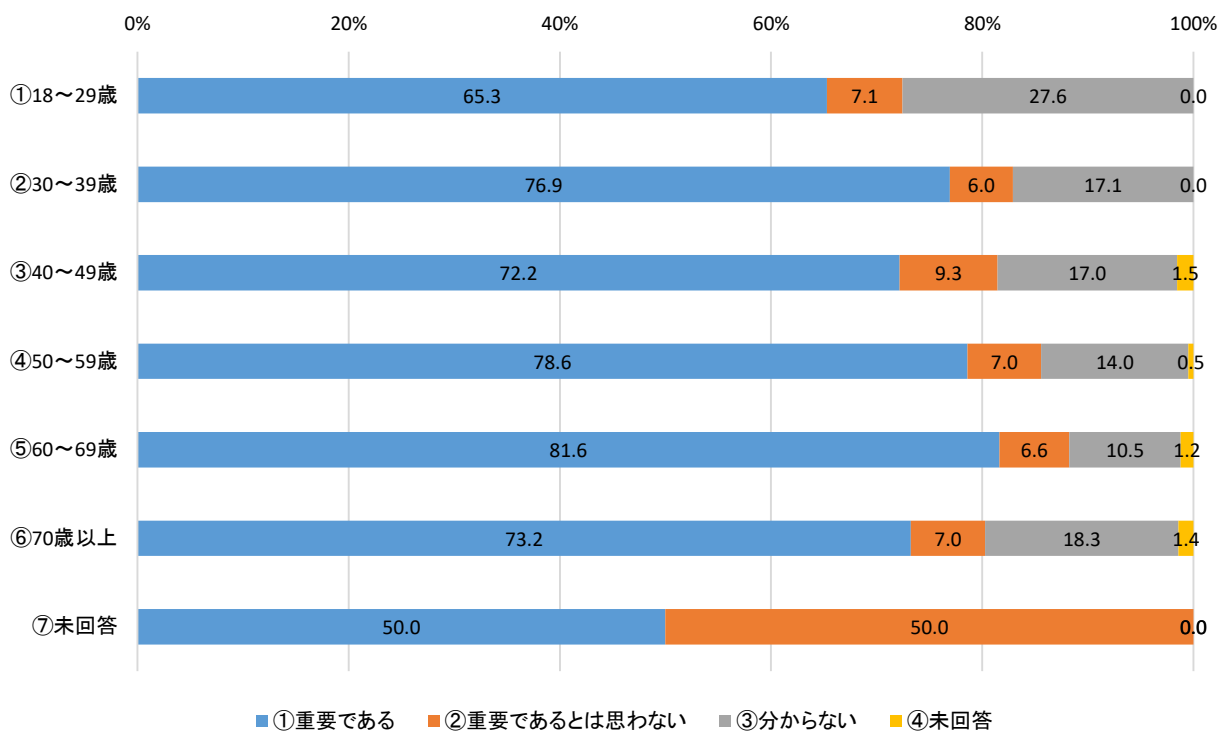
【年齢別】

設問11(廃炉産業の育成について、どう思うか) × 設問2(年齢)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①18～29歳	64	7	27	0	0	98
②30～39歳	90	7	20	0	0	117
③40～49歳	140	18	33	3	0	194
④50～59歳	169	15	30	1	0	215
⑤60～69歳	271	22	35	4	0	332
⑥70歳以上	208	20	52	4	1	285
⑦未回答	1	1	0	0	0	2
⑧無効回答	0	0	0	0	0	0
計	943	90	197	12	1	1,243

設問11 × 設問2



年齢別による廃炉産業の育成については、「重要である」と回答した割合が最も高かったのが「60～69歳」で81.6%、次いで「50～59歳」が78.6%であった。

「重要であるとは思わない」との回答した割合が最も高かったのは「40～49歳」で9.3%、「わからない」と回答した割合が最も高かったのが「18～29歳」で27.6%、次いで「70歳以上」が18.3%であった。

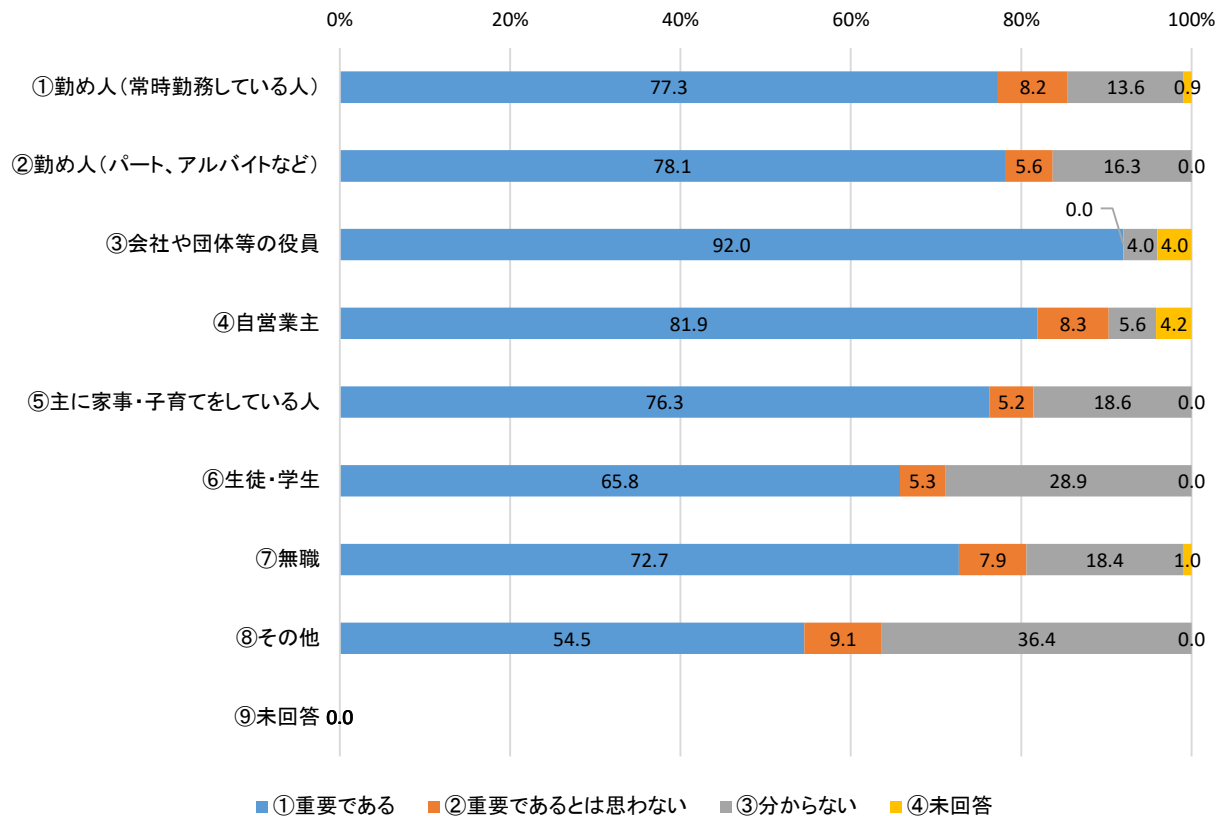
【職業別】

設問11(廃炉産業の育成について、どう思うか) × 設問3(職業)

[単位: 件]

項目	①重要である	②重要であるとは思わない	③分からない	④未回答	⑤無効回答	総計
①勤め人(常時勤務している人)	330	35	58	4	0	427
②勤め人(パート、アルバイトなど)	139	10	29	0	0	178
③会社や団体等の役員	23	0	1	1	0	25
④自営業主	59	6	4	3	1	73
⑤主に家事・子育てをしている人	74	5	18	0	0	97
⑥生徒・学生	25	2	11	0	0	38
⑦無職	285	31	72	4	0	392
⑧その他	6	1	4	0	0	11
⑨未回答	0	0	0	0	0	0
⑩無効回答	2	0	0	0	0	2
計	943	90	197	12	1	1,243

設問11 × 設問3



職業別による廃炉産業の育成については、「重要である」と回答したのが最も高かったのが「会社や団体等の役員」で92.0%であり、次いで「自営業主（個人で事業（農業を含む。）を営んでいる人や自由業の人）」が81.9%であった。

「分からない」との回答した割合は、「生徒・学生」が最も高く28.9%となった。

問12

エネルギー政策、柏崎市地域エネルギービジョンに関して、自由なご意見やご提案などをお聞かせください。

特になし、分からない等を除き459件のご意見やご提案などをいただきました。
ここでは、459件のご意見・ご提案などを7つの項目に分け、列記しています。

◆エネルギー政策（まちづくり）について （n=198）

- ▶ 別紙を全て読みましたが、現実的に可能なのか。2050年から脱炭素のまち、実際は不可能だと思っています。実現出来ないエネルギー政策よりも、もっと今やるべき事があるのではないのでしょうか。中身の無い事ばかりやっていると、数年後には柏崎市ではなくなりますよ。（男性30代）
- ▶ 先にも書きましたが、一にも二にも安定的かつ長期的に収益モデルを確固たるものにすることに尽きると思います。もちろんスタートアップ時点では公的な援助や借入金が必要になりますが、そこは県や市で助成してあげ、県内金融機関から低利融資を受けるなどしてとにかくコストを圧縮し、「儲かる産業」を地域として整備すべきです。儲かる産業が増えれば雇用の安定化、増加で市外からの流入者も増えます。市外からの流入者が増えてもそこは地産地消エネルギーで暮らすことになるので、市外にいた時よりも低炭素な暮らしができ、「意識の高い人達」を呼び込むことにもつながります。当市内には、東京電力、国際石油開発帝石、リケンなど名だたる企業が重要拠点を構えています。いずれもこの先の情勢が厳しくなる可能性があります。脱原発、脱化石燃料、脱内燃機関、の「3脱」がもろにかぶるからです。ただし、まだ財務基盤は健全でしょうから、その間にこれらの企業も巻き込んでビジョン3.0に当事者レベルで参加させて下さい。金銭的な拠出はもちろん、ビジョン3.0に対する研究開発、雇用の確保などの協定を結ばせるくらいは最低でもするべきと考えます。これら企業はこれまで環境負荷を強めてきたわけですから、道義的責任があります。いずれにせよ、産業でこれまで潤ってきた柏崎なのでビジョン3.0も産業主体に取り組んで頂きたいです。それで税収が増えた分でまちづくりや観光（インバウンド含む）、文化も洗練させていってほしいと思います。（男性30代）
- ▶ エネルギー政策は重要であり、地球温暖化の気候変動の問題や災害の停電の問題もあるのでそれを考えて、柏崎市は全国に先駆けエネルギーの町になって欲しい。（男性50代）
- ▶ 原発廃炉後はどうする→環境負荷の少ないLNG火力発電もあって良いのではないかと思います。（男性70歳以上）
- ▶ 正直今は現実味のない話にしか聞こえないが、明確なビジョンを持って行動する事で、実現できる事に期待したい。原子力を「今すぐ廃炉にしろ」と訴える人がいるが、あまりに自分勝手な意見である。とりあえず、本ビジョンが推進していく様を見届けたいと思う。（男性30代）
- ▶ [エネルギービジョン]を掲げている市は新潟県内の市、全国色々な市で実施されています。最初は、他をマネて、そこから柏崎らしさを組み込んでいけば良いと思います。（女性40代）
- ▶ 安心・安全なエネルギーの一日も早い普及を望みます。（女性50代）
- ▶ 中心部だけでなく地域全体にいきわたる政策をして頂きたいです。（男性50代）
- ▶ よりよい柏崎のためになるようにお願いします。（女性60代）
- ▶ 冬の産業育成のため、暖房のエネルギーを早急に作っていただきたい。（男性60代）

- ▶ 原子力発電所の利益からかつての生活水準の高いまちづくりを望むことはもはや不可能に近いものと考えerのほうがよく、ここは冷静に対処すべきである。あまり以前の景気、不景気にとらわれず、まずは市民の安全を第一に考え、万一のことを考えて、安全対策を考慮に入れた街づくりからはじめるのがよいと思う。(例) 万が一を考え、市民の避難場所の確保。食料等のストック(非常食) 公衆電話等の配せつ。指導する有能な人材確保など。(男性50代)
- ▶ 消滅行政地域に柏崎市が入っているので、私達の税金をきちんと使って成功させて下さい。(女性50代)
- ▶ 人口が減っているため、柏崎が少しでも住みやすい市であって欲しいです。原子力に頼らなくても良いのは望ましいが、現状は難しいと感じています。原子力以外で新たなエネルギーが確立できたらもっと良いと思います。市民のためよろしくお願いします。(男性30代)
- ▶ 今まで原子力ばかりに目が向いてきた。結果大きな負荷として反動が来ている。一部には利権が有る為に物事が進まないことが多くある。地震などの負を経験しても尚原子力にしがみつくと、これは利権がらみ以外ないのだろう。太陽エネルギーの効率は3%位しかない、視点を変え考え方を変えて新しい技術の発想に資金を投入することが必要。未来の事、無い技術だとばかり考えて何もしないなら人間の発展はない。無限エネルギーも存在している。いつもだれかのお尻を追っても得るものはない。(男性70歳以上)
- ▶ ・6号機、7号機を稼働させて、残りの原子炉は廃炉にすべきである。6号機7号機が稼働中に残りを廃炉にするための廃炉技術を新たな産業として、構築していく必要がある。
・クラウドファンディングを利用して、地域エネルギー会社の資金を集め(広く柏崎市出身県外からの) 設立が必要であると思います。主に太陽光発電を軸に始めたら良いと思います。(男性50代)
- ▶ 実際にベンチャー企業が進出してくれて活性化につながるならよいですが…(女性60代)
- ▶ 市民経済の発展の為賛成です。(性別未回答70歳以上)
- ▶ 今まで原子力発電所があり、その恩恵も受けてきたのは確かである。しかし自然災害が多い日本では、原子力発電はリスクが大きく、安心して電力が供給できないようにも思える。そのため今回の柏崎市地域エネルギービジョンというのは非常によいものだと考える。だが次世代のエネルギーを確立するには時間がかかる。そのため安全を考慮した上で原子力発電を限定的に再稼働し、その間のつなぎを行うべきだと思う。そしてゆくゆくは、原子力発電と次世代のエネルギーの2本柱でエネルギーのまち柏崎となればよいなと考える。(男性18~29歳)
- ▶ 長期を見た政策となっていて期待したいが、現状のような活力のない町がどのように変わるかあまり考えられない。市民が暮らしやすい、子育てがしやすい町を第一に希望したい。(男性18~29歳)
- ▶ この政策、エネルギービジョンを叶えるためには膨大な予算が必要になると思う。そのためにどこから財源を取り出していくか、市民の支持を得られるかなど、課題が山積しているので徐々に解決していかなければならない。(男性18~29歳)
- ▶ 私の時代には風呂の水くみ薪で風呂をわかす。自分の子供始め孫達にそんな時代に戻れと言っても無理でしょう。刈羽原発も本当は再稼働すれば国から財源もはいるだろうし、少しは刈羽、柏崎市も豊かに成ると思いますが…。結論は出ません。(女性70歳以上)

- ▶ 温暖化のため天気が悪くなる時すごい風(突風)が吹くようになって海に近い場所なのでとても怖いです。原子力の町なのにもっと危機感をもってほしいです。離れている所の方がとっても真剣に話していると思う。もしもの時、バスで迎えに来るなんて絶対無理だと思う。危ない所に誰がバス運転してくれるのか?運転手さん決まっているのですか?災害の時コミュニティーセンターに避難するんですが、トイレの数が少なすぎると思います。(女性60代)
- ▶ 柏崎としての特色をいかに出せるかが重要と思う。(男性60代)
- ▶ 安全な社会を作ってください。住みやすい柏崎にしてください。(女性18～29歳)
- ▶ 核燃料棒処理、処分施設の受け入れ。柏崎は地質的には隆起の山であり火山の心配はなく有利。条件としては安全であること。と処理費等は柏崎もしくは周辺自治体に将来にわたって有利になるようにする。(男性70歳以上)
- ▶ 原子力発電にとらわれない柏崎市のエネルギー政策に期待しています。(男性50代)
- ▶ 自分の父が、オペレーターなのもあり、今の柏崎では発電所での仕事がなく力を持て余しています。年齢的に転職も厳しい、しかし能力は認められています。柏崎市はこのような能力ある、しかし年齢的に近い方など、新しいエネルギーにしていく際どう扱うのでしょうか。古いものとして捨てるのであれば出ていくのみです。柏崎に育ってきた身として、出ていくのは辛いですがそれを考える家庭もあります。原発から必死に働く人の能力を今使えない人をどうするのか、いつかニュースで家の人の知らせで知りたいです。(女性18～29歳)
- ▶ 原子力に頼らないエネルギー政策に早く転換していったほしいです。将来廃炉にするならば早めに廃炉の決断をしなければ何も前に進んでいけないと思います。地震のことを考えると原発がどうなるのか怖いです。(女性60代)
- ▶ 省エネについて考えることは良い事だと思うが借金を抱えている柏崎でエネルギー政策が実現可能なのか。又、その負担が市民に来るのかどうか不安です。(女性18～29歳)
- ▶ ▲カタカナで書かれた言葉がやたらと多いのですが、(スマート、ライドシェア、シビックプライド・・・等々)、どれだけその意味、内容を具体的に共通理解しているか疑問に思います。役所言葉的に使うのではなく、分かり易い具体的な言葉で説明、広報していくことが大切だと思いますよ。
▲桜井市長がメディアなどで原発資金に群がるハイエナの表現で地元企業を使うように発言していることに非常に不快感を持っています。まずは廃炉産業に耐え得る基盤を作り育てることが大事なのではないでしょうか。
○直接市民の声を届ける機会を作ってくれることは本当にありがたいです。(このアンケート)。ただこれにかかった数十万円が無駄にならないことを願っています。
△柏崎は「海のまち?」「風のまち?」「エネルギーのまち?」「観光のまち?」・・・いずれも中途半端で「特色のないまち?」になっているようです。行政の人に「しがらみ」があるからなのではないでしょうか。
どういたしまして。ご苦労様です。(女性60代)
- ▶ 活気のある市に！(女性60代)
- ▶ 県及び市町村の首長が入れ替わる度に方針転換されるような政策、ビジョンでは無意味と考える。行政として、明確な策定をお願いしたい。(男性50代)
- ▶ 核問題は何億年単位の問題、人間がいなくなったあとの地球の姿も考えるべき。次の世代(人間でないかも)を考えて経済のみではなく考えていきたい。(男性60代)
- ▶ 次世代に負の遺産を残さない政策をしていただきたい。(女性60代)

- ▶ 市内大手企業が撤退、中小企業の衰退で経済に元気がない。工業団地もガラガラの状態。この状態をどのように脱していくか大きな課題であると思っている。市外に勤めている者として、市内に自分の知識を活かせる働き口がないのが残念である。柏崎市のエネルギー政策から先を見越したエネルギー関連企業誘致など考えていく必要があると考える。企業もメリットがないと来てはくれない。新しいことを行うにはパワーもいる。簡単な話ではないが。(男性40代)
- ▶ 原発事故が起きれば汚染剤で健康が保障されるのか疑問。まして避難ができるのか現実的ではない。よしんば避難したとしてその先の保障はどうなるのか。(福島の人々の苦しみを見ればわかる。)廃棄する産業は是非にない、経費がかかるのであるならば少しでも早く取り組むべきと考える。柏崎の未来の子供達のためにも待ったなし。再生エネルギー政策は直ちに取り組むべき。市で賄えるくらいの施策を考えてもいいのではないか。出来なければ各町内で賄える施設に補助の考えもあるが。(男性70歳以上)
- ▶ ・政策やエネルギービジョンの定期的な市民への情報提示を希望する。
・海洋エネルギー構想はあるのか？(男性50代)
- ▶ 雇用の場の創出が人口減少対策に最も重要。廃炉作業は安全面で不安があり、上記対策としては不十分。環境エネルギー産業を育成することが大事ではないでしょうか？
その他意見
地域の魅力を高めるため、駅前開発を切に希望します。駅前にお土産を買う場所がないのはいかななものか？エネルギー問題と同時に中心市街地対策も急務です。若者が離れてしまう。(男性40代)
- ▶ 多くの雇用や税収を何のリスクも負わずに得ようとするのは虫がよすぎるのではないかと思います。共存からの変革が必要なのではないでしょうか。(女性50代)
- ▶ 失敗しないでいただきたい。(男性40代)
- ▶ 将来構想としては大きな目標をかかげているが、実現させるには非常に多くの問題や資金が必要と感じる。中途半端な取り組みでは実現できないと思うので、市全体で取り組む事が必要と感じた。(男性40代)
- ▶ 一番優先してほしいことは「安全」です。(女性50代)
- ▶ ここへ来てまだ何年も経っていないので取り組んでいるのかがよくわからない。もっと広報活動をしてもいいのでは？(男性60代)
- ▶ 自然の力を無理なく上手に取り込んで、地球に優しいまちづくりをして欲しいです。(女性40代)
- ▶ エネルギー政策の最新の情報の収集と世界全体の流れを読み、他の地域の見本となるような政策を行ってほしい。AIと蓄電池は直近の核となる技術であると思うので活用を期待します。(男性50代)
- ▶ ・ビジョン実現に向け、未来の子供達の為真剣に取り組んでください。時間がありません。
・また、市民の皆様にも解るように逐次説明してください。(女性40代)
- ▶ エネルギー政策、エネルギービジョンは、重要と考えるが、柏崎の身の丈に合った、費用も規模であってほしい。(原子力発電反対の人は、電気は使うな!!)使ってほしくない!!老朽化すれば、全部ゴミになるんだから。現在、柏崎にあるものを、もっと考え、大切にしたい。原子力発電所、全号機再稼働賛成。原子力発電に反対の人、会議も照明にも携帯電話にも、電気を使っている。おかしいですよ。『柏崎の人は、珍しい物好き』と言われ、とびつきで、破綻しないでもらいたい!!(男性60代)

- ▶ 都会のようなスマートエネルギーを目指すのではなく、柏崎に合ったエネルギー政策を期待する。どのようなメンバーが検討しているのか不明であるが、政策方法に一般応募も追加して幅広い視野で政策を検討していただきたい。(女性30代)
- ▶ 古い物はなくして行き、新しい物をどんどん取り入れて行くように進めてゆく。又、これからの若者が住み易い地域にする。(男性60代)
- ▶ エネルギービジョンで新たな産業が創出され雇用が生まれることは重要です。又、地球温暖化対策としての原子力発電の再稼働が必要であり、エネルギーベストミックスを早急に実施するべきである。(男性70歳以上)
- ▶ 環境対策もしつつ、今、柏崎市は若者にとってすごく住みづらいです。仕事先は少なく、転職も悩んでいても行動にできません。環境やエネルギーなどが発展していけばさまざまなことに影響がおよび、今以上に発展してほしいと思います。(女性18～29歳)
- ▶ 安全、安定、地球にやさしいエネルギーができればいいなと思います。(女性30代)
- ▶ 費用対効果が小さいと長期的に考えると理解されにくいと思います。税金、維持管理と問題は山積、、、水素エネルギーは魅力があるかも知れませんが、原子力と同様にリスクも大きいと思います。何かあってからの対策では遅いです。確かにメリットもありますが、デメリットの方が目立ちます。地球という星にお邪魔している、生かされているという事を忘れてはならないと思います。(男性40代)
- ▶ エネルギーに対し、何が良いかも理解できません。有利なところがあればリスクもある。何種類も案が出ていても何がいいか不明、また、風力であれば羽がおれた地域があった時等、そのリスク等お金が、、いかがいたしますか?必ず大金を出して実行、これでいい方向に行ったとしても、上記のように(廃炉作業には1号機あたり、約30~40年、約700~800億円掛かる)かたづけに大金がかかる。人口が減る中、柏崎では出せるのか、税金ですよね。確かに、進むのは必要だと思いますが「こんなはずではなかった」と言う事だけはしてほしくない。今現在の市の職員さんがただの通過点という仕事だけはしないで下さい。最後まで、責任をとれる行動力のある方に仕事をしてもらいたい。(女性50代)
- ▶ 脱原子力発電所に向けて、環境に優しいエネルギーを開発してほしいです。(女性18～29歳)
- ▶ 行う前に全市民に連絡すると共に、少しずつ少しずつ進めていった方が批判は少ないと思う。(男性18～29歳)
- ▶ 原発に依存しない政策の推進。地方都市ならではの観光事業ごとに通年観光の可能性をさぐり、行政も積極的に支援する政策の立案が早急に必要であると考えます。鉄道の観光客の導入ではなく、高速道路の利用、市内に4ヵ所のインター及びスマートインターの増設も含め、交通網の整備に具体的な方向性を示していくことが求められていると思う。(男性60代)
- ▶ わかりにくい。理想は理解できるが、実現可能性があまり感じられない。(女性40代)
- ▶ 地元企業を活用したエネルギービジョンをお願いします。(男性40代)

- ▶ ・「スマート」の意味がわからなかった。「スマートエネルギー」と「環境エネルギー」の違いがわからない。
 ・基本方針の2, 3, 4は明確に分けられていないカテゴライズのように思う。1だけ、わかりやすかった。
 ・市長の「お願い」には「確実に原子力を減らす、、、まちの形成」と書いてあるのに「本ビジョン」では廃炉ビジョンに触れていない。
 原発の負の側面に具体的に合ったビジョン策定が望ましいと思う。
 ・無作為に選ばれた市民3000人の多くが理解できる平易なパンフレットにしてほしい。要するに「脱炭素のまち」が言いたいのか、何が一番言いたいのかよくわからなかった。
 脱原発を謳えない為に回りくどい表現を使わざるを得ない策定者の葛藤を私レベルに悟られてはいけないと思う。(女性50代)
- ▶ 理解できないことが多いです。具体的にいつ頃どんな状態かを知りたい。今までの進行はどの程度なのでしょうか？(女性70歳以上)
- ▶ 原発反対の方がいるが、東電からの助成金に代わる具体案を示してほしい。
 廃炉産業の育成は、必要かもしれないが、外からの事業の受け入れで、その関連サポート、新しく設備投資を少なく外からお金を引き込むこと、宿泊や食事など、他に何ができるか？
 海外で一般家庭用に風力発電を取り入れているのを見た。コンパクトなもので、円柱のスポンジのようなものが振動する力を利用するもの。
 市としての一体化、西山-米山-高柳 (男性40代)
- ▶ 今年も雪が少なく(無い)冬は、生活には便利であります。一方、雪どけの水が農業には大切な資源となります。日々、私達は、自動車に乗り、スーパーでは、十分な食料を手に入れることができます。これが当り前の生活としていますが、気候変動の続く現在、なんとなく不安を感じます。そして、身近にある原発によるエネルギーが、地震がいつ起こるかわからない時、私達は、どうなるのか、、、どうすればよいのか、、、私は、原発よりも安心できるエネルギーを選びたいと思います。(女性70歳以上)
- ▶ 最終的には全号機廃炉が望ましいが、先ずは再生エネルギーの方向性や目途がつく様な政策が必要だと思います。国・県・市と情報の共有を東電と密かに連携し又、地域外の市町村からの理解を得られる様に早急に取り組むべきです。市の再生エネルギーについては、勿論柏崎の経済が一番の事として発展することが重要です。(女性60代)
- ▶ 脱炭素社会を作るためには、リスクがあるが現状では一番効果があると思う。しかし市の政策は推進には積極的に協力せず、長期ビジョンの美しさばかり求めているように見える。太陽光で最大出力どのくらい？風力でどのくらい？柏崎だけの消費をまかなえる可能性があるか全くわかりません。エネルギーにはガスも含まれますが、ガス事業売却してますね。水素メタンハイドレードはガスではなかったのですか？(男性60代)
- ▶ ・原発にいつまでも頼っていない。
 ・市の財政面からも、次の施策等を考えていってほしい。(男性60代)
- ▶ エネルギー政策も大切ですが、柏崎市の現実を無視するような事では、前に進めないと思います。今あるものを、大切に利用するべきだと思います。自然エネルギーでは柏崎市はなりたちません。(女性50代)
- ▶ 一步一步確実にビジョンに向けて進めて欲しい。(女性70歳以上)
- ▶ 私にはあまり知識、認識がないので、あまり分からないことだらけですが、これからの時代を生きる子供達の為には必ず必要なことなんだと思います。今元気に育ってくれている子供達がより良い柏崎で生活していける様になってほしいです。不安なく安心していけるように。環境も経済も。(女性30代)
- ▶ 原子力発電に頼る事なく、経済活性化に向け次世代に希望を与えてほしい。(女性50代)

- ▶ 今の「柏崎らしさ」は、さびれていく老人の住む町のイメージが強いので、新しいエネルギー政策に取りかかり、活性化、若い人のイメージの町になるようにしてもらいたい。(女性60代)
- ▶ ・柏崎は自然エネルギーには恵まれていると思うので進めてもらいたい。
・原発に関しては、できるだけ早く全号機廃炉に向けて進めてほしい。(男性60代)
- ▶ 柏崎の良い所をもっと他県にアピールして取り入れ、活気ある街にしていきたいと思います。若者がUターンしたいと思う街づくりが重要です。(女性40代)
- ▶ 柏崎は燕三条市の様に、日本全国・世界に通用する地場産業が無い町です。柏崎の多くの企業・サービス業他、東京電力さんに関わりを頂き生活をしております。ここ数年…柏崎の経済は最悪になり、県外へ出た子供達も帰っては来ないと多くの方から聞きます。柏崎も思い切った事をしないと…あらゆるエネルギー開発・技術を国の力を借り、若い人材を集めるなどし、柏崎を日本一のエネルギー都市にはどうでしょうか?年間約1000人の方が亡くなり、赤ちゃんは500人位とか…今のままでは将来柏崎は無くなるかも?(女性60代)
- ▶ ALL柏崎でつくる新たなエネルギーのまち、とあるが、石油産業は限りがあり、原子力産業はあくまで一企業の物であった。今後は市民生活が豊かになり、災害に動ずることのないエネルギー産業に期待したい。またプロジェクトイメージの中に、公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上、とあり「JR柏崎駅前から新庁舎までのアプローチに…」とあるが、一体市民の何%の人間がそんな所を利用すると思っているのでしょうか。何が暮らしやすさ向上なのか、もっと違う公共施設、もっと市民がちゃんと活用している公共施設から実行すべきではないでしょうか。市民の生活を良く考えプロジェクトを進めてほしいです。暮らしやすさ向上とプロジェクトのPRとは全く別のこと。それを認識していただきたいです。(女性40代)
- ▶ 素人考えであるが危険だと思うものはそのままあっても危険ならば稼働して利益を得て、その分経済の発展に回して欲しい。エネルギーもすごく大切だけど、今、柏崎の街は死んでいるに等しく活気もなく若者は都会に行き、中年は近街へ通っている現状。動かす事により街に人が増えて、賛成であろう反対であろう原子力を持っていない都会の人が騒ぐのではなく、自分達で色々な意味で活動できて、エネルギー政策や柏崎の経済についてもっと動ける街にしてほしいと願います。(女性40代)
- ▶ エネルギー政策ビジョンも大切であろうが、直面している人口減少・高齢化対策も重要でないかと思う。(男性60代)
- ▶ 若者を集める事より、人口減少の今、都会から中間～上クラスのハイクラスな老後の暮らしを求める。シニア向けホームも作り、この町にお金を落としてもらう様な仕組みを作ってもらいたい。一流企業、専門知識のあるリタイアした人を集め、エネルギー政策の柱となってもらい、こちらに移り住んで頂くという方法もあります。私自身も千葉や神奈川あたりにしかないハイクラスなホーム(新しいエネルギーを利用したTV局の話題になる様な施設←全国ネットで放送してもらうレベルで!)、趣味や特技を活かせる施設を探していますがこちらにはありません。少しでも若い60代(自由に旅行に行ける世代)は行動力があるので、その世代をターゲットにした街づくりを望みます。おいしい水と酒と米があるので、新潟はまだまだアピールできる食を売りにすれば人は必ず集まります!(女性50代)
- ▶ ・エネ創出、供給と同レベルに省エネについても発信してほしい。
・資料内容はアンケート回答者だけでなく、市民が何らかの手段で確認できれば。(広報、HP等で確認可でしたらスミマセン)(女性50代)
- ▶ 何でもスイッチ一つで出来る生活は望みません。自然災害に強く柏崎の自然を生かしたエネルギービジョン、風力・水力・廃棄物発電(前にテレビで見たバナナの温室もそうですか?)に期待します。(女性60代)

- ▶ エネルギー政策をやっていくことはとても重要だと思います。それに関わって人が集まり、働く場所の拡大、町の活性化が望まれます。現在、大学生ですが柏崎に戻ってきたいと思っても働く場所が少ないです。エネルギープロジェクトが進むと同時に柏崎が魅力的に思える町になってほしいです。（女性18～29歳）
- ▶ 色々あるけれど、あるものに頼る事はこの先不安(原子力)。地域に根差したエネルギー！それは市のみならず日本を支える物になろうと考えます。未来に明るい指針を取らなければならない時に入っていると感じます！（男性60代）
- ▶ 原発事故は恐ろしいと引っかかっています。それに代わる新しい産業が生まれるのは良い事です。若い人達に明るい未来があるように願っています。（女性60代）
- ▶ ・人口減少が顕著で、たかだか8万人の柏崎市で地域エネルギービジョンへの意見と言われても、絵空言としか言いようがない。
・現実には何をやるにも先立つものが必要で、原子力発電所の号機をより多く、より長く、安心安全に稼働してもらい、そこから受ける核燃料税や交付金等の税収を得ながらご質問の懸案とか、柏崎市でしかできない他と差別化した大規模農業などに活路があるのではないのでしょうか。（男性60代）
- ▶ 正直、唐突にこのような資料を送ってこられても理解するのは難しいです。常日頃からこうした事に携わっている方は大丈夫だと思いますが。発電所が稼働しない事で出入りの業者も影響を受け、市内の小売店の売上げも下がってきているなど、下降が止まらない当市の現状を是非とも直視して頂き、10年先の事よりも、今のこの現状を何とかするために廃炉・原子力反対・使用済核燃料税などとスタンドプレーはせずに、早く再稼働させてください。以上（女性50代）
- ▶ ・次世代エネルギーに将来性があるのか？
・果たして本当に再生可能エネルギー(風力や太陽光)で採算が取れるのか?地域が活性化するか？
・小水力発電で得ることのできる電力と工事の費用は割に合っているのか？
・地域エネルギー会社などが一部の人間や企業・政府などにつながり、事業を有利に進めるなどの癒着や付度があってはならないと思うなど。（男性18～29歳）
- ▶ 柏崎を活性化できるような環境に関する産業を考えていけたら良いのではと思います。若者が定着するような活気ある柏崎になれるような産業を早急に考えるべきだと思います。（女性50代）
- ▶ オール電化の家庭が増えている今、エネルギーに関して柏崎市として取り組む事は素晴らしい事であると思います。ですが、市民一人一人の意識がそこまで高まっていないと感じています。東本町・駅前通りを見ても、活気を感じない柏崎の変化を課題に、人々の気持ちに柏崎市に興味を持つよう努力していただきたい。（女性60代）
- ▶ このアンケートで初めて知り、柏崎の明るい未来が少し見えてきた気がする。10年後には良い方向に向かって町が活性化している事を期待する。（女性18～29歳）
- ▶ 市民への情報提供・意見集約等に関して、よりきめ細かな対応を期待しています。（男性60代）
- ▶ 柏崎の人口が毎年減っていく中で10年後の目標が分かりません。（男性60代）
- ▶ 原子力発電所については廃炉を進めるとしても柏崎市で最大限協力すべきだと思います。今後はクリーンなエネルギーへの転換が必須であり、乗り遅れると更なる柏崎市の後退、地域活性化が困難になると予想されるので、早くプロジェクトを進めてほしいです。（男性40代）
- ▶ 安心安全に暮らせることが第一だと思います。（女性50代）

- ▶ 新しいエネルギー政策により、柏崎に新しい産業が生まれ、より豊かな暮らしが出来る事を望みます。（女性40代）
- ▶ 柏崎市地域エネルギービジョンに記されている通り、複合的(様々なエネルギー供給の組み合わせ)に検討すべきと考えます。柏崎特有の気候・特殊性も加味し、安全で継続的なエネルギー供給にしていきたいと考えます。原発については直ちに全号廃炉希望ですが、現実的に考えると徐々にというところでしょうか。廃炉の技術(安全な)もないのに、建設してしまったことが大きな間違いだったのです。次世代には安全なエネルギー産業を期待したい。（女性60代）
- ▶ 柏崎市が変わっていく政策として大切だと思います。これから色々大変だと思いますが、地域に産業を誘致して柏崎市が発展していくのを応援しています。（男性50代）
- ▶ 市の発展も視野に入れて頂きたい→他市町村、他県にも向けたエネルギーの展開(=柏崎市の発展)（男性50代）
- ▶ 電気が無いと生活が成り立たない時代。電気を溜める、原子力以外で電気を作る事が必要。原子力は有限、いずれ廃炉。ゴミ捨て場もおぼつかない現状(放射線の問題が有る為)、太陽光だけが個人でも発電出来るエネルギーの唯一の救世主と信じています。個人でも市の施設でも太陽光発電することを願っています。発電量は少ないがスマホ等の小さな電力から個人で発電しよう！（男性60代）
- ▶ 今後の柏崎市地域エネルギー対策としてのビジョンは
 - ①原子力産業との共存
 - ②再生可能エネルギーの推進
 - ③安価なエネルギー供給(市内)
 - ④緊急時のエネルギー確保(停電時対策)
 が必要と考えます。市内に就職できる会社を多く誘致し、障害者が安心して仕事に就く事ができる環境作りをお願いします。他の県・市にて生活した私だからかもしれませんが、上記環境が整っていれば住みやすい街になると思います。（男性50代）
- ▶ エネルギー政策、地域エネルギービジョンを考えるのは必要なこととは思えるが、毎日の県・市・国・のニュース報道を聞いていると、どうしても不安になってきます。様々な動き・計画があるのは分かるが現実的とは思えない。浮足立っているとは思えない。（女性60代）
- ▶ 発想は良いと思います。ただ、良い仕組みを作ってもそれをしっかりと機能させなければ意味がありません。機能させるのは人間です。なのでしっかりと訓練などを行うことが重要と考えます。仕組みを作って終わりではなく、それを永続的に機能するよう努めていただきたいと思います。（男性40代）
- ▶ 克服すべき課題はたくさんあるとは思いますが、参考になるような成功例も色々あると思いますので、実現に向けて前進して頂きたいと思います。櫻井市政には期待しております。（男性40代）
- ▶ 市外出身なので柏崎の歴史は分かりませんが、人口が減少する中で柏崎市内での就職率も減っていると思います。雇用の拡大という意味でも「原子力」に替わる安全なエネルギー事業が必要であると感じます。秋頃に東北電力より還付金がありますが、新たな制度として契約アンペア数に応じた住民税の減税などあれば省エネ化につながると思います。現実には難しいですが・・・（男性18～29歳）

- ▶ 原発が必ずしも安全ではないというなか、他のエネルギーに頼るのであれば“かぜのまち 柏崎”は風力に助けをもらうのが「柏崎らしさ」であるかと思います。自然のものであるから安定はしていないのかもしれませんが。今は電気なしの生活は考えられなくなっていますが「電気なし」で暮らせる方法も提案していくのもいいかもしれませんね。柏崎地域エネルギービジョンを読みましたが、専門用語?難しい言葉があり文章はなんとなくしか理解できませんでした。プロジェクトイメージの概要図をみて、こうしたいんだなというのが分かりました。（女性40代）
- ▶ 別紙資料を見ましたが、はっきり言って複雑すぎてよく分かりません。エネルギーの事は色々相互に関連し合っていると思います。5年先・・・10年先はどうなるか。将来を見据えて日本のみならず世界的な視野をもって戦略を建てる事が必要かと思います。（男性70歳以上）
- ▶ 柏崎の街は物づくり産業・観光・原子力と3つがうまく融合していたのを思い出します。一つに特化するのも良いですが、バランスの取れた街づくりを期待します。海・山・工業団地の空きスペース、そして原子力発電、柏崎駅に新幹線もしくはミニ新幹線を期待します。（男性50代）
- ▶ 自然エネルギー技術開発。市が補助して産学で連携して自然エネルギー産業を育成する方向が大切なのではないかと思います。そして柏崎地域自前の電力が出来る様になれば最高だと思います。（男性70歳以上）
- ▶ 本当のところよく分かりません。今、柏崎市の元気がなくなっていると感じます。店が減ったり、買う所がなくなってきました。原子力に頼らず市が発展できればと思います。（女性60代）
- ▶ 同じ様に感じる基本方針1～4(エネルギー・環境)同意語的に感じるので縮小し、施策を細目化し分かり易い、そして出来ることをビジョンとして頂きたい。何年前か前、河の水をJRが無断分離し、自社のエネルギー不足を補っていたが、それもこれも再生可能エネルギーを徹底管理組織も必要。（男性70代）
- ▶ エネルギー政策も大事だが、海に関することをもっと考えた方がいいと思う。（女性30代）
- ▶ 安心して暮らせる環境。（男性50代）
- ▶ 近年、天災が多発している中でどの位本気でやり続けていけるか疑問。（女性60代）
- ▶ ・放射性廃棄物の最終処分地にしない。
・東電本社機能の一部を柏崎にもってくる。（男性30代）
- ▶ やはり不安でしかない原子力に頼らないで、自然の力を利用したエネルギーで安心して暮らせる将来に期待したいと思います。（女性40代）

- ▶ 昨今の温暖化により新潟県でも地中熱・太陽熱を利用すべきと思う。風力も上手に利用。原子力は空気を汚さないけど万一の事故を考えれば、今のうちに全廃炉に向かうべきと思う。この廃炉産業も上手に柏崎の産業に結び付け、費用は東電、廃棄物処理は山奥の一部を買い取り、安全・完全な施設を造ることを条件とします。人口も減り電力量も今より確実に減少すると思いますので、将来の子供の為にも早急に取り組む必要があると思います。
- ※3Pのプロジェクトイメージの2番目の、新庁舎までの・・・の所ですが、これは今工事中ですが導入されていないのですか?もし導入されておらずの工事なら、柏崎は考えは浅いと思います。もっと将来を見据えて欲しい。やはり東電にばかり頼り、自分達で先に先にと考えず。読みがないですね。
- ※話はそれますが、エネルギー同様、産業の一つとしてやはりミニ新幹線を通すべきです。長岡→柏崎→妙高・・・何の廃炉工事にしても人の往来が不便だと地域は発展しません。私は雪・雨で何回か足止めされたり、立ち往生の経験あります。(信越線不通の為)
(女性60代)
- ▶ 調査用の資料が一般の人には読んでも分かりにくいような気がします。新たなエネルギー政策によって雇用も増え、若い世代が柏崎で活躍できることを期待します。(女性40代)
- ▶ プロジェクトイメージ及び将来構想の実現においては、人口減少や新技術の急速な発展などを踏まえると、IT・AI化という事業やノウハウも必要だと思います。新潟県で推進しているIT産業起業支援と両立して行っていくと、IT・AI関連のビジネスも地域エネルギーのビジネスに貢献でき、的も絞られるので、IT産業も一緒に加えていくと良いと思います。
(男性50代)
- ▶ 現在市内で行われているエネルギー関連事業や産業(原子力以外)についての知識が乏しく、なかなかイメージしにくく思いました。(男性50代)
- ▶ 柏崎から日本・世界へ、エネルギー政策の大胆な提案をしてほしいです。柏崎市地域エネルギービジョン、とても希望が持てる素晴らしいものだと思います。個人的にはメタンハイドレート研究を柏崎が先頭を切ってやってほしいです。表層型メタハイがあると知られてから何十年も経っているのに研究が進んでいない。メタンハイドレートを発電に利用し、安定的に安価に電力が供給できれば脱炭素の街への新しいアプローチになるのではないのでしょうか。人がやらないことをやってこそ、柏崎の復活があると思います。私も協力したいです。(男性18～29歳)
- ▶ 現在、福島第一原発の周辺で中間貯蔵の業務についています。KKサイトで働きたい事も含め、柏崎の発展についても強く希望しています。市の今後の取り組みに期待しています。
(男性60代)
- ▶ エネルギー政策をしてエネルギーをいくら地産地消できるようになったとしても、このまま人口が減少していくのであれば政策の必要性を感じない。人口が減少している今、地産地消よりも企業などを誘致して外部から柏崎に移り住むような人が増えるような形が、今、最も目指すべき将来像だと私は考える。別紙資料4ページに記載されている“地域エネルギー会社”からの“利益の一部を地域へ還元/再投資”にある“地域行事支援”とは実際にどのようなことを行うのか気になった。(男性18～29歳)
- ▶ 感情的にならないで科学的に進めてほしい。(男性50代)

- ▶ 将来地震は必ず来るし、天候不順で大型台風や大雨などの災害も必ず来ます。我が町を福島のように「世界の恥さらし」にはさせられない。福島の廃炉工程は40年で終わる計画のようですが、進みも遅く、計画を絵にしてみただけの感がある。間違っと思ったら即座に方向を直すこと、これをしなければお客さんは居なくなるでしょう。オリンピックを控え、韓国・中国が日本叩きのチャンスと狙って観光に来ます。観光でお金を使ってもらうのは嬉しいですが対応はどうするのですか。素人でも見ればすぐ判る恥を見せるのか。私も日本人として肩身が狭く感じています。原発も良い所がありますが、世界に通用する計画を作ってください。第二の福島の災害を起こしたら間違いなく東電は消えます。間違っった考えは二度としてはならないと肝に銘じ。東電さん早く何とかしてください。アンケートなんか取るな。取らなくても解るだろう。（女性70歳以上）
- ▶ 柏崎の産業の活性化に向けてエネルギービジョンの策定に期待します。（男性60代）
- ▶ 人口減が一番心配です。（男性70歳以上）
- ▶ 住み良い柏崎になる事を期待します。（男性40代）
- ▶ 電源の脱炭素化に向けた取り組みが世界で加速し、再生可能エネルギーの普及は系統電力に頼らない分散型のエネルギー構造への転換を促し、デジタルトランスフォーメーションが事業そのものの変革を促すなど、エネルギー産業全体の構造変化が進みつつあります。今後、エネルギー政策を進めるにあたり、柏崎地域の環境や特性等を十分に考慮し、将来の変化を先取りできる様な取り組みが必要と思われる。（女性60代）
- ▶ 柏崎の海岸(長い)を活用し、数多くの風力発電を設置する事が非常に重要である。風力発電の柏崎というイメージが絶対に必要である。柏崎＝石油～原子力～風力エネルギーの町・・・それにとまなう産業、メンテナンスの会社の創設・雇用の創出となる様、市政を進めてほしい。（女性40代）
- ▶ 何をやるにも莫大なお金を必要とすると思うが、後々失敗しましたでは困る。未来を見据えたうえで決断をお願いしたいと思います。（女性60代）
- ▶ 物を作り出すこともすごく大事ではあるのですが、物を自然に帰す技術も必要になってくるのではないだろうかと思ひます。今後は物作りも最終的に自然に帰す時の事を考えて作成しなければならない時代が来ると思ひます。（女性50代）
- ▶ （設問10の提案）原子炉廃炉の代わりに天然ガス、LNG燃料で蒸気タービンを駆動して再稼働が可能出来るのではと思ひます。それによって放射性拡散リスクはなくなる。
（設問8の提案）天然ガス、LNGガスで水素ステーションを造る技術がある。それによって地域エネルギー会社、地場産業の活性化ができる。柏崎地域では原料ガス導入（帝石、石油資源開発）出来る。
（設問5の提案）東電事故後 ※ちなみに（福島、相馬市）（上越市）ではLNG及び天然ガス導入の発電所がある。（男性40代）
- ▶ ・ 東芝、東京電力、利権など地元大手企業と連携し、蓄電技術、EV関連技術分野に取り組むことが現実的であり、中小企業への波及効果も期待できる。
・ 不安定な電源をメインにするよりも原子力発電所で発電した電気を地元で安価に供給できる方策を考えるべきである。
・ 廃炉事業は他地域の取り組みを見ても新産業に結び付くものはない。核エネルギー分野に取り組むのなら国と連携し核変換技術（核種の短寿命・安定化）による放射性廃棄物処理分野と核医学分野をセットで誘致することが有用性のある事業と考える。（男性60代）
- ▶ 3. 11の震災から8年あまり、いまだに大きく取り上げられる福島の原発問題。人間がコントロール出来ない原発に対しては0からの見直しが将来に対する責任ではないかと思ひます。これからの柏崎に子供達が安心して暮らしていける未来を作っていってほしいと心から思ひます。（女性60代）

- ▶ 私は何が良いかはわかりません。ただ次の世代が住みやすいものにしてほしいし子供の笑顔を見ていたらいいと思います。(女性60代)
- ▶ なぜ柏崎が選ばれたのか?柏崎はあの頃お金が入ることにばかり力を入れていたのか・・・?ところが、どんどんすたれていっている。輝かしい未来を期待できない状況だ。次世代にいったい何を残せるのか?7つもどうなっていくのか?700~800億×7つ分→どこからこのお金でいいのか?今の赤ちゃんたちから?!日本国の問題であると思う。こんな小さな柏崎だけでは解決できない!!「桜井さん」大変です!!御苦労さまです。(女性50代)
- ▶ エネルギー政策への市民の関心がまだ足りない。子供達に興味を持ってもらいたい。(女性18~29歳)
- ▶
 - ・エネルギーは地産地消
 - ・必要以上の生産・供給はせず、最小限の設備維持をする。
 - ・地域エネルギー会社とシステム化し、成功した場合はその手順やシステムを他の地域に広げるサイズ感が大事。大きすぎても小さすぎてもうまくいかない。(男性40代)
- ▶ 今すぐに廃炉にならなくとも、原子力の仕事で生計を立てている人がいる。原子力に代わる産業が無ければ柏崎の過疎化は止まらない。エネルギー政策だけでなくもっと積極的に大型商業施設など市内の経済の事も取り組んでいただきたいです。(女性40代)
- ▶
 - ・住民に負担がかからないことを大前提とすべきと思います。(現状、原発の停止によって大きく経済が落ち込みダメージを受けている事業者が多い)
 - ・エネルギー政策＝経済発展となるビジョンであって欲しい。(男性60代)
- ▶ 効率と安定性重視 (男性30代)
- ▶ 次世代エネルギー産業の確立はそう簡単に出来る事ではない。研究試作人材育成は大事なことに違いないが柏崎市単独で達成は無理である。県単位それも複数県の協力なくして達成は出来ないと思う。幸いに柏崎には原発がある。これを利用しない手はない。市として財政を安定させる為にも必要であると同時に人口減少に歯止めをかけるにも必要であり廃炉の進行に合わせ風力等出来るところから手をつけるべきと思う。(男性70歳以上)
- ▶ 今一話の先が見えませんが?(具体的というか)CO2排出は減らす。新しく森林開発をしない、は分かります。太陽光発電・風力発電はどこに作るんですか?風雪、塩害は大丈夫なんですか?買い取り金も安くなっていますよね?柏崎をよくしたい、元気な柏崎でいたいは強く思っています。(女性60代)
- ▶ 原子力発電は将来性が乏しい。時代の流れは自然を生かしたエネルギー産業に向かっている。柏崎が日本や世界をリードする新しいエネルギーの町として発展することを期待する。(男性30代)
- ▶ 市が利便性の高い場所を専有するなど愚の骨頂。市職員の給与は国から100%出ているのか?市民の税金から出していないのか?新たに作った海岸近くにある消防署は海と100%津波で破壊しないとの約定でもかわしたのか?イトーヨーカ堂で使われなくなった4・5・6Fを市で有効活用できなかったのか?新市役所予定地をブルボンに譲渡し、日清フーズの体験ミュージメント用に利用してもらえないか話はしたのか?コンサートホールの横に介護施設なんぞ作ったらどうなるか考えたのか?工科大と産大を合併せず産大を閉校したら、若年層の流出に歯止めがかからないのではないかと?都市計画や市のビジョンが全く見えません。(男性40代)
- ▶ 温暖化対策とエネルギーバランスを考えると、市の取り組みも重要ですが、グローバルな取り組みが重要です。立地を考慮した取り組みに期待しています。(男性40代)

- ▶ ・廃炉はビジネスにならないと思う。(電力会社はお金に余裕のある時に少しずつ進めるため)
・エネルギービジョンについて、まだ計画だけの段階であり、30年後の姿が想像できない。(予算等が心配) (男性60代)
- ▶ エネルギー政策に対して、見識ある人を集め遂行できる組織作りを求めます。(女性40代)
- ▶ 勉強不足でよく分かりませんが、将来構想、実現できたらいいと思います。少しでもお手伝い出来れば協力します。(女性60代)
- ▶ エネルギーに関しては柏崎のみが考えていくことではないので、広い視野での発想が必要。原子力エネルギーの活用で考えるなら、安全性確保の中で代替エネルギーへの変換が可能になるような時点で再考していくべきである。(女性60代)
- ▶ ・「市民意識調査資料」に記載されている表現は、誰もが理解して解答できる表現ではないと思いました。正しい調査結果を求めるなら、もう少し一般の人に分かり易い表現を使うべきだと思います。
・市からの一方的な提示ではなく、市民の意識(現状をどう捉えているか、今後どうあるべきと考えているか)を把握し、それを基盤とした政策の提示がなされるといいと思います。
・市内で取り組むべき事と、国として論議し市で取り組むべき事柄と、区別が必要ではないでしょうか。(設問11) (女性18～29歳)
- ▶ 原子力発電+新エネルギーにて、もっと地域住民に仕事や電気料金・税金等を安くして、暮らしやすい町にしてほしい。若い人が暮らしやすい町づくりを望みます。(男性60代)
- ▶ 各種産業に関わる技術者のレベルUPを図る必要がある。(全国的に見て柏崎の技術者のレベルが少し低いと思われます。)(女性60代)
- ▶ ・柏崎の特徴である「原子力産業」に焦点を当てた点は賛成です。→今後必ずある「廃炉」事業は、日本だけでなく世界に輸出できる技術だと思います。例えば、広島原爆ドームのように柏崎から「原子力産業の歴史」を後世に伝えていけるようになると良いと思いました。
・柏崎のもう一つの魅力は「自然」だと考えています。特に海は夏に海水浴・花火と、観光客の楽しみになっています。しかし現状、浜辺の整備や駐車場・宿泊所の確保は十分ではないと感じます。また、若い世代に向けて、海に見えるカフェやレストランを作るなど、土地の管理を行って魅力あるまちづくりをしてほしいです。→エネルギー政策と一緒に今後のまちづくりを具体的に考えてほしいです。(5年、10年、30年…スパンで) (女性18～29歳)
- ▶ 私は〇〇、〇〇です。発症してから苦しみながらも細々と生活してきました。柏崎が今後、太陽光や風力発電事業を進めて行くことにショックを受けています。昔テレビで風力発電の被害にあっている人を見ました。体に感じるか感じないか程度の微細な超音波の様な振動で頭痛・めまい・吐き気・不眠等の症状が出て生活出来ず、家も土地もあるのにそれらも全部捨てて出て行くしかない状況でした。こういう環境弱者はどこにでも生まれてしまうとは思いますが、他人事ではなく、自分がそうになったら誰がその責任を取ってくれるのか、そこまで市が考えてくれているとは到底思えません。原発は廃炉産業をやっていくしかないでしょう。誰かが後始末しないとイケないんですから。(女性50代)
- ▶ 柏崎は風も強く、海もあり(塩害)、電柱が危険です。なるべく早急に電柱をなくしてほしいです。(女性70歳以上)
- ▶ 色々なことに取り組んでいるが(取り組もうとしている)、市民への説明や情報の供給がいまいちな気がします。課題や将来構想は明確にされているが、紙面で訴えても興味がない人は読まないと思うので、提供の工夫をぜひ行ってほしいと思います。(男性30代)

- ▶ もう少し分かりやすく身近な説明をしてほしい。まず興味を持てるようにして欲しいです。定期的に広報で説明放送するとか、学校行事かアルフォーレ、コミセンとかで分かりやすい映像を流すとか。（女性70歳以上）
- ▶ 原発再稼働の場合、冬期の避難は犠牲が前提になります。核燃料サイクル使用、燃料最終処分場は確保されていない。廃炉になっても同じ事。廃炉解体と簡単に言うが、その後どうするのですか。福島あの通り、原発に安全安心はないと思います。次にそして当地（久木太）は急斜面、土地滑り地域、雪も多く坂道で、生活道路には交通不便の土地、昔の作道（60年前4mの狭）、一箇所しか道がなく迂回路もない。弊害も出ています。私の土地を無条件で提供します。今は不便の地は老いも若い人も住みやすい地域に年々過疎に進み寂しいかぎりです。市長曰く住みやすい町と言いますが、その地域住みやすい様にすることこそ、保全管理景観等を守ることが出来ると思います。生活道路の整備・拡張くださるよう節にお願い申し上げます。（男性70歳以上）
- ▶ 現状の原子力維持し続けている間に新たにエネルギー政策を検討。（男性40代）
- ▶ 難しい大変な事業と思いますが、安全第一と将来の為、宜しくお願いします。市民への情報はこまめに宜しくお願いします。（女性60代）
- ▶ 柏崎市にはエネルギーをつくる電力会社があります。地球環境の変化で色んな災害が生じております。色々なエネルギーが必要だと思います。電力会社と協力し合い安定したエネルギーを供給出来、街灯が多く安心安全な街が出来る事を願います。官にない知識、技術も民には有ると思います。民が無い知識を官は有ると思います。新潟地震、柏崎沖地震、東日本大震災と経験しました。大きな津波は勿論、灯りが無かった怖さは恐怖として残っています。（女性70歳以上）
- ▶ 素晴らしいエネルギービジョンだと思いました。このビジョンの実現には、私達市民の理解と協力が必要不可欠だと思います。新しいことを受け入れる事（もらう事）はとても難しいです。未来を担う若者や子供達に広く深く知ってもらい、柏崎の未来に夢と希望を持ってもらい、世界に誇れる柏崎市を目指してほしいと思います。（女性40代）
- ▶
 - ・夢みたいな将来語るより確実にやってくる廃炉作業産業（廃炉）早く計画するべき。
 - ・市民の税金使う事や一部の企業の利益ばかり優先させるな。
 - ・刈羽村の原発、東電への対応を参考にすべきだ。（男性60代）
- ▶ 概ねの方向は妥当なものと賛同し敬意を表します。しかし、市長のご説明に廃炉計画と再稼働、使用済み燃料とその経年累進課税について等、地域市民の安心安全と経済問題を絡めて取引すると誤解を受けかねない表現が気にかかっています。このことが将来にわたり禍根を残すことのない様、表現には十分なご配慮とご説明をお願いいたします。賛同者がより増えることを願って!!（女性60代）
- ▶ エネルギービジョンなるものに期待はしないが、廃炉産業は大いに進めるべきである。（男性50代）
- ▶ エネルギー政策が大切なのは承知ですが、もっと目の前の問題が多くあると思うので、まずそれらを解決することが必要だと思います。（男性40代）
- ▶ 将来像3.0を見据えるのは大切なことだが、現段階から考えて現実的でないことが多すぎると思う。（スマートハウスの普及、メタンハイドレート、FCV（水素自動車）など）それよりもその前段階である柏崎2.5に対する、より具体的な方策を提示してもらったうえで、それに対する調査を行った方が現在としては適当だったのではないかと思う。（男性40代）
- ▶ 大方賛成です。コロナウイルス対策みたいにずさんな政策を世界に発信しない様、充分検討され日本一エコな街としてTV、マスコミに取材される様に、徹底的に。もうこれ以上考えられないくらいに続々発信して欲しい位です。子供、孫に自慢できたら嬉しいですね。（3～40年後）頑張ってください。（男性70歳以上）

- ▶ 柏崎原子力発電所の稼働するかしないかで大きくエネルギー政策や地域エネルギービジョンの根本が変わって来ると思う。又、原子力発電所の安全性や不測の事態が起きた時のしつかりとした避難計画がなければ、新しいエネルギー事業や再生可能エネルギーに期待するしかないと思います。(男性50代)
- ▶ 作るから貯めるを考えてもいいと思います。タービンを原子力以外で回す方法ってないですか?動かさないのは原発の中の原子力の所だし、実際に電気を作るのはタービンだし。自然エネルギーは一定しないので、作ったはしから貯めておく方法は考えられませんか?(女性50代)
- ▶
 - ・エネルギーのまちとしての歴史を大切にして、これからもエネルギー産業の活性化に取り組んでほしい。
 - ・地球温暖化対策や環境エネルギー産業の育成に柏崎市がリーダーとなり、将来世代が豊かな生活を送れるように市民一人一人がビジョンの実現を目指してほしい。(男性40代)
- ▶
 - ・盛り込み過ぎて何を重視したいのかが分かりにくい。1〜2に絞ると良い。
 - ・風力発電は現在あるものは活用できると思わない。他の方法を考えていくのか、風が強い地域のためこの産業に人材とお金を投資してもよいとおもう。
 - ・水素製造は技術的に難しいのではないか。安全性も考えると心配である。
 - ・廃炉は市内で受けていく事を前提にしているのか?その場合、処理過程で出るものが市内埋立等になるのではないか。容易に廃炉産業の育成をすべきではないと思う。
 - ・市長はこの調査により、原子力発電政策を変更するつもりはないと言っていたが、それならばなぜ設問10が必要だったのか。(女性40代)
- ▶ 市担当者様 細やかなお仕事大変お疲れ様でございます。地元で生まれ育ちましたが「原発がなければ」と何度思ったことか…(昨年6月の地震の時は、原発が本当に心配でした…)。ただ、現実としてあるのでそれを考えてもどうしようもありません。今後どうしていくとか、一市民として考えていきたいと思っております。☆秋に振り込まれるお金(協力金?)…金額少ないのでは?万が一の時を考えると精神的なストレスは常にある。それに見合うだけの金額でしょうか?東電は立地住民のことをどう思っているのか。疑問に思わざるを得ません。(女性40代)
- ▶ エネファームなどへの補助金が少ない。本当に普及させたいならもっと大胆なアプローチをしてほしい…(女性40代)
- ▶ 福島原発被害を決して忘れてはいけないと思います。“もし”は大げさではなくリアルな事として原発を除外したエネルギービジョンを期待します。地域エネルギー会社の設立は公のものか民のものか“営利⇔損益”がどう扱われるのか。よく分かりません。(女性60代)
- ▶ 柏崎市が原発を「必ず訪れる発電所の廃炉」と分析していますが、その通りだと思います。同時に、柏崎市は原発の新規建設を認めていないことでもあると理解しています。エネルギービジョンの考え方として、海外資源依存の大量生産・大量消費の現在から、自国で賄える資源を活用し、再生可能で高品質な製品開発を進めることが大切であると考えます。処理しきれない産業廃棄物を生み出す今の社会は、真の文明社会でしょうか。櫻井市長は、行政の責任者として、行先の無い放射性廃棄物を生産し続ける原子力発電所に、依存するような柏崎市にしないでください。原発とは直ちに決別し、原発に振り回されない、真のエネルギービジョンに邁進して下さることを信じています。(男性30代)
- ▶ 人が減りすぎだし、町に魅力もない。若者が住みたい町にしないと今回のビジョンも考えるだけ無駄になるのでは?(男性30代)
- ▶ 現在のエネルギー政策から将来のエネルギー政策への移行は大変重要である。しかしどうやったら一人一人の意識が移行するかをもっと考えなければならない。異常気象や環境問題等を挙げても、いまいちピンとこない。まだ対岸の火事の感じである。一人一人の意識の変化がどんなエネルギー政策を行ってもいい方向に向かうと思う。(男性50代)

- ▶ 福島原発事故以降、エネルギーは新たなスタートを求められている。いつまでも原発に依存せず、自然エネルギー等への転換をスピードを持ってすべきである。資料3ページ目の公共施設〜でJR柏崎駅〜アプローチに地中熱〜とあるが、この再生可能エネルギー設備導入はとても魅力的である。この設備を一般道でも可能になる様、期待は大きいので頑張っ
て欲しい。学校への再生エネルギーも大切ではあるが、利用する人達は限られるので、できれば小さな子供(乳幼児)から高齢者まで全ての市民が平等に活用できるように配慮して
ほしい。とても興味ある内容なので今後も結果・経過を市民に教えて欲しい。(父、高齢に
つき本人に聞きながら代筆致しました。(男性70歳以上)
- ▶ 経済優先の政策を人命優先の政策に転換すべき。人命に有害な原子力をこの世から無くす
ための政策を進めるべき。(文明文化の享受より、健康での環境を優先すべき)(女性70
歳以上)
- ▶ ・再生可能次世代エネルギーを普及させては環境破壊と温暖化をさらに早めると思う。
・メタンハイドレートの採取による環境汚染は
・風力発電での騒音被害はないか。
・原発の廃炉一方の技術や開発だけでなく、低温度でも活用する、私用することも考えな
いか。
・基本施策が実現した場合の電力料金が3倍・5倍に…
・将来(3.0)では化石燃料(メタンハイドレート)等を用いずに火葬が出来るか…※高いコス
トをかけて加工した木質ペレットを使用?(雇用が極貧な街3.0)(男性60代)
- ▶ 安価なエネルギーの供給を是非とも期待します。※(物価や税金ばかりが上がる一方で、
収入は反比例して下がっていく一方な為)(男性40代)
- ▶ 理想は素晴らしいが、それを実現する体力が今の柏崎にあるか疑問。再稼働にしても廃炉
にしても、既に存在している原発を利用して少しでも多く市に収益をもたらすのが先だと
思う。まずは原発ビジネスを再度活性化させ、そこで生み出された金・コネ・人材を使っ
て、少しずつ事業として自立して継続可能な再生エネルギー産業を立ち上げて行けば良い
のではないかと思います。具体性も勝算もないのに予算だけかけて事業を立ち上げ何も成し遂
げられないまま塩漬けになっていくのだけはやめてほしい。(男性30代)
- ▶ (知識不足なところもありますが、思ったことを)今、原子力発電所が日本各地にあります
が、何より安定した電力を供給することができるので、ここまで広がったと考えます。ま
たその経済的な効果も大きく、地域に雇用と発展の機会が生まれています。柏崎市の人口
減少が著しい中で、仮に!人口増を目指しているのであれば、限定的であれ稼働させるべ
きと考えます。欲張りかもしれませんが、柏崎市内の電力をまかなうだけに必要な分稼働
すれば良いと考えます。もちろん安全体制はしっかりしてもらった上で。ここで生み出し
た電力は市内の皆様のために使われます、ということだったら多くの方が納得されるの
ではないでしょうか。(そもそも今時点で、生み出された電力がどこに流れているのか分か
りません。)今後自然エネルギーの活用を考えるときに、太陽光や雪を用いた発電と言
うのは柏崎では現実的でないと考えます。風や川の力、湿気?等、常に柏崎に付きまとうも
ので検討した方がよろしいかと思います。イメージを膨らませるのもよいですが、それを
「市民が目で見えて分かるように実行」していただければと思います。(男性18〜29歳)
- ▶ ・突然のアンケートで驚きました。普段自分達の使っているエネルギーに対して無関心で
いた事を思い知らされました。
・ただ今回の「エネルギービジョン」の資料は具体性がなく、イメージが湧きにくかったで
す。最近の環境エネルギーの話題によく出てくる流行のカタカナ語を並べただけのよう
に見えました。(スマート○○とか再生可能○○とか)
・この次のエネルギー産業は原子力発電所のように最終処理が確定していないものをエネ
ルギー源にするのは無責任な気がします。
思いつくままに書いてしまいましたが。(女性50代)

- ▶ 4つの基本方針はどれも重要と思う。最重要に方針2を選んだが、市民の意識向上の面から方針1も重要と思う。市民の理解を得、それを深め、一体となって取り組むことができないければ実現は難しいだろう。小さなことでも良いので少しずつ現実化し、変化が目に見えることで、市民も実感し理解し協力していけるのではないか。（女性50代）
- ▶ ・身の丈に合った政策をすべき。
・政策推進ありきのアンケートは無意味である。
・新市役所の立地が分からない。ヒ素の出る場所?市民は知っているのか?（男性50代）
- ▶ 将来の子どもたちのために安全な柏崎を望んでいます。（女性50代）
- ▶ ・設問8でも書きましたが「波の力」は利用できませんでしょうか?柏崎の海は波も強くて、もし実現できたら大きな武器になると思います。技術を国内・海外へ輸出することもできるかもしれません。
・地域エネルギー会社設立に関して、原子力村からの妨害などは考えられませんか?昨今の報道を見ていると原子力村の恐ろしさを強く感じます。（男性50代）
- ▶ トヨタが発表した「コネクティッド・シティ」のような思い切ったビジョンが必要。（男40代）
- ▶ 現在の状況を好機に捉え、未来の為に本主旨の計画を遂行して欲しい。協力したい。（男18～29歳）
- ▶ この様なエネルギー対策を話し合われているということ、とても素晴らしいと思いました。日本では気候変動についてのニュース、情報や教育も足りていないと感じます。そんな中、長野県は県で初めて「気候非常事態」を出したそうです。今では9/47都道府県が「2050年までにCO2排出量実質0」を掲げているそうです。新潟県もその一員になりませんか?まずは知ること、知ってもらうことが大切だと思います。大人も子どもも市民一人一人を巻き込み、たくさんの小さな一歩を踏み出せば必ず何かが変わると思っています。気候変動についてお話をしている方がいらっしゃいます。ぜひ検索してみてください。「谷口たかひさん」（女性30代）
- ▶ 沖縄県の石垣島?電気自給自足しているとか?参考にしては?（男性60代）
- ▶ 柏崎での仕事が減り、現在青森県六ヶ所村の再処理施設で働いている男性です。柏崎のエネルギー政策に見切りをつけ、六ヶ所村再処理工場での仕事に関わっていますが、国との連携した政策により長期的展望を持った仕事に取り組めるようになった。やはり、政策のビジョンが見えてこないと我々は不安になり、この先、5年後10年後、その先どうなるんだろうと思いを持たせないで欲しい。遠い先にでも光さえ見えれば希望は棄てませんから！（男性60代）
- ▶ 新たなエネルギーを生み出し、さらにそれを産業にしていけたら理想的である。原子力は確かに便利であるが必ずしも人間の力でコントロールできる物ではないと思う。いつまでも原子力に頼っているのではなく新たなエネルギーを見つけ、利用して行ってほしい。（男性18～29歳）
- ▶ 今回のアンケート内容にも理解が出来ない言葉が多く感じられた。「原子力発電所の町」に暮らす者としては、現存エネルギーと新たなエネルギーのバランスが大切だと思う。原子力エネルギーは決して“悪者”では無いと感じていて、良い時は良いが事態が悪くなった時に偏った責任の押し付け合いが醜い。人間の英知とは今試される時だと思う。（女性50代）
- ▶ 安心・安全な町づくりにして下さい。（女性60代）

- ▶ 設問の5と6は、それぞれの中に16個と12個の施策があったので、その中から3～4個選ばせるような設問方式が良かったのではないかと思います。太陽光発電は賛成ですが、風力発電は健康的に不安を感じるので、身近にできる計画が持ちあがったら反対に回ります。（男性60代）

◆柏崎市地域エネルギー会社について （n=8）

- ▶ 柏崎及び全世界がスマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくりが一番だと思えます。地域エネルギー会社の設立は多いに賛成です。頑張って進めて下さい。（男性70歳以上）
- ▶ 地域エネルギー会社の設立構想はとても良い事です。この頃忘れていた省エネにも力を入れてそういう事を売りにしたまち作り、そして県内の各市（燕市、三条市、小千谷市、十日町市、上越市など）に負けない良さをアピール出来ればうれしいです。それには市民が一丸となる事が必要です。そうする事で失われつつある地域のコミュニティなども活性化するのではないのでしょうか。「道の駅かしわざき」（道の駅わしまのような）があると町が変わるのではないのでしょうか。コミセンなどすばらしいのにほとんどの人が利用していないのです。（女性70歳以上）
- ▶ 子供達の将来のために、環境に優しいエネルギー政策をすすめてほしいです。また、若い年代の人口減少がすすむ柏崎に、エネルギー会社の設立をしていただき、雇用の場を増やし若い方達にとって魅力ある柏崎となつてほしいと思います。（女性30代）
- ▶ エネルギー会社の創出、魅力ある試みだと感じました。今すぐにはできる節電と段階的に先を見据えて取り組んでいくものと分けつつ、特に柏崎は積極的に推進していく方向で賛成です。（女性50代）
- ▶ 若者が市外へ就職やショッピング等に出ていくのが活性化されない原因の一つになっていると思うので、地域企業が豊かになり魅力ある街になってほしい。市内でも山間部の過疎化が進んでいるのが残念。若者が住みたくなる街を目指してほしいです。地域エネルギー会社は良いと思います。（女性18～29歳）
- ▶ 「地域エネルギー会社」構想の謳っていることの現実味は分からないが、エネルギーの地産地消はできれば素晴らしいと思います。とにかく早急な地域活性化を望みます。（男性40代）
- ▶ 柏崎のエネルギービジョンを拝見し、再生可能なエネルギーによる地域エネルギー会社の設立を進められることは、地域の活性化という事でもとても大切であると思いました。地球規模で猶予のない状況でもあり、一日も早く再生可能エネルギーの利用が当たり前の生活に向けて動き出して頂きたいと思っています。原子力発電所については、安全な廃棄方法が確立されていないまま、大きなリスクを抱え見切り発車されてしまったことがとても残念に思います。今後、あらゆる機関と協力し合い、最強の環境汚染を少しでもくい止め、負の遺産を出来るだけ少なくして次の世代につなげられるよう出来る限りの力を注いでいただくことを願っています。廃炉事業は新たなエネルギービジョンと同じく、より良い環境に向かう前向きな事業です。是非「地域エネルギー会社」のもう一つの柱にして頂けるよう願っています。（女性60代）
- ▶ 地域エネルギー会社の将来構想に「市外利用者への電力供給」があるが、一般家庭・産業用ともに電気製品の省電力化が進んでおり、人口が減少し、大規模な工業生産拠点が出来る可能性も少ない中で、周辺地域にそれほど需要があると思えない。再稼働で事故が起きたら避難しなければならないところに住んでいることを自覚すべきで、自治体による新たな会社設立に反対する。（女性50代）

◆再生可能エネルギー・次世代エネルギーについて (n=53)

- ▶ 原子力発電所の再稼働による雇用確保が地域社会の発展にかかせないと思うが原子炉の寿命を考え廃炉ビジネスや、原子力発電所にかわるエネルギーの確保が必要かと考えられる。風が強い柏崎のことを考えれば風力発電も魅力的だが、その為には、しっかりとしたメンテナンス技術の確保やそれを売り込む力も必要である。よって現在の原子力ビジネスに加えて、次世代エネルギーの確保を行いつつ、柏崎ならではのエネルギービジネス構築が必要だと思う。(男性40代)
- ▶ 原発をなくして。太陽光及び風力にかえて地元しやすい電力がよい。(男性70歳以上)
- ▶ 太陽光発電、風力発電、人体に影響のないものと考えてほしい。(女性60代)
- ▶ 地震や火山活動等、水害を加え自然災害が多発している。火山国地震国である日本にそもそも原子力発電はそぐわないと思っている。長く将来に負の遺産を多く残さないためにも早急に原子力は中止すべき。水素発電は環境に優しく将来の展望がある。早期に着手することが、他地域に先んずることが大事。(女性60代)
- ▶ 太陽光発電や海に近い丘地なので風力発電等をエネルギーの活用として力を入れていって未来の子供達に安全で安心な生活に向けて取り組んでもらいたい。将来又いつか来る地震に備え原子力発電が福島のような事が起らない様に柏崎市、地域、市民一丸となって考えていかないといけない問題です。(女性50代)
- ▶ ペレット、まきストーブ等、電気なしでも使える暖房の推進、地域の山林の活用(男性30代)
- ▶ 柏崎は海からの風が強いので、風力発電波による発電が(波上発電)等が考えられる(男性70歳以上)
- ▶ クリーンでやさしい風力や太陽光で地球に優しいきれいな柏崎を目指してほしい。以上です。(男性30代)
- ▶ ・水素エネルギーステーション供給
・メタンハイドレート、等の導入。発電を導入。(男性70歳以上)
- ▶ 原子力産業のまちとして発展、活力を得ていた柏崎市!これらを失くして取り得も失う。地球温暖化を逆手に取る方法はないのでしょうか?雪が大変な時その雪を利用した様にエネルギーに変える事は出来ないのでしょうか?(女性70歳以上)
- ▶ 太陽光や自然エネルギー等環境を維持しながらの開発に期待したいです。(男性50代)
- ▶ 市内の全戸(一戸建て、集合住宅地)施設で太陽光発電をする。(男性18〜29歳)
- ▶ この小さな町で、雪も少なく、太陽の光も少ない現状を考えると、再生可能エネルギー設備に莫大な投資をすることに不安はあります。水素エネルギー等の導入により地域が活性化することに期待します。(女性40代)
- ▶ 風のまち柏崎の地域性を活かし、風力発電のエネルギーを期待します。(女性60代)
- ▶ 太陽光発電の推進を強力に。(男性70歳以上)
- ▶ 原発を早く廃炉にして、再生可能エネルギーに移行してもらいたい。(男性30代)
- ▶ 柏崎市の製造業が発展していくように、MADE IN 柏崎を作ってもらいたいです。風のまち柏崎と名前がついているので、風力発電の安定供給のしくみを作る。また、観光名所になる様に大きなプロジェクトをたち上げてほしいです。(男性40代)

- ▶ 地震の多い島国の日本で、今迄は原子力エネルギーで発展して来たが、福島県の出来事(災害)を考えると、今後も又起こるであろう地震の対策の1つとして
“リスクの高過ぎる原子力”はなるべく早くやめるべきだ!「再生可能エネルギー」、「地産地消エネルギー」又、「スマートなエネルギー利用」、これらが大切だと思う。
特に危険のない再生可能エネルギーの推進が第一と考える。(女性60代)
- ▶ 自然エネルギーを重要視して下さい。(女性50代)
- ▶ 柏崎は水が豊かですので、水をつかって考えてほしいです。(男性50代)
- ▶ 東京電力に原子力発電から水素など新しい電力に移すように努力してもらいたいです。
(男性70歳以上)
- ▶ 太陽光発電や風力発電も必要ですが購入や設置にお金がかかりすぎると思います。今ある原子力も有効に使うべきだと思う。(男性60代)
- ▶ 財力がない、若い人が増えない、老人が多い、人口も減少するばかりの市に太陽光だの風力だのと考えている様ですが、冬に太陽光が役に立ちますか?風力が今米山にあるものがどうなっているか?分かっているのでしょうか。会社を作ったの考えもある様ですが、無駄・税金を注ぎ込むようになっては困ります。また採算性が取れるのでしょうか。地熱?どこにあるのでしょうか。ここに東京電力があるのですからそこから電気を買うのも一つの案かと思います。今は電力は自由になったので。地元の電力として何かあった時の為に火力電力でも作ったらいかがでしょう。(女性70歳以上)
- ▶ 水素エネルギーで安心安全な街づくりを目指してほしい。(女性70歳以上)
- ▶ 再生エネルギー、地産地消エネルギーに力を入れてほしい。(男性50代)
- ▶ とにかくここ数年の暴風がすごいので、この風をなんとか利用して電気が作られたらいいのに。暴風でも風力発電できたらいいのに…と思う。そしたらたくさん電気が作れそう。
(女性50代)
- ▶ 市内には治水ダム・農業用ダム・農業用の溜池があります。大小の河川や農業用水路もあります。このようなダムや河川、農業用水路を利用して水力発電を考案できないでしょうか。(男性70歳以上)
- ▶ これから新築する住居はすべて太陽光発電設備していくことが理想である。(女性60代)
- ▶ 近年、台風など風が強くなっていると感じているので、風力発電はやめた方がいいのではないかと思います。(女性18～29歳)
- ▶ クリーンセンターの熱をもっと利用できるか検討してもらえないか?一部かもしれないが…(男性70歳以上)
- ▶ 洋上の波を利用して発電。(男性60代)
- ▶ 財政難での取り組み大変ですが、住みやすい柏崎をお願いしたいと思います。柏崎市は海風が吹くのにな風力発電が少ないのでは?(女性60代)
- ▶ 柏崎は風がとても強いので、風の力をエネルギーに変えられると柏崎らしい電力変換ができるのではないかと思います。太陽光は1年に半年くらいしか太陽が出ないイメージなので、季節によって柏崎の気候に合わせた蓄電変換装置が各地域にあるといいかもしれないと思いました。(開発や変換機械のコストがかかりますよね)(女性40代)
- ▶ 柏崎は海のそばで風の強い街ですから、風力発電設備の充実を図ったらよいと思います。
(女性50代)

- ▶ 太陽光発電を各家(一般)、各地域に、大幅な公共補助をしてもらい、蓄電システムを構築し、災害に強い家造り(こちらでも大幅な公共補助を望みます!）、地域づくりをしてほしい。地球温暖化対策にもなると思います。(女性50代)
- ▶ 柏崎は風がとても強いので、風力発電はとても有効だと思う。エネルギー政策を通して、柏崎の産業や経済も発展していくといいと思う。(女性30代)
- ▶ 太陽光は空地の活用でなら良いと思うが発電コストが高めになりそうなので、長期的な収支計算でドライに判断すべきと思う。風力は、体育館等の公共施設で数基程度ならやってもいいと思うが思った程良いと思えない。非常用として数基あればいいのではないかな。バイオマスは可能性が高いと思う。
※デメリット、太陽光・・・導入コストが高い。柏崎の天気が悪くないので採算は厳しい。風力・・・導入コストの割に風任せで発電出来ない。(男性60代)
- ▶ 水素エネルギーの開発を進め、原子力エネルギーを廃止する。(男性30代)
- ▶ 原発はデメリットしかないので即廃炉にすべし。バイオマスの中にもメリットが多いものがあると思うのでそれを利用して安心安全かつ柏崎が大きく発展してもらいたい。柏崎から全国へモデルとなれるよう頑張ってもらいたい。(男性40代)
- ▶ 原子力発電に関してはすでに期待はしていません。依存すべきではないと思っています。福島のことを考えると東電よりむしろ国の対応に疑問が感じられます。原子力よりむしろ水素を使って、今の設備を使えないものかと考えてもみます。今関心があるのは、ダムによる水力発電に関心があります。関連省庁の問題はあるとは思いますが、国のモデルとなる様、期待します。((参)竹村公太郎著)(男性60代)
- ▶ 風力発電を増やすなど、自然に優しく安心・安全なエネルギーだけでまかなえるようになったらいいと思います。(女性30代)
- ▶ 個人の自宅に設置する太陽光パネル、または風力プロペラ(小型)の設置費の援助をし、広く普及させる。余ったエネルギーは個々に管理し、個々にエネルギーに対する意識を高めていく。原子力発電所の廃炉の際のゴミは始めに受け入れた責任として受け入れるべきだと思う。(女性60代)
- ▶ 環境と人に優しい再生可能エネルギーを市として推進してもらいたい。(男性70歳以上)
- ▶ ①具体的にどのようなエネルギー源があるのか。また、たとえば全市をまかなうにはそれぞれどのくらいの規模になるのかの試算があれば解りやすいと思います。(風力ならば何基風車があればよいのかなど)(男性60代)
- ▶ エネルギーにはさまざまなものから作ることが出来ると思います。現在は一本のエネルギーから家庭のものに使っていますが、分解させたものがあってもよいと思います。柏崎には海もあり、そこには波でエネルギーを作ったり風も冬は柏崎は強いですが。何か利用できないでしょうか。夏は高温多湿、これもビニールハウスの中では大変暑いですが。地熱も利用で。※私はいつも思います。車の中が暑くなるのでボンネットなど車全体(表面)が発電し、車内を涼しくできるのではと。(女性60代)
- ▶ 風力は大きなものは故障したらなかなか修理が進まないのでは効率が悪いです。メンテナンスを含めた効率を考えるべき。(女性50代)
- ▶ ・今あるエネルギー施設(原発含む)を上手に使いながら、次世代エネルギー関連を進めていく事が重要かと。
・また産業育成をしっかりと行い、雇用をしっかりと確保していかなければならない。
・ブレない施策が重要。(男性40代)

- ▶ 未来の子供達のため、原発に頼らずにエネルギーを生み出せたらいいと思う。世界一の原発のある柏崎がどんな風に自然を使ったエネルギーの再生をしていくのか、他の市や県などのモデルになっていけると良いと思う。未来の為、今が踏ん張りどころだと思う。とりえず、公共の施設から太陽光発電を取り入れるとか…。海もあるので風力発電もたくさんあったらいいなと思う。景色も綺麗で良いと思う。(女性40代)
- ▶ ・将来のエネルギーの柱として太陽光発電、風力発電は必ずあるようですが、これを柱とするだけの根拠、実績は現在どのくらいあるのでしょうか。(発電量など)それに伴い、これから産出される電力がどのくらい市内で使用できているのか。市外または関東地方へ供給できるくらいの余剰はあるのか。
・太陽光、風力、原子力、水力、廃棄物の各電力が同じ単位当りの電気を発電するために、コストはどのくらいかかるかの目安は立っているのでしょうか。(女性40代)
- ▶ 太陽光発電は詐欺みたいなのと認識しております。休耕田や荒地利用ならともかく、山を切り開いて斜面に設置したり、遊水地として緊急時に活用できそうな河川敷に設置したりとデタラメな手法をとるケースが放置されているのが許せません。あんなものに税金つぎ込むくらいなら現況荒れ放題の森林を利用したバイオマスでも推進すべきです。(女性50代)
- ▶ 空いている土地の活用で太陽光発電の設置の促進。海岸エリアでの風力発電の設置。(男性50代)
- ▶ 水素エネルギーに期待しています。原子力に変わる新しいエネルギーとして開発して欲しい。(男性50代)
- ▶ 再生可能エネルギーを利用した交通機関があって、運転免許返納者が割安で乗れたら素晴らしいと思います。(男性40代)

◆地球温暖化・環境問題、環境教育について (n=35)

- ▶ 近年の地球規模の気候・気象異変を憂えています。このような取り組みに賛同します。協力したいと思っています。(女性70歳以上)
- ▶ 今ある稼働可能な原子炉は稼働させてCO2排出量を削減した方が良い。地球温暖化防止になる。また有効活用する事で電気料金を安くする。廃炉に向けた準備を進め(老朽分)経費節減に努める等(女性60代)
- ▶ 環境にやさしく、地球の温暖化対策が大事だと思います。(男性60代)
- ▶ 現在、総合学習で「柏崎学」として、地域の文化や歴史を子どもたちが学んでいます。エネルギーのまちの歴史も学んだうえで、将来どんなまちにしていきたいのか、話しあったり、研究したり、そういうことが未来の柏崎を創っていく子どもたちの育成につながるのではないのでしょうか。ビジョンを持って人のため、地域のため尽くす人材(財)の育成が大切だと思います。エネルギーや環境問題についても、ぜひ「柏崎学」の中で学べるようにお願いいたします。(女性60代)
- ▶ 設問11で「必ず訪れる」としているなら設問10をする意味はないのでは?様々な発電を考えるのもいいが、プラスチック製品を成分解性プラスチックにし、通常の焼却の時に発生する有毒ガスをなくすことも環境を変えられるのでは。どんなに注意しても野焼きをする家が絶えていなく、プラスチック製品を燃やしているのも見かけています。土の中で分解される成分解性プラスチックなら野焼きもなくなるかと思います。(女性18~29歳)
- ▶ 世界すべて温暖化になってきています。今私達がやれる事は何だろう!と思っています。孫や子供達を守ってあげられるのは何だろう!小さな事でもコツコツと継続してやっていけば、何十年後には胸をはってきた足跡が見えると思います。みんなが自分のためではなく、孫や子供達のために頑張ってもらいたいと思います。(女性60代)

- ▶ 柏崎市として、温暖化対策に取り組むという活動に大いに注目していきたいと思います。
(女性50代)
- ▶ よくわかりませんが、原子力発電所が少なくなり、自然な環境が守られることを希望します。
(女性70歳以上)
- ▶ 地球の中心核が熱くなっている。そのための海水温暖化が増幅している。近い将来異変が起きる。災害対策が必要となります。(男性60代)
- ▶ 災害時の電力供給が滞らない様に、様々な方向から補給出来る仕組みを作る。地方自治体が地球温暖化対策に率先して向き合い、モデルシティとなれることを望む。(女性60代)
- ▶ 市民が住みやすい環境を望みます。(女性70歳以上)
- ▶ 私は現在第二子を妊娠中です。子供達が健康で安全であることが全てと考えています。原発の教育(メリットやリスク等)をしっかりと、知識を持った子供を育成してもらいたいです。(女性18～29歳)
- ▶ エネルギー意識を向上させていくには、まずモノがないと個々にはっきりとしたイメージが浮かばないと思うので、目に見える施設や設備が先に出来ていくといいと思います。自分の住んでいる地域の近くの学校や集会所に再生可能エネルギー設備が設置され始めていてとてもいいと思います。新しい事業に市として取り組むことがどれだけ大変か自分には想像できませんが、海も山もある柏崎らしい施策、柏崎でしかできない施策を進めていってほしいです。(男性18～29歳)
- ▶ 柏崎は海があり、海風が強いと思うので風力発電がよいと思います。ゴミ焼却場から出る熱も何かに利用できるといいのですが。
私はなるべく買い物にはエコバックを使い、少しの洗濯には風呂のお湯で手洗いします。寒いと厚着をし熱源を控えるようにし、こまめに電気を切り一人一人が省エネを考えることが一番だと思います。(女性60代)
- ▶ 地球温暖化対策を考え、今ある施設を有効に利用していく。(男性40代)
- ▶ 今、温暖化が気候に深刻な影響を及ぼし、待ったなしの対応に迫られています。火力発電が大量の温暖化ガスを放出しています。早急に停止させる必要があります。そのためには安全に原子力発電を稼働させることが有効です。温暖化防止は喫緊の課題です。使用済み核燃料の問題は先送りが出て来ます。どちらの問題を子孫に残すか考える必要があります。
(男性70歳以上)
- ▶ 日本は資源のない国です。柏崎市は当時政府のエネルギー政策に協力し、土地提供し、安全を担保にし、国の発展に協力して参りました。将来は自然エネルギーに変えて行く事はありますが現状は無理です。地球温暖化があります。(男性70代)
- ▶ 原子力発電は安全でクリーンでという考えを大きな地震で一挙に覆されました。本当に安全で環境に優しいエネルギーは何か、また私達自身の節電、環境に心を配った生活を考えたい。一時マスコミでメタンハイドレートが日本海にもあると、上越沖で採取とか、色々報道がありましたが、それが進んでいるのかどうか。選択肢はあるのではないかな。日々を穏やかに暮らしていけることが何よりと年寄りだと思います。(女性70歳以上)
- ▶ 地球温暖化で自然が変化、というより狂いだしている。便利を求め現在までできました。絶対安全、地球にも良い環境で原発を大いに歓迎しましたが、福島で原発はそこに有るだけでとても恐ろしい、使用済み燃料の行先、燃やして無くなるものでないと知ったら、早く新しいエネルギー政策に取り組んでほしいです。(女性70歳以上)
- ▶ 出前授業で環境エネルギー教育されたら、意識の向上につながるのではないのでしょうか。
(女性70歳以上)

- ▶ 現在、柏崎の発電所は全号機で停止しています。しかし、電力不足は起きていません。再稼働しても電力は安くないと聞いています。刈羽の原子力発電所は不要だと思います。今回提案されたエネルギービジョンはとても良いと思います。子供の頃の教育が大切なので、小中学校へ太陽光発電等を設置して意識してもらえればと思います。（女性30代）
- ▶ 将来にわたって、自然環境を守り、人が暮らしやすいまちにする為に柏崎市から率先して活動していく事が重要であり、地域活性化につながると期待しています。（女性30代）
- ▶ 近年地球温暖化が進み、私達の生活にも及ぶほどの異常気象で危機迫るものを感じる。明日は我が身で、いつ災害が起きてもおかしくはないと思う。その中で原子力の方向性が決まらない。廃炉にする、再稼働する(号機ごとでも)、早くに決断し取り組んでほしい。柏崎だけの話ではないが、私達の生活に被害が出る前に温暖化阻止に向け動いてほしい。（女性40代）
- ▶ 近年の重大災害頻発は、明らかに温暖化と考えます。私に出来る事は使用エネルギーの節約で、CO2削減に努める事。他に出来る事が有れば広報で教えて下さい。行政対応はいち早くお願い致します。（男性60代）
- ▶ 東日本大震災の時、各方面の知識人やIAEAの英知を集めても事故を収束することが出来なかったし、現在も負の遺産が増えつつある。あの事故を受けて、人間が処理不可能、どうやっても対処できない原発は次世代に絶対残してはならないと考えます。それぞれのエネルギー(原子力以外の)については勉強不足。空気の様に幾らでもあるモノではないエネルギーについて、小さな頃から自然に考えられる環境になるといい・・・と考えます。（女性60代）
- ▶ 地球温暖化に依る甚大な自然災害が発生しています。速やかに二酸化炭素が発生しない柏崎刈羽原発を稼働させ、世界の人々の為にも貢献されたし。（男性70歳以上）
- ▶ 地球温暖化対策を優先すべきと考えます。（女性40代）
- ▶ 1. 温暖化対策の推進、地球環境にやさしい脱炭素社会CO2排出量削減のため市の大花火大会を中止ではなく終了する事が急務だと思う。
2. 柏刈原子力発電所の発電機をそのままにして原子炉を取り除き、波力・地熱または火力発電所に改良したらよいと思う。
3. 太陽光発電は日光発電と言った方が判りやすいし言いやすい。
4. カタカナ文字が多すぎて高齢者には判りづらい。（男性60代）
- ▶ 地球温暖化対策は重要だと思うが、具体的に生活の中でどうしたらよいのかのイメージが難しいのでこのように市での取り組みなど資料として表してもらおうと方向性がわかりやすいと思う。（女性50代）
- ▶ 太陽光発電で地域の温度が高くなり迷惑だということを(全国的に)聞くので心配です。（女性40代）
- ▶ 地球温暖化対策。即ち脱炭素社会の推進を考慮すれば原子力発電所はまだその必要と重要性があると思慮する。その一方、原子力発電所廃炉が法定上必要と認めた場合に備え、市内・市外を問わず育成する事は重要かもしれない。（男性70歳以上）
- ▶ 日常の中でこのような事について考えることはほとんど無く、問いかねられれば改めて大切な事項と感じています。地球温暖化に対しては危機感を感じながらも「自分が何をしたらいいのか…」行動できていません。（女性60代）
- ▶ 異常気象が少ないことを祈ります。（女性70歳以上）

- ▶ 今冬の小雪など、地球温暖化による異常気象がとても気になります。地球温暖化を抑制するためにも、エネルギー政策として発電時にCO2を出さない再生可能エネルギーを進めてほしいです。（女性50代）
- ▶ 現時点では原子力発電所を早期に稼働させて、温暖化対策に大きく貢献する。（男性60代）

◆原子力発電所について （n=127）

- ▶ 世界的に気候異変が発生している中での原発の稼働には反対です。人間が作った物が自然界の起す力には絶対勝てないと思っている。戦争には作戦によっては勝つかも知れないが!!自然の力は人間には考えられない、予想もできない。使用電力量の削減化を考えて行く方が大事ではないかと私は思う。（男性70歳以上）
- ▶ 当分の間は、原子力の稼働が必要。併行して将来のエネルギー安定化研究も必要であり、廃炉産業も必要。太陽光、風力共に安定化に難があると思われ、合体したエネルギー化研究を望みます。水力、地熱も加味し、お互いのメリットを活かして欲しい。（女性60代）
- ▶ 再生可能エネルギーも大事ですが、再稼働も必要と考えます。柏崎を活性化させるためにも雇用の確保は必要です。（男性40代）
- ▶ エネルギー政策は大切だと思いますが、お金をかけて新たに新しいことをすすめるより、今現在あるもので、産業や地域経済のことを考えた方が良いと思います。働く場所がないとどんどん人が減り、マイナスとなると考えます。原子力発電所も新たに作ることはどうかと思いますが、すでにあるのですから利用しないのはもったいないのでは…と思います。（女性40代）
- ▶ なくなって困るなら、最初からいらない。最初にあって、役に立つエネルギーであるからなくなって困った。だから必要。いらない事はない。必要な物をいらないとは言わない。（男性40代）
- ▶ 現在の柏崎市の原子力発電所に対する進め方は間違っていると思う。原発は人類にとって不必要なものである。一企業の金儲けで人類が後々大変な不幸を背負うことになる。（女性40代）
- ▶ いつまでも安全確認の試策で決断出来ない現状。原子力発電を稼働すべきだ。（女性70歳以上）
- ▶ とにかく安全で事故ゼロ！（女性30代）
- ▶ 現在、原発の廃炉の時代に入っているし使用済核燃料の問題もあるのだから市として原発の誘致をした責任上積極的に廃炉産業の育成と最終処分場の事に関してはかかわってほしいと思う。（男性60代）
- ▶ 本国、全世界的に脱原子力を目指すべきだと思います。（女性60代）
- ▶ 柏崎刈羽原発は廃炉。原発にたよらないエネルギー政策を進めてほしい。（男性40代）
- ▶ 限定的とはいえ、早急な原発の再稼働を実施すべきです。柏崎が市として存続できなくなると考えるからです。（女性60代）
- ▶ 世界でも有数の原子力発電所を有しておきながら、いつまでも安全問題から、稼働を行わないのは資源の無駄である。エネルギーとリスクを確りと天秤にかけ、利益を考えた上で、原子炉は稼働させるべきであると思います。現状、原子力に代わるエネルギー効率の高い、クリーンな発電方法等、無いのだから今ある資源を有効に使うべきである。（男性30代）

- ▶ 原発の廃炉をすすめて、不測の事態や想定外の事態が起こることのない、安心して暮らせる町づくりを目指して欲しいと思います。（男性40代）
- ▶ 今有る原発の放射性汚染物の処理、(研究・実行・処理)が何よりも、最優先です！（男性70歳以上）
- ▶ 再稼働をすぐにすることが必要。（男性60代）
- ▶ 原発は(発電時に炭素こそ出さないが)温排水で直接海水を温めており、温暖化対策にはならない。よって再稼働するべきではない。（男性70歳以上）
- ▶ 絵にかいたモチにならないように、原発全廃にむけ早急をお願いします。子や孫に不安をもたせなよう！（男性60代）
- ▶ 原発の再稼働は反対です。福島のことを考えると怖いです。（女性60代）
- ▶ 原子力に依存しなくて良い世の中になるよう1人1人が勉強し努力しなければならないと思います。（女性70歳以上）
- ▶ 原発、即廃炉にしてください。（女性40代）
- ▶ 原発反対の風潮が世間には多いがむしろCO2を出す火力発電を今すぐやめるべき。そして風力、太陽発電を増やすべきと考えます。廃炉ビジネスも地元企業を中心として新たな産業として発展させていければと思います。私は原発には賛成派です。全号機停止してただのハコ状態を解消してもらいたい。地元が潤うようになればと思います。電源消費地のみなさんは柏崎刈羽原発をどのように考えているのかその辺の意見も聞いてみたい。（男性50代）
- ▶ 原発で産業を柏崎を発展しようと思う事も大切ですが我が家のことを言いますと、男の子二人柏崎で育てましたが結婚して子どもが生まれましたが原発があるので将来的に考えると柏崎では住めないと言って、柏崎を出ていきまして、今年寄二人暮らしです。柏崎にいる限り原発とともに生きていかなければなりません。再稼働にしろ廃炉にしろこれでもかというほどの安心安全を考えて下さい。お願いします。（女性70歳以上）
- ▶ 福島原発事故がいまだ何一つ解決できるめどもたたない状況の中再稼働することなど考えられない。使用済燃料棒の最終処理さえ決まっていない。福島の人達のように自分のふるさとに戻れない状況になりたくないです。（女性60代）
- ▶ 安全第一（男性60代）
- ▶ 住宅地に近い原子力発電所には反対です。健康や市民の安全を守るために廃炉にしたいです。（女性60代）
- ▶ 原発の再稼働に伴い、市民の思いから一言。「柏崎の町よ！もう一度元気に！」改めて考えると原発に関しては、「地産地消でなかった」ことが不満として大きいと思います。リスクが大きい割には市民全体にメリットがない。廃炉産業の育成後の現実構築時、後世の子孫に弊害が出ない様に、この町に住んで良かったと思える、柏崎の町が安心安全として住める多くの人々が集まってくれる都市になることを希望致します。（女性70歳以上）

- ▶ 柏崎は原子力発電を続けていきたいんだな・・・と改めて思いました。子供の頃からあるのが当たり前で、親も原子力発電所関連の仕事をしていましたが、自分が子育てをする立場となって、3.11があってやっぱり原子力発電所が近くにあるのは不安です。できれば廃炉にして欲しいけど、今の柏崎にそれだけの力があるようにも感じません。(財政的にも)それに代わる水素ステーションの安全性にも不安があります。たくさんのお金を使う事業ですし、このアンケートにしても、もっと分かり易くメリット・デメリットをちゃんと説明する、きれいごとだけなはずはありません。そういったことが必要なんじゃないかと思います。(女性40代)
- ▶ 1. 原子力発電の再稼働
中国や韓国等の国が原発稼働しているのに、そんなに日本の技術は劣っているのか?
2. 廃炉関係産業の開発と育成(国への働きかけ)
市長さんへ 早く市内で廃炉産業を育成してください。(男性70歳以上)
- ▶ 基本的に安全、安心とずっと言ってきた原発産業は嘘をつかなければ生きていけない企業です。できれば再稼働は反対です。しかし今の柏崎は長年に渡る無作で市として成り立っていません。柏崎原発1機稼働で1千億の利益が出ると何かで読みました。この際、信用はできませんが安全対策を万全にせず1機稼働させ、万一の時の市民の資産と生命に対する担保として毎年3百億位を市に納めさせ市民の税負担、電気料、生活費などに補助して市民人口を増やして市を発展させてください。原発の関連企業だけが潤う時代は終わりです。(男性60代)
- ▶ いずれは廃炉にするが、現在ある6,7号のみ再稼働すべきと思う。安全性を確保しつつ折角ある最先端の施設を活用し使命を終わらせてあげたい。太陽光、風力、波力等、柏崎の特性を生かしたエネルギー開発を期待します。(男性70歳以上)
- ▶ 柏崎が福島の様にならないために原発は廃炉にするべきである。防潮堤を作ったけど大きな地震で100%メルトダウンを防ぐことは出来ない。(男性50代)
- ▶ 再稼働するなら早い方がいい。(男性60代)
- ▶ 福島の現状を知ると、推進(原発稼働)とは言いづらいです。環境問題の点からは日本は原発も必要な電力とも思います。廃炉を進めながらも原発を使う道が良いと考えます。(事故防止対策が完全に認知された後、市民に理解される事が大切。)(女性70歳以上)
- ▶ 原子力に携わる仕事をなさっている方々は大変な思いをしていると思います。仕事がなくて地方の方に行かれている方もたくさんいらっしゃる事も聞きます。でも、子供達の事など考えると難しい事ばかりですよ。何が正しいのかわからないですが、住みやすい市になってほしいです。(女性60代)
- ▶ 福島の原子力発電の事故の恐ろしさを柏崎市民は震える思いです。今だ汚染ゴミが増え続けている現在を考えるとこれからの子供達が心配でなりません。〈将来構想〉に原子力の文字を見てなお不安になります。(女性60代)
- ▶ 福島の原発を考えると、避難した方々には申し訳ないですが設置した以上は最低限度稼働させてほしい。徐々に廃炉を考えるべきですが、事故が起きたら即、その発電は廃炉を望みます。現状の柏崎を少しでも良くするなら、再稼働しかない。(男性70歳以上)
- ▶ 現に存在する原子力発電所について廃炉に向けての動きが活発なのは良いとしても、現在廃炉にしても安全になる迄の年数は何年かかるのか?年数の短縮に向けての研究はなされているのか?廃炉にしても安全になる迄の期間、地震、津波、テロ等が起これないとはいえない現在、果たして現在は約6千人くらいの方が管理にあたっていると聞くが、これが本当に廃炉になった場合、国、県、電力会社は何人で管理するのか?動かしてそれなりの人数で管理が良いのか廃炉にして今の人数はおそらく確保できないなかで(千人も無理?)どちらが安全か?反対の人たちも含めてその議論、勉強が必要と思う。今の人数でみれば金がかかるのは分かるし、その財源も何も議論されない(反対の人達に聞いてほしい)(男性70歳以上)

- ▶ 人間が近づくことのできないような危険な原子力関係の施設、廃棄物を一日も早く柏崎からなくしてほしい。「今さえよければ、自分さえよければ」という経済中心の考えの人が多いですが、「人間の住めない柏崎」にならないようにしてください。お願いします。特に、放射能廃棄物を早く柏崎から他へ運んでください。（女性40代）
- ▶ 原発→廃炉へ。再稼働しながら廃炉に向け技術開発を進める。現在の日本の廃炉技術は十分ではない。将来廃炉へ向けることが重要である。（男性60代）
- ▶ エネルギー政策は必要だが、新たな産業でどれだけ雇用が生まれるかが重要。原発を動かさないのならそれに変わる。又働ける場をしっかりと確立してからにしてもらいたい。原発内だけではなく原発を顧客にしている業者や会社が多くあり、そこで働く地元住民がどれだけいるか、又他県から働きに来ている人がどれだけいるか、そのおかげで商業が成り立っているという点もある。正直いえば柏崎はどっちつかずで魅力がない。商業誘致も下手。市長は原発から税金取り過ぎ経年累進課税など税は原発を動かして利益が出て、再処理工場が稼働できるようになってから取るべき。今回の市長の発言は幻滅しました。できることなら他の市へ移住したい。（女性30代）
- ▶ 生活していく上で、柏崎は原子力発電所が中心なので変えていかないといけない部分もあると思う（女性30代）
- ▶ 廃炉にはお金と時間がかかるので、やると決めたらすぐ実行したほうがいいと思います。（女性18～29歳）
- ▶ 柏崎の一市民として一言申し上げます。
1、原子力1年も早く再稼働して下さい
1、原子力の産業として柏崎をさらに繁栄させる（男性70歳以上）
- ▶ 原発は安くない。事故がおきても市民や国民に責任を負える者はいない。（市民、県民、国民）人類が作った最悪の物だと考える。（女性70歳以上）
- ▶ 廃炉決断の時です。（男性50代）
- ▶ 原発エネルギー政策について
福島で原発事故があったが今でも解決していない。福島から柏崎に避難している人がいるが、もう自宅には帰れないとのことである。人間が管理できない原発は、柏崎にはいない。もし、事故が発生すれば、柏崎は第2の福島となる。人間がつくるものに安全神話はもういない。（男性60代）
- ▶ 原発は安くない。事故がおきても市民や国民に責任を負える者はいない。（市民、県民、国民）人類が作った最悪の物だと考える。（男性50代）
- ▶ 現実の問題として、4号機となりの使用済核燃料貯蔵プール内にたまっている使用済核燃料をどのようにするか、明確な方針を打ち出すことが最優先事項の1つであると思う。過大なリスクがある（今後も増えることも確実にある）と認識すべきである。特に、プルトニウムの危険性を現実としてみつめるべきである。（放射性物質であると同時に、毒性の高さも見つめるべきである）。その上で、再稼働などの議論を話しあい、進めるべきではあると思う。メリットとデメリットを客観的、科学的に見るべきであると思う。（男性60代）
- ▶ 原子力発電所から排出される使用済核燃料等の最終処分地及び処理方法が確立されていないので、これ以上の稼働による発生を防止する上からも即全炉停止（再稼働禁止）が必要と思う。追記：再稼働するにも実務経験者不足により技術の継承、ヒューマンエラーによる事故の発生リスクが高いのでやめるべきである。（男性30代）
- ▶ 原子力は人間の手におえない物である。（男性70歳以上）

- ▶ 原子力発電は便利さや発展のためにはプラスと考えていましたが、東日本大震災を機に、安全性や永遠に消える事がない核のゴミを後世(子供達)に残すべきではないと考えるようになりました。柏崎市は世界最大の原発で有名となりましたが、今後は廃炉を含め、原子力に代わる何かを見つけ、それを発信して頂けたらと思います。(女性60代)
- ▶ 基本的に原子力発電は必要だと思う。(原発の再稼働には賛成)次世代の車(EV)など電気が無ければ動かない。(男性60代)
- ▶ 東電は、なるべく早く発電させて下さい。(男性60代)
- ▶ 柏崎の原子力発電は、全号廃炉にして安全な町、柏崎にする。
原発がある限りは、柏崎に人が集まらないと思います。(女性70歳以上)
- ▶ 水素貯蔵による電力の貯蔵をビジネスとして成立させるためには原発再稼働が大前提となる。だから原発再稼働を優先すべき。(男性40代)
- ▶ 私は「原子力発電所」は、大変に重要な産業で柏崎市の将来発展には、必要不可欠であると考えます。寿命で廃炉になる号機は仕方ないですが、減ったらその分新しい発電所を建造すべきだと思います。もちろん「車」などと同じように運転・管理には細心の注意を願います。
(男性50代)
- ▶ 稼働しない原子力発電所がそのままあるのはもったいない!!何も産まれない!!稼働も必要と思われる。市内の経済の為に!!(女性40代)
- ▶ 主電源としての原発の必要性、安全、安定的に活用していくことが必要。かつて世界最大の発電量であったが、現在は福島原発事故で怖さだけが知られエネルギーの確保(安全で安定的)が、忘れられてきている。将来に向い更なる進展で安全で安定的なエネルギーとして技術的にも研究され、より安全なものとして使用していくべきだと思う。(男性70歳以上)
- ▶ 1、原発が存在する限り、もっと恩恵のある産業であってほしい。
・発電された電気の地域(地元)への供給。
・電気税の負担軽減など。
2、福島原発事故は地震国(地層構造)故で柏崎も例外ではないでしょう。地域(地元)には万一のリスクに見合った国や県の負担がもっとあっていいと考えるが。
3、かつての石油、天然ガスの生産精製の柏崎、刈羽はその面影はありません。産業構造上は福島原発事故の廃炉事業は大きな地域産業でしょう。
4、現在の避難訓練は机上の空論にすぎません。住民が活用できる防護服(袋)、シェルターなどで万一に備えることを検討したらどうか。(女性50代)
- ▶ 福島県での事故は絶対に起きない安全管理の上で、再稼働しながら将来全て廃炉にすべきです。
亦30kmまではヨウソの配布等々報道されている。子供達が安全に住み暮らせることを願っています。(女性70歳以上)
- ▶ 原子力になにかがあったらどこへ行けばよいのか。行く場所はない、福島への舞はごめんだ。(女性70歳以上)
- ▶ 全号機新基準での新設が理想。(男性40代)
- ▶ ①原子力発電再稼働は絶対に阻止→福島への舞はゴメンだ!!どんなに安全基準を満たしたと言っても所詮、国・東電・その道の専門家が考えた事。温暖化により気象・自然現象が近年、巨大化し人間の考える想定外になっている。何かあった時、あまりにもリスクが大きすぎる。
②柏崎は昔から風が強い地域である。なぜもっと再生可能エネルギー(風力・太陽光・地熱・バイオ・波力等)にカジを切らないのか。先を読むのが遅いのでは!!(男性70歳以上)

- ▶ 原子力は早く中止、自然エネルギーに頼る。(女性70歳以上)
- ▶ 日本全国地震があるから、原発はなくした方が良くと思う。(女性40代)
- ▶ 直ちに、全号機廃炉にすべきだと思います!!(男性70歳以上)
- ▶ これからは原子力エネルギーは大事だと思います。市民に分かりやすく説明することが大事です。第一にいつも仕事に向き合うようにしてください。(大事な事です) (女性70歳以上)
- ▶ 安全第一!(最重要)(女性70歳以上)
- ▶ ・福島で事故で多くの方の暮らしが変わり果ててしまったと思います。一方では地域にとって原発で暮らしが成り立っている方も多く、廃炉問題はとても重要だと思います。ただ私は、原発が事故を起こすと人の命に係ることなので、命より大切なものはなく、また自然の脅威は人の想定を超えてくるものなので再稼働するべきではないと切に思います。
・基本方針1〜4についてですが、聞き慣れない言葉がたくさんあり、分かりづらいです。(女性40代)
- ▶ 原発についてですが市民の原発アレルギーを治すことは重要だと思います。他の市町村には無いことだからです。新しいエネルギーと原発産業を同時に進めていくことが必要だと思います。(女性30代)
- ▶ 原発は最終的には全廃するのが一番だが、それに代わるエネルギーが確立するまでは安全性が確認されたら稼働するべき。廃炉にかかる時間と費用を考えたら簡単に全廃は出来ない。東電には原発に代わるエネルギー開発を積極的に進めてもらい、柏崎だけではなく日本全体として一丸となって進めてもらいたい。エネルギー政策ビジョンを机上の空論にせず、一つ一つ実行してほしい。(男性50代)
- ▶ 原発との共存は必要だと思う。ただし、古い原子炉を無理矢理適合とし使用する事は反対!当初決めた期間にて使用を終了し廃炉にしていくべきと考えます。(女性50代)
- ▶ 今、すべての機械が止まっていて生活が成り立っているのであれば、このままでいいと思う。(女性60代)
- ▶ 原子力発電所の問題については、万が一事故または自然災害が起きた場合、柏崎市・刈羽村だけの問題と考えず、新潟県全体の問題として考えてもらいたいです。(男性50代)
- ▶ 東電は新潟県に必要なし。東北電力にお世話になっている。(男性70歳以上)
- ▶ 原発再稼働か?前期廃炉か?一部稼働か?非常に難しい判断です。そこに暮らす人々の命を考えたら動かない方がいい。では柏崎の経済はどうか?この冷え切った柏崎の経済を見れば原発一部稼働とも言えます。柏崎に原発を誘致した時に、リスクは承知していたはず。それが一たびあのような事故が起きたから全て止めたら安全か?あまりに無責任だと思います。誘致した柏崎市に責任があり、市民一人一人にも責任があります。原発政策を進めた国にもあります。原発で潤い生きてきた柏崎です。リスクを承知の上で共存し生きてきた柏崎です。きちんとその事を考え、市民一人一人が決して他人事ではなくその事に向き合い、考える必要があると私は思います。この柏崎があのような活気を取り戻し、市民一人一人が笑って暮らせる、そんな柏崎市になる事を願っています。(男性30代)
- ▶ ①作業者の安全を考えると重要と思わない。(廃炉)
②安全と言っていた原発(福島)を見ると早くやめた方が良く思う。
③栃木県では、エンジン→(タービン電気)→モーター→タービン→電力→工場→ つづき(モーターで発電する事です)(男性70歳以上)

- ▶ 限定的なほうが望ましいが、原子力の活用は現状の国際状況では仕方がない考える。ただし、ヨウ素タブレットなど対策のアップデートが不足している。わかめなどヨウ素摂取の高い日本人にはヨウ素は充分と言われており、放射性物質の吸収阻害のためのミネラル摂取には、ヨウ素タブレットだけでは不十分であり、マルチミネラルの活用などが良いのではないかとより最新の文献を参照してほしい。これらの対策のもと、原子力発電より、より良いエネルギー産業を育てる余力を確保する事も重要と感じる。（男性30代）
- ▶ ①太陽光発電や風力発電は、原子力発電の代替にはなりません。
②原発を稼働させないで、火力発電で補っている結果CO2排出の増大化につながっています。
→①②から、真に次世代エネルギーが確立するまでは原子力発電の再稼働が必要だと思います。（男性50代）
- ▶ 福島の様になってからでは遅いので再生可能エネルギーに変換すべき。東京電力は信用できない。（男性60代）
- ▶ 原発事故の無いうちに停止！（男性40代）
- ▶ 原発に頼らない再生可能エネルギーへの転換を切に希望します。原発再稼など、とんでもありません。（女性60代）
- ▶ 再稼働していない現在も結局、日本の電気は足りている。廃炉にはとてつもない期間・技術・人手が必要であることを考えると、先延ばしにせず、すぐに検討・実行していくべきだと思う。ただし、作業のノウハウと安全性(使用済核燃料の処理も含めて)が確立していなければ実行できない。この先の技術の進歩(AIやロボット等)により安全性が保障されるのであれば、時期を見て徐々に・・・ということも考えられる。国への働きかけも強めてほしい。いずれにしても次世代に課題を先送りすることは許されない。市民みんなが自分事として議論すべきである。（女性40代）
- ▶ 「原子力産業のまち」として歩むしか。片田舎の何の特徴もない市には生き残る道がないと思う。原発反対派は無責任。（男性30代）
- ▶ 数百kmも電線を引いてまで東京電力の電源元を柏崎に作る。自分には?分からない。（男性70歳以上）
- ▶ 一つでも早く原発を再稼働してほしい。できてしまったものは動かさないとこのままでは百害あって一利なし。今までの柏崎の経済は原発なくしてありえません。柏崎を元気にするにはやはり再稼働は必要です。（男性60代）
- ▶ 原子力再稼働なくして柏崎の発展はないと個人的には思います。ただ、再稼働に向けて市民の賛同が得られないのであれば早急に次の政策に移行すべきだと思います。このままでは柏崎市は衰退する一方かと・・・（男性40代）
- ▶ 原子力発電の早い再稼働を望む。（男性50代）
- ▶ 速やかに原発を稼働すべき。それ以外にない。そしてその恩恵を市民へ還元すべきである。（公共施設リニューアル等の設備投資）（男性18～29歳）
- ▶ K-1、K-2は古すぎて老朽化が進んでいるのに何の手も打たないのはおかしい。K-6、K-7はまだ新しいが、30年以上経過した原発は維持コストの面から廃炉・更新すべきだと思うが・・・。（男性50代）
- ▶ 自然エネルギーも水素もすべて他が先行している。廃炉産業の育成こそビジネスチャンスかもしれない。仮に密閉率が高く、1000年以上もつコンクリートはないと思うけど、焼き固めたセラミックにしても、ガラス質に形状変化したものと思う。もし、コンクリートがガラス固化できれば、産業用途は無限かも。夢のような事が成長の鍵？（男性60代）

- ▶ 原発と共存してきた世代ですが、最近の自然災害の多さに、このまま原発に頼っていて安全に暮らせるのか不安もあります。次世代の子ども達にはなるべく新しい産業のある街であって欲しいです。廃炉産業が進み次世代エネルギーを導入するのは困難も多いと思いますが、少しずつエネルギー政策を進めて欲しいと思います。（女性40代）
- ▶ 福島の実状を見ていると、廃炉以外に無いと思います。こんな危険な物を作った国の責任は大変な事。事故後の対応・処理が出来ていたら考えは違うと思います。（女性60代）
- ▶ 現実問題、不安しか考えられない。原子力に頼らない道を作りたい。一つを選んでもどれも大事ですね。子供達の為によく考えなければならないですね。（女性50代）
- ▶ 廃炉ビジネスは危険。稼働（原発）もありえない。市役所の内で密室でものごとが決まるのも良くない。（男性40代）
- ▶ 絶対に安全・安心と言えない原発は不安です。（女性50代）
- ▶ 原子力発電所の再稼働と廃炉計画は安全安心のもと今後の柏崎の経済的合理性・社会的充足感の為に前進すべきであると思います。さらにエネルギーミックスの実現に向けた対応を推進致します。（女性60代）
- ▶ 原子力発電は徐々に減らして将来は自然エネルギーに代えていく。（男性70歳以上）
- ▶ 原子力発電は福島の事故を見る限り一端事故が起こると地域町全体が廃却になり大変（事故が起こらない保障はない）又廃炉にするにも現状では処理方法が確立されていない。（男性60代）
- ▶ 早く稼働してください。（男性60代）
- ▶ 原発事故が起きた時柏崎はどうなるのか。福島の事故の場合を見ても誰も責任をとらない。原発は止めるべきと思う。（男性70歳以上）
- ▶ 原子力の選択肢は簡単に捨てるべきではない。上手に活用しエネルギーのベストミックスを目指す必要がある。今後は廃炉産業を福島と一緒に推進すべき。廃棄物をどこに管理するべきか、国との対話も必要。個人的には柏崎で管理すべき。原子力に頼ってきた政策、景気対策から上手に付き合いどちらも良くなる関係性を皆で考える必要がある。関東で使う電気から、原子力は地域で使う姿もあっていいのでは。原子力の利益を学びの場へ使う、新しいエネルギー産業へ、地道な研究へ、すぐに結果を求めず長い目で。（男性40代）
- ▶ 再稼働するにあたり、社会保障の充実、柏崎で生活したいと思えるような保障、再稼働するなら光熱費、無料、減額（女性30代）
- ▶ 原子力規制委員会の許可を得た発電機については出来るだけ早く活動をして欲しい。（女性70歳以上）
- ▶ 当該エネルギービジョンは大事な事で着実に進めてもらいたい、原子力発電も現時点ではエネルギーの安定供給、CO2削減等で必要なもの由、信頼性、安全性を追求して再稼働すべきと考えます。（男性60代）
- ▶ 高齢で、また深い知識も有りませんが【11】の問は市内産業育成が3割、あとの7割は東電が責任を持って廃炉産業育成するべきだと思います。福島の事故はいずれかの国内原発でいつかあってはならない事ですが、今の現状管理では起きるのでは？と心配大です。時々、市長さんが柏崎原発の職員に改善・注意・お叱りをある度に言っていますが、またかと思う程「ポカ」事故を起こしています。（女性70歳以上）

- ▶ 原子力発電所は将来的にすべて廃炉になってほしいと思います。しかし、それに変わるエネルギーが供給できるのか、それが今後の課題だと思います。私は生まれ育った柏崎が大好きです。皆が安全に安心して暮らせる柏崎になってほしいと切に願います。（女性60代）
- ▶ ①使用済核燃料の処分方法・廃炉は国がもっと明確な方針を出すべきだと思う。
②東電もあまりにも「ミス」やトラブルが多すぎる。もっと技術のレベルアップを望む。
（女性70歳以上）
- ▶ 私の夫は東京電力に30年以上仕事で出入りしていました。今、色々とテレビで消防自動車を並べたり、発電機を並べたりしていますが、問題は仕事に入る人に恐喝まがいの事をしたり全く問題にならないと思います。もう原発はやめた方がいいと思います。廃炉産業は柏崎に限らず県全体で考えるべきだと思う。（女性70歳以上）
- ▶ 原子力発電は絶対いりません!!そのゴミをどうするかが問題です。（性別・年齢別ともに未回答）
- ▶ 子供達の為にも原発は絶対に廃炉にするべき!!（女性60代）
- ▶ 原子力エネルギーは理想エネルギーであるが、世界を見渡すと事故により再稼働不能施設及び、安全処理不能施設の割合がチェルノブイリスリーマイル・福島第一4基/発電所約500基=8/1000 0.8%は危険すぎる。他の生産工場等ではありえない。人間が原子力をコントロールするのは早すぎたのではないか。現段階では経済の対象としてはならないと思う。福島第一は経済優先で建設されたものであったため。（男性60代）
- ▶ 福島の事故があってもまだ原子力を続けていこうとするのは理解できません。直ちに全号機の廃炉をお願いします。（女性50代以上）
- ▶ 東京電力だけでなく国に対しての発言をしっかりとしてください。6・7号機の再稼働はやむを得ないが延長はあり得ない。（女性60代）
- ▶ 福島原子力発電所の事故後の処理も済んでいない中、柏崎市における稼働していない発電所からも核廃棄物は排出され続けています。その廃棄先は人口の少ない所、自然界にそもそもあるべきでないものだと思います。このようなシステムが続いていくことがとても悲しい。エネルギービジョンに隠れて、この原子力発電が続いていく、というのであれば私たちは地球を捨てるということだと思います。戦争に備えているのでしょうか。原子力発電の目的が理解できません。日本は各地に原子力発電所があり、爆弾を抱えているようなものだと感じています。ふるさとを愛する子ども達を育てようと言っても、このようなふるさとをどう愛していくか。きれいな所だけを紹介するような教育では足りないと思います。問題課題のある柏崎、持ってしまった原子力発電とどう向き合うか正直に伝え、立ち向かってくれる若者を育てていくべきだと思います。このエネルギー問題に真摯に向き合ってくださっている櫻井市長に感謝しています。どうぞお願いいたします。（女性40代）
- ▶ 永久に原発に頼るわけにはいかないので、徐々に減らしながら同時並行的に環境にやさしいエネルギーや他産業を育成していくのが良いと思う。（男性50代）
- ▶ 東日本大震災で原子力発電所の事故の後処理が8年いや9年?経ってもまだ何も進んでいないのを見ると、柏崎刈羽に原子力発電所を7基もいらなと思います。太陽光発電、風力発電、水力発電など組み合わせてエネルギーをまかなえないでしょうか。柏崎=原発というイメージをなくしてほしいです。（女性60代）
- ▶ 原子力発電はより安価、とよく耳にしますが、先々の事を考えたら安全で安心な電力を供給できるよう望みます。（男性70歳以上）

- ▶ 設問に対する直接的意見とは言えませんが、いずれ廃炉すべきと考える原子力発電所のあの広大な土地の再利用を考えるべきなのではないかと思います。今はウランの核融合により生じる熱によって発電しているその元を別のものに置き換えて発電設備のみ利用してクリーンな発電はできないものかと素人考えですが話をしているところです。大変な事業になるとは思います、柏崎のため、皆さんのため、良い方向に進みますように願っています。（女性60代）
- ▶ 長い時間をかけ廃炉を目指してほしいが、原発で働く人の雇用、市の収入源を考慮しながら慎重にお願いしたい。（男性18～29歳）
- ▶ 聞くところによると廃炉にするには40年もかかるという。気が遠くなるような期間がかかるというが、廃炉にするには即時取りかかるべきである。（男性70歳以上）
- ▶ 柏崎市の人口は残念ながら2019年秋頃から減少幅が拡大しています。その原因は若い女性の転出増加で、将来の安心安全や子育てへの不安などが考えられます。中でも一番の原因は、原発問題だと考えます。この状況を打開するためには、早期に脱原発都市柏崎を宣言し、原発財源に頼らない財政の確立が求められます。そのため、水素エネルギーやメタンハイドレートなどの新エネルギー関連研究施設や新エネルギー産業の誘致・援助を行い、住民の不安解消と地域経済の発展を図っていくことが重要と考えます。このままでは柏崎市の消滅可能性都市からの脱出は不可能です。（男性60代）
- ▶ 原発は怖いので直ちに全号機廃炉にしてほしいです。（女性40代）
- ▶ 設問10で「全号機再稼働必要」としたが、無条件で原子力発電(政策)を推進するものではない。超現実的な考えとして、そこにあるものの活用を指す。当然それには安全の絶対条件が必要である。「できる限り」であれ「徐々に」であれ、年数・役割(役目)を終えたものから排除(廃炉)していく。直ちに廃炉としても当然危険は数百年は存在する(全号機延べ)訳だから。以上。（女性60代）
- ▶ 原発が稼働しないと町がダメになる。（女性70歳以上）
- ▶ なぜ柏崎・刈羽に7つの発電所が必要だったのでしょうか?私たちが生きている間に廃炉作業を終わらせることは出来ません。3月6日に公開予定の映画Fukushima50を観てからこのアンケートに答えたかったです。（女性18～29歳）

アンケート調査に対する意見など (n=11)

- ▶ 今後のエネルギー政策はパンフレットを読んだだけではよく理解できませんでした。（男性40代）
- ▶ 5、6の設問を1つ選べというのは難しいと思いました。又、他の質問では水素などの製造と言っても専門的な知識を聞かれても分からないので、答えられないのでチェックはつけられませんでした。（女性70歳以上）
- ▶ スマート市民のまち、スマートに使い、スマートエネルギーによる、スマートハウス、スマートファクトリー、スマートコミュニティ、スマートグリッド、スマート古民家と「スマート」と言葉が使われているが、意味がわかりませんので、理解できませんでした。アンケートをとるようだったら用語の説明を理解できるようにしないと無駄な時間潰しにしかありません。専門用語と英文の略では理解できないので回答できません。（女性60代）
- ▶ 同封の資料では判断しにくい。理念は分かるが、実現可能かどうかなどを判断するには具体性に乏しい。（男性30代）
- ▶ 資料が難しくて分かりにくい。用語など専門的なものがあり分からない。突然送られてきて答えるには難しすぎる。責任持てません。このアンケートの意義が分かりません。もっとやるべきことがあるのではありませんか?（女性40代）

- ▶ 設問7でチェック欄の事が期待されるのであれば「何がどのようにどれだけ効果があるか」をいうのを別紙等で示したほうがいいと思う。今後のアンケートで生かしてほしいです。（男性30代）
- ▶ とても理想的だと思いますが、この資料を見ている限りリスクについては書かれていませんし、現在のエネルギー事情を理解できる資料はありません。一般の人がもっと分かるような資料作りをお願いします。（女性40代）
- ▶ 設問に対する回答項目に失望した。（男性60代）
- ▶ 設問が抽象的で解答しづらかったです。（女性40代）
- ▶ 資料が理解できませんでした。一般の人に向けた資料だったのでしょうか？（女性40代）
- ▶ カタカナ語を多用した説明では分かりにくいと思う。誰にでもどんな世代にも分かるよう平易な日本語で説明できる計画や目標でなければ共感が得られず、共有もできないと思います。私は高校で英語を教えています。資料の中に繰り返し出てくるカタカナの説明にむしろ混乱しました。「スマート」なカタカナ語できれいに片付けないことを期待します。（女性40代）

その他 （n=27）

- ▶ 老人中心の家族構成。指一本で何でもできる今日、電気は重要です。災害時に備えカセットコンロなど用意しています。他県原発事故にあたり、考える良い機会を与えてもらって良かったと考えています。「自分でできる事は自分で」をモットーに頑張りたいです。政策に関しては良くわかりません。申し訳ございません。（女性60代）
- ▶ 将来的な質問には答えられずお恥ずかしいです。安心安全なエネルギーの供給については知識もないので専門家の方々と行政の方々にお任せするしかないと思います。しかしお任せばかりではダメなこともありますよね…。以後色々なことを考えながら生活しなくてはと思い反省です。（女性50代）
- ▶ これ以上血税の無駄遣いは許さない。これに使う税金があるのなら、コミセンの統廃合は止めるべき。金が無いからコミセンを統廃合するというのは嘘だったのか？新たな事業は不要！減税を考えなさい！誘導尋問のような設問は狡猾で悪どい。（男性60代）
- ▶ お疲れ様です。市民のよりよい生活のためよろしくお願い致します。（女性40代）
- ▶ 市民の幸せ、地域の幸せは社会の幸せです。市が幸せであれば市民は幸せです。市、地域住民みなファイトです。（男性60代）
- ▶ 今柏崎は経済産業、小は商店が経営難に苦しんでいます。何の明りも見えて来ません。（女性70歳以上）
- ▶ 今自分の出来る事は電源の節約をしています。（男性70歳以上）
- ▶ 刈羽と合併（女性18～29歳）
- ▶ 廃炉にするにも税金がかかると思うので税金の使い方を上手に使ってほしい。（女性40代）
- ▶ 50年前には荒浜は砂丘のような海岸だった記憶がある。今さらあの頃にもどせとは言わない！言えない！（男性60代）
- ▶ 世界中が一つになって考えてもらいたいですね。（男性60代）
- ▶ 難しいことは分かりませんが、市民が安心して生活できるようにお願いしたいです。（女性60代）

- ▶ 発電所の出入りする車のマナーが悪い。(男性60代)
- ▶ 廃炉どうこうよりも、東電の隠ぺい体質の改善が最優先。(女性30代)
- ▶ 刈羽三山に登ると柏崎の豊かな姿。これを、原発事故のないように子孫まで残しておきたいと思います。(男性60代)
- ▶ 原発にただ反対するのではなく、柏崎市が目指す「再生可能エネルギー」等、代替案を反対者の方達も言って協力して頂きたいと思っています。原発に反対派と、家族等が原発に仕事に関係している人とで、生活し会話していく中で困ることもあります。(女性60代)
- ▶ 一人一人に出来ることがあるはず。それを考えて教えてください。(女性60代)
- ▶ 原発に関しては答えようがない。どう知恵を絞っても土の中からウランとかいうものを取り出した時から、地球破滅を加速させた。大々的なゴミを造った。文明の人類の行きつく先は滅亡、人間もこの星も生まれたら老いに向かい死滅することに決まっているという宇宙の法則、この星の人類は経済優先、税収増のやり方を戻すことはできない。屋根の上の発電もエアコンの熱風も周りを暑くし駐車以外の所もコンクリートにし草は根こそぎ抜いたり毒で殺したり落ち葉を嫌って木を切る人たち、邪魔にならぬ雪まで排気ガスを出して吹き飛ばし、ちんちくりんの菜園も耕運機で臭い匂いを吐き出して、空気を綺麗にしてくれる草木を目の敵に毒を買って土を汚染している。人々は栄養宗の信者でテレビに映るのは食べ物だらけ、体の中は食べすぎのゴミで難病を作り出し、薬と名付けた毒物も添加物も買って、石油のかすのプラ品を買っては捨てて、税収増で地球はゴミの星人が住めなくなれば人は生まれてこない。他の星の条件の整った若い星に生まれる。エコの問題。エアコンも扇風機も嫌いだから夏は冷凍食品を首に当て、冬は暖かい布を足腰に巻き付け暖房なしで2冬目を体験した。私室温度最低の時、2℃半だった。空气清新だ。(女性70歳以上)
- ▶ 伐採樹木の無料提供を希望します。(男性30代)
- ▶ 県外の地震で震度発表が柏崎だけ出なかったりすることが度重なると、どうしてかと不安がありますが？(男性50代)
- ▶ エネルギーアレルギーがあるとすればみんなで克服したい。次世代のために。(男性70歳以上)
- ▶ 自分さえよければという考え方を市民、国民全員が見直す時期にきていると思います。(女性60代)
- ▶ 申し訳ありません。意見として大雑把ですがそれなりの人達にお任せいたします。宜しくお願い致します。(女性70歳以上)
- ▶ ①安倍首相や、その周辺の一部の人間の思いついた政策などが専門的な知識もなく時間をかけた慎重な検討もなく打ち出されている。そして何か問題が見つかったと場当たりの理屈を作って切り抜けようとする。そのような政府、そして日本は全く信じられない。
②東京電力(株)新潟本社は、柏崎は危険との理由で新潟市にあるという。まずそこが問題点の出発点だと思う。(男性60代)
- ▶ 福島で事故で電力会社、族議員、経済省達の嘘、国会での噛み合わない質疑等、真実を話さない方々、その様なことにならない様、望む。(男性70歳以上)
- ▶ ごみの分別、プラスチック製品をできるだけ使用しないなど、まず身近なものをしっかりしていきたいと思っています。(女性60代)

- ▶ 資料の内容が難しく、十分に理解できず申し訳なく思います。でも、資源やエネルギーに関して考える機会になりました。資源には限りがあることや新たなエネルギーについて考えていかねばならないことなど、正直今まで考えていませんでした。省エネについても料金の節約としか考えていませんでしたが、限りあるエネルギーを大切にするという面で考えなくてはいけないということにも気付きました。スイッチを押せば電気もガスもすべてつきますが、それが当たり前ではないこと、自分の家に問題がなければそれで良いという利己的な考えは良くないことに気づけました。要点がズレていてすみません。（女性40代）

III 別添資料

エネルギー政策に関する市民意識調査のお願い

本市では、これまで石油産業のまち、原子力産業のまちとして歩んできた歴史を踏まえ、柏崎の10年後の将来イメージやその実現に向けた方向性を示す「柏崎市地域エネルギービジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定しました。

近年、世界各地で地球温暖化の進行が原因と思われる異常気象が多く見られ、本市でも、頻繁な豪雨や暴風雨、それによる昨年6月16日のえんま市の中止、昨年夏の35℃を超える連日の猛暑やコメへの影響、今冬の極端な小雪など様々な影響を受けています。

本ビジョンでは、こうした環境問題にも対応し、脱炭素社会である「エネルギーのまち3.0」を将来像として掲げ、その途上として、まずは地域資源を最大限活用する低炭素社会に向けて、徐々にではありますが確実に原子力を減らす「再生可能エネルギーと原子力のまち2.5」を進め、新たなエネルギーのまちの形成を目指しています。

現在、エネルギーの地産地消と安価で環境にやさしい電力の供給を目指し、将来的には電力を集め、安定させ、市外へ電力供給を行う「地域エネルギー会社」の設立に向けて取り組んでいます。

本調査は、市民の皆様のご意見を伺い、本市の今後のエネルギー政策に反映させることを目的に実施するものです。

本ビジョン及び地域エネルギー会社については、別紙「エネルギー政策に関する市民意識調査用資料」（以下「別紙資料」という。）をご一読ください。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力お願い申し上げます。

令和2（2020）年2月14日

柏崎市長 櫻井 雅浩

調査の実施にあたっては、住民基本台帳から18歳以上の市民3,000人を無作為に選ばせていただきました。また、回答内容は、全て統計的に処理し、集計結果のみ使用します。

<ご記入にあたってのお願い>

1 記入方法

記入は、ボールペン又は鉛筆でお願いします。

2 締切と回収方法

回答をご記入後、同封の返信用封筒にアンケート調査票を入れ、
3月2日（月）までにお近くの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

3 問合せ先

柏崎市 総合企画部 電源エネルギー戦略室

連絡先 0257-21-2324

受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15（祝日は除く。）

エネルギー政策に関する市民意識調査票

アンケートのご回答にあたっては、別紙資料をご一読ください。

【設問 1】 あなたの性別について、あてはまる項目に☑を入れてください。

☐ 男性	☐ 女性
-----------------------------	-----------------------------

【設問 2】 あなたの年齢について、あてはまる項目に☑を入れてください。

☐ 18～29 歳	☐ 30～39 歳	☐ 40～49 歳	☐ 50～59 歳
☐ 60～69 歳	☐ 70 歳以上		

【設問3】あなたのご職業について、あてはまる項目一つに☑を入れてください。

☐	勤め人（常時勤務している人）
☐	勤め人（パート、アルバイト、内職をしている人）
☐	会社や団体等の役員
☐	自営業主（個人で事業（農業含む。）を経営している人や自由業の人）
☐	主に家事・子育てをしている人
☐	生徒・学生
☐	無職
☐	その他（ ）

【設問4】別紙資料1 ページに記載の「本ビジョン」では、将来像の実現イメージを掲げ、再生可能エネルギーや次世代エネルギーの活用、環境エネルギー産業の育成に努め、豊かで持続可能なまちを目指しています。このようなエネルギーのまちづくりについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる項目一つに☒を入れてください。

☐ 重要である
☐ 重要であるとは思わない
☐ 分からない

【設問5】別紙資料2ページに記載の4つの基本方針を掲げ、エネルギーのまちづくりを進めています。この4つの方針のうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

☐ 環境エネルギー意識の向上
☐ スマートエネルギーによる暮らしやすいまちづくり
☐ 環境エネルギー関連産業の確立
☐ 地産地消エネルギーの活用推進
☐ 分からない

【設問6】別紙資料3ページに記載の6つのプロジェクトイメージでは、「本ビジョン」の実現に向けた「柏崎らしさ」をいかした取組（プロジェクト）を実施した後の実現イメージを示しています。この6つのプロジェクトイメージのうち、あなたが最も期待するものはどれですか。あてはまる項目一つに☑を入れてください。

☐ 学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進
☐ 公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上
☐ 住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト
☐ 低炭素型ものづくり産業推進
☐ 柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト
☐ 中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入
☐ 分からない

【設問 7】別紙資料 4 ページに記載の「地域エネルギー会社」が設立されることで次のことが期待できます。あなたが期待することは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

☐ 地球温暖化対策
☐ 環境エネルギー関連産業の創出
☐ 地域経済の活性化
☐ 非常時のエネルギー供給
☐ 安価な電力供給
☐ その他（ ）
☐ 分からない

【設問 8】「本ビジョン」で目指す、新たな環境エネルギー関連産業の創出について、あなたが期待する産業はどれですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

☐ 太陽光発電設備の製造などの再生可能エネルギー関連産業
☐ 風力発電設備の保守や管理などのメンテナンス産業
☐ 再生可能エネルギー機器や蓄電池のリサイクル産業
☐ 水素の製造や供給、燃料電池等の次世代エネルギー関連産業
☐ その他（ ）
☐ 分からない

【設問 9】「本ビジョン」で目指す将来像の脱炭素社会である「エネルギーのまち柏崎（3. 0）」に向けたエネルギー政策として、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる項目すべてに☑を入れてください。

☐ 太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの拡大と推進
☐ 水素などの新しいエネルギーの開発と普及
☐ 原子力の推進
☐ 省エネの徹底
☐ その他（ ）
☐ 分からない

☐	全号機の再稼働が必要
☐	できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要
☐	徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする
☐	直ちに全号機廃炉にすべき
☐	分からない

※原子力発電所の廃炉作業に係る技術や製品開発、廃棄物処理など、様々な可能性を新たな産業に結び付けること。廃炉作業には1号機あたり、約30～40年、約700～800億円掛かると言われています。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ☐ | 重要である |
| ☐ | 重要であるとは思わない |
| ☐ | 分からない |

[illegible]

回答をご記入後、同封の返信用封筒に本調査票を入れ、
3月2日（月）までにお近くの郵便ポストにご投函ください。
切手は不要です。

柏崎市地域エネルギービジョン（概要版）

～ 新たなエネルギーのまち 柏崎3.0へ ～

目的

柏崎市は、これまで石油産業のまち、原子力産業のまちとして歩んできた歴史を踏まえ、「次世代エネルギーの活用による温暖化対策の推進」、「エネルギー・環境産業の創出」を据え、市民が豊かさを享受できるまちづくりを行います。

そこで、柏崎の10年後の将来イメージやその実現に向けた方向性を示す「柏崎市地域エネルギービジョン」を策定し、それを基に再生可能エネルギーや次世代エネルギーの活用、環境エネルギー関連産業の育成に努め、豊かで持続可能なまちを目指します。

目指す将来像

これまで柏崎市は、「石油産業のまち」（1.0）、「原子力産業のまち」（2.0）として発展し、我が国の産業の発展や首都圏の電力需要を支えるなど、国のエネルギー政策に大きく貢献してきました。そして、これからは地球環境にやさしく持続可能な社会において、将来世代も豊かな生活を送ることができるよう、脱炭素社会である「エネルギーのまち柏崎3.0」を将来像として目指していきます。

将来像である「エネルギーのまち柏崎3.0」への途上として、「再生可能エネルギーと原子力のまち」（2.5）を進めることにより、一人一人が生活の利便性を損なわず、エネルギーを効率的に使い、持続可能で豊かな生活を送る「スマート市民のまち」、全ての市民や事業者が柏崎の地域エネルギーを最大限に活用し、環境エネルギー関連産業が発展・高度化している「ALL柏崎でつくる新たなエネルギーのまち」への道筋をつけ、「エネルギーのまち柏崎3.0」の実現を目指すこととします。



将来像の実現イメージ

市民一人一人が、エネルギーのまちに誇りを持っている、
将来にわたり持続可能な環境にやさしいまち

エネルギーをスマートに使い、エネルギーコストが低くなることにより、
地域企業が活性化しているまち、市民生活が豊かなまち

市民生活や地域企業が豊かになることにより、地域内の経済活動が
より活発となり、環境エネルギー産業が発展しているまち

スマートなエネルギー利用と環境エネルギー産業による炭素生産性が向上しているまち

地域資源である再生可能エネルギー、地産地消エネルギーの導入推進により、
災害時などでもエネルギー供給が確保され、安心できるまち

市外にエネルギーを供給する地産外消エネルギーによる豊かなまち

本市における新たな産業の柱である環境エネルギー産業が確立・高度化することにより、CO₂排出量と吸収量が均衡する社会＝脱炭素社会へと向かい、地球温暖化を率先して防ぎ、持続可能に発展するまちとなっている。

「エネルギーのまち 柏崎 3.0」へ

スマート市民のまち

ALL柏崎でつくる新たなエネルギーのまち

柏崎3.0

柏崎2.5

柏崎1.0

石油産業
のまち



1900年代

柏崎2.0

原子力産業
のまち



1980年代～現在

再生可能エネルギー
と原子力のまち



2030年

脱炭素のまち

- CO₂排出量の徹底削減により、CO₂排出と吸収のバランスを達成
- 環境エネルギー産業の確立

持続可能な社会へ

2050年～

課題

将来の自動車等の産業構造の
変化への対応

本市のエネルギー消費構造転換・
多様なエネルギー確保

将来の廃炉に向けた市内の
インフラ活用・技術蓄積

新たな主要産業としての
環境エネルギー産業の育成

次世代エネルギーに取り組む
研究体制構築

基本施策

基本方針1

環境エネルギー意識
の向上

- ・ 学校教育・社会教育における環境エネルギー教育の充実
- ・ エネルギーのまちとしてのシビックプライドの醸成
- ・ 産学官金連携による環境エネルギー関連産業の技術開発推進
- ・ 市民主体の情報発信・広報活動

基本方針2

スマートエネルギーによる
暮らしやすいまちづくり

- ・ 多様なエネルギーの自給による災害・変化に強いまちづくり
- ・ 太陽光発電と蓄電池、IoTの活用によるスマートハウスの普及推進
- ・ 高気密・高断熱・高効率機器による省エネルギー推進
- ・ 環境エネルギー関連産業における人材育成

基本方針3

環境エネルギー関連
産業の確立

- ・ 地産地消エネルギー導入・省エネルギー対策支援による事業者の脱炭素化の加速
- ・ 環境エネルギー関連技術・サービスの開発によるものづくり産業の活性化
- ・ 原子力発電との共存に向けた安全技術・廃炉産業の育成

基本方針4

地産地消エネルギーの
活用推進

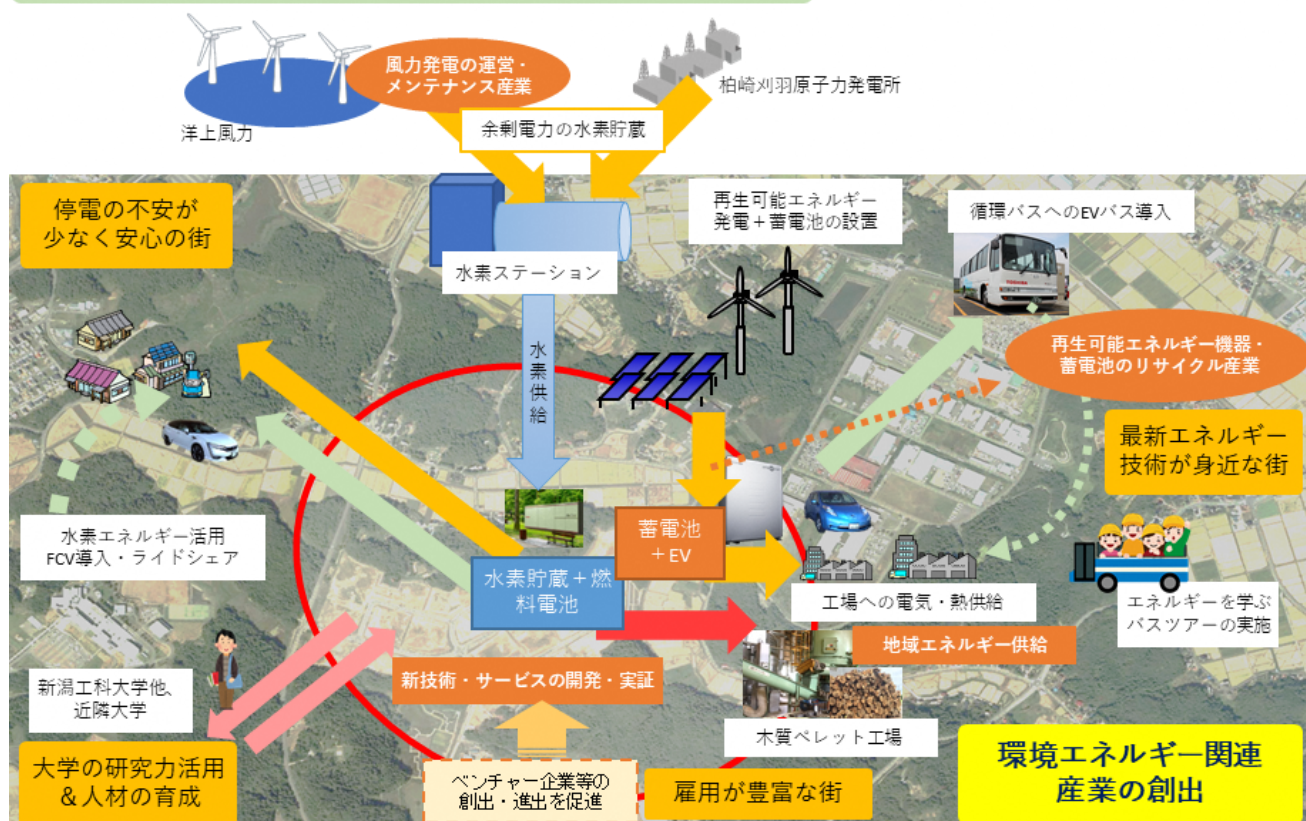
- ・ 地産地消エネルギー推進に向けた地域エネルギー会社の設立検討
- ・ 市民による身近な地産地消エネルギー推進
- ・ 地中熱や雪氷熱などの地産地消エネルギーの活用
- ・ 再生可能エネルギー・次世代エネルギーを活用したEV・FCVの普及
- ・ 水素エネルギー・メタンハイドレートの活用・導入の研究

ビジョン実現に向けた「柏崎らしさ」をいかしたプロジェクトイメージ

学校等への再生可能エネルギー導入による次世代に向けた環境教育の推進	● 小中学校及びその通学路に太陽・風・地中熱などのエネルギーを活用した再生可能エネルギー設備を導入 ● 再生可能エネルギーに関する環境教育を行うことによる「エネルギーのまち」としてのシビックプライドの醸成
公共施設の再生可能エネルギー導入による暮らしやすさ向上	● JR柏崎駅前から新庁舎までのアプローチに地中熱や太陽光発電、蓄電池などの再生可能エネルギー設備を導入 ● 身近な防災拠点に災害時の停電に備えたバックアップ電源がある安心なまちづくり
住まい・暮らしの地産地消エネルギー活用プロジェクト	● 高気密・高断熱・高効率機器を備えた省エネルギー型住宅、スマートハウスの普及 ● 生活の中で利用する店舗や公共施設等における地中熱、太陽熱、木質バイオマス等の再生可能エネルギーの導入・活用
低炭素型ものづくり産業推進	● BEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）やIoT機器導入による生産性や品質の向上及び低炭素型の事業構造への転換、地域産業の基盤強化、競争力の向上 ● 低利融資制度の創設など産官金連携による支援の実施
柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト	● スマートファクトリーやスマートコミュニティ、スマートグリッド（地域電力供給会社）の実証実施 ● 新たな環境エネルギー関連産業が創出、地域産業の活性化
中山間地域での地域資源活用型再生可能エネルギー導入	● 雪氷熱を活用した貯蔵による農産品等のブランド化や販売期間の拡大による販売額向上の実現 ● 小水力発電を活用したスマート古民家の実現

プロジェクトイメージの概要図

柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクト 概要図



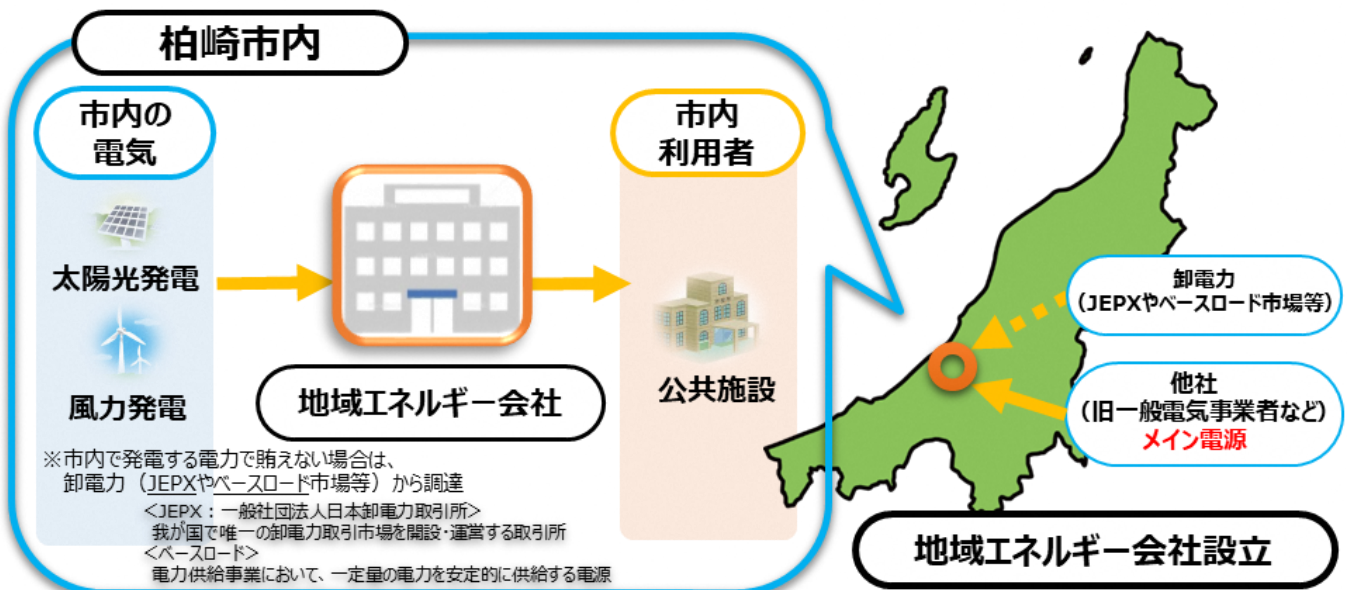
地域エネルギー会社の設立イメージ

※R1.12柏崎市地域エネルギー会社
実現可能性調査中間報告資料より

本市では、現在、エネルギーの地産地消と安価で環境にやさしい電力の供給を目指し、将来的には電力を集め、安定させ、市外へ電力供給を行うなど「エネルギーの拠点化」を目指し、柏崎市地域エネルギービジョンに掲げる脱炭素社会の実現に向けた中核を担う「地域エネルギー会社」の設立に向けて取り組んでいます。

現時点における、目指す地域エネルギー会社の方向性は下図に示すとおりです。

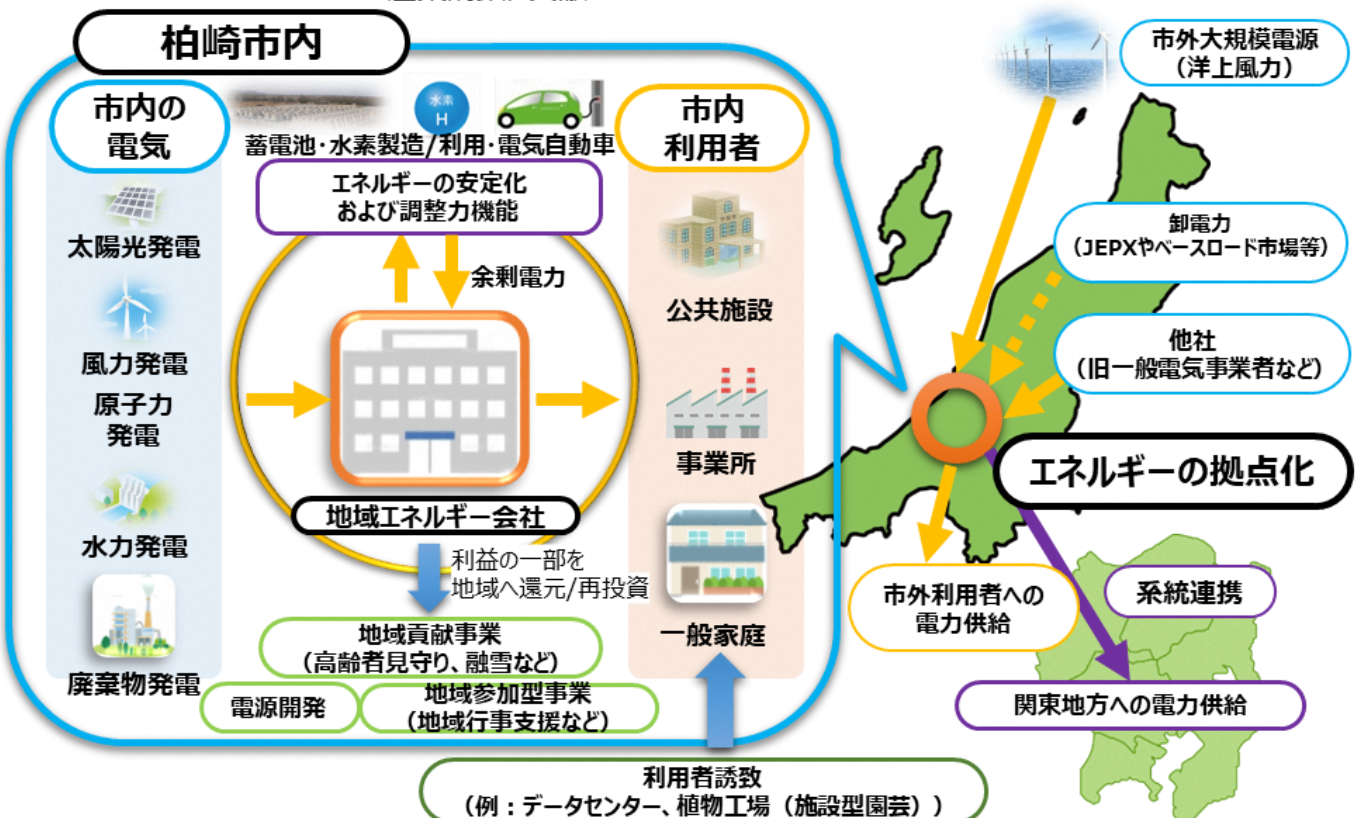
<会社設立当初> 電力小売事業の確立に向けたスモールスタート



事業拡大

<将来構想>

地域エネルギー会社がエネルギーの拠点化地域の中核企業となり、地場産業の活性化および産業誘致に貢献



柏崎市総合企画部電源エネルギー戦略室
 〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号
 Tel 0257-23-5111 (代) Fax 0257-24-7714
 E-mail dengen@city.kashiwazaki.lg.jp URL <http://www.city.kashiwazaki.lg.jp>